

文学

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義で日本文学においては、日本近代文学の巨匠夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは何か、彼の文学の人生についてアプローチし彼の心を理解する。中国文学から受けた影響、そして西洋文学から受けた影響を学ぶことで漱石についての理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス明治時代の日本文学について説明する。
2	夏目漱石という人物について、人生歴、交友、側面からアプローチする。
3	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
4	熊本小温泉を舞台にした『草枕』の背景について初期の文学観について学ぶ。
5	『草枕』を読みながら作者の西欧文化に対する考えを理解する。
6	夏目漱石のイギリス留学について説明する。
7	『永日小品』を読みながら夏目漱石がイギリスに対する印象を理解する。
8	『永日小品』の「下宿」を解説する。
9	『永日小品』の「印象」を解説する。
10	『永日小品』の「昔」を解説する。
11	『永日小品』の「過去の匂い」を解説する。
12	『永日小品』の「暖かい夢」を解説する。
13	夏目漱石の作品を読みながら中国文学から受けた影響を理解する。
14	『草枕』を読みながら作者の東洋文学に対する考えを理解する。
15	夏目漱石の作品を学んだ総まとめ。

【履修上の注意事項】

夏目漱石の作品を読んでいくが講義の時間だけでは限りがあるので、予習と復讐など積極して頂ければよりスムーズに講義が進むことができる。

【評価方法】

授業内に課す小レポート（40点）＋学期末試験（もしくは学期末レポート）（60点）

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

課題図書は授業時に適宜紹介する。

心理学 I

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

対人サービス領域の専門職に必要な心理学理論、心理学的な支援技法を学習し、心理学的な視点から人間を理解し、個人が直面し、抱える問題を心理学的に捉えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、心理学における”行動”
2	感覚・知覚の現象、理論と心理学的理解
3	欲求・感情の理論と心理学的理解
4	認知と動機づけの理論と心理学的理解
5	記憶・学習・知能（創造性）の理論と心理学的理解
6	成長と発達の理論、老化の現象の心理学的理解
7	発達段階と発達課題、心理的危機の理解
8	集団、組織、社会と個人の関わりの理解
9	パーソナリティ、性格の心理学的理解
10	環境への適応とストレス、対処行動の理解
11	ストレス症状とこころの健康の心理学的理解
12	心理学的支援技法ー心理検査、アセスメントーの理解
13	心理学的支援技法ーカウンセリング、相談支援技法ーの理解
14	心理学的支援技法ー多様な心理療法ーについての理解
15	まとめ

【履修上の注意事項】

途中でレポートを課します。シラバスに沿った進行に合わせてテキストの予定ページを確かめ、予習を行うこと。授業中に配布されたプリント内容をテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること

【テキスト】

テキスト『心理学 カレッジ版』医学書院

【参考文献】

必要の都度、指示する

法学 I

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

今日の社会で要求される法感覚、さらに私たちが日常生活を送る上で必要な法知識を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①社会生活における法的作用および役割、②民法の財産法および家族法の基本的な考え方、③医療・福祉サービス利用者の権利とその救済方法、④成年後見制度および日常生活自立支援事業、⑤医療・福祉職の専門性と法的責任

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	法と日常生活——講義計画の紹介、何をどこまで学ぶか、法というものの考え方
2	家庭生活と法（1）——親族の範囲・効果
3	家庭生活と法（2）——婚姻・離婚とその効果
4	家庭生活と法（3）——相続の一般原則、法定相続と遺言相続、相続をめぐる諸問題
5	消費生活と人権（1）——悪質商法の法的問題点、物権と債権の基本的異同
6	消費生活と人権（2）——クレジット取引の仕組み、契約の拘束力・相対性
7	刑事手続きと人権（1）——法的責任、犯罪と刑罰、刑務所と前科
8	刑事手続きと人権（2）——不法行為責任と刑事責任の異同、行政上の処分の独自性
9	医療・福祉サービスに関わる法（成年後見制度と日常生活自立支援事業、行政行為と行政争訟）
10	医療・福祉専門職の根拠法（医療・福祉職の専門性および資格、社会福祉各法の適用対象者）
11	医療・福祉職の連携（看護・介護事故、看護と介護の関係、職務の専門性と就業問題）
12	病院・施設の設置基準と法律問題（医療・福祉サービスの公共性、設置基準の法的拘束力）
13	障害者の雇用・就労支援（障害者雇用促進法、法定雇用率、勤労の権利と義務）
14	ふたたび人権を考える（雇用対策と差別の禁止、労働市場における公正、人権の普遍性）
15	医療・福祉職と法（高齢社会における課題と役割分担、行為準則としての法）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

法学Ⅱ（日本国憲法）

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療・福祉さらには教育の実践にあたって必要な憲法感覚を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

- ①日本国憲法の基本原理、②基本的人権の意義および機能、③基本的人権を保障するための仕組み（国および地方公共団体の組織・権能・財政）、④行政情報へのアクセス（情報公開）、⑤行政の役割と法治国家原理（行政行為、行政手続き、行政不服審査・行政訴訟）

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	取引社会と医療・福祉の権利（取引社会のルール、契約原理の修正、国家と個人）
2	日本国憲法の考え方（人権規定の私人間効力、裁判例の分析、人権という思想）
3	日本国憲法の構成（三つの基本原理、基本的人権のカatalog、人権保障の仕組み、特別条項）
4	基本的人権と公共の福祉、基本的人権の主体（内在的制約と外在的制約、外国人・法人の人権）
5	プライバシーの権利と個人情報の保護、情報公開制度（行政情報へのアクセス）
6	自己決定権の尊重と医療・介護（インフォームドコンセント、身体拘束の禁止）
7	自由権（とくに人身の自由、少年の刑事手続き、資格制限と社会復帰）
8	法の下での平等と合理的差別（男女共同参画、セクハラと雇用機会均等法）
9	家族生活における平等（介護と扶養、介護保険制度導入の背景）
10	社会権の思想（平等権から社会権へ、生活保護法の基本原理と裁判例）
11	高齢社会における社会保障（社会保障の法体系、高齢者と住居、看護・福祉の労働）
12	その他の基本権——参政権、受益権（施設入所高齢者・障害者の参政権保障、国家賠償請求権）
13	国家の機構（三権の抑制と均衡、裁判所の仕組み）
14	財政、地方自治（財政の基本原則、自治体の行政権・立法権、行政争訟）
15	医療・福祉と日本国憲法（民主主義と少数者の人権、統治機構の役割）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

社会学 I

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会理論による現代社会の捉え方について、生活の理解について、人と社会の関係について、社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会システム(システム、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	社会変動について(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化など)
3	人口について(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化など)
4	地域について(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会など)
5	地域について(過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織など)
6	社会集団及び組織(社会集団の概念、第一次・第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト)
7	社会集団及び組織(アソシエーション、組織の概念、官僚制など)
8	家族について(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能など)
9	生活について(生活構造、ライフステージ、消費、生活様式、ライフスタイル、生活の質)
10	人と社会の関係について(社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマなど)
11	社会問題について(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱など)
12	具体的な社会問題について(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除など)
13	具体的な社会問題について(ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など)
14	生活支援と福祉について(生活の概念、福祉の考え方とその変遷など)
15	生活支援と福祉について(自助・相互・共助・公助など) ・まとめ

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読みまとめてから授業に臨み、授業後は自分でまとめたものと学んだ内容を比較して復習をすること。

【評価方法】

テスト80% 授業中の態度20%

【テキスト】

「社会学入門」 秋元律郎 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

教育学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

自分が既にもっている教育に関する「常識」を踏まえつつ、それを超えて「教育」を「科学（学問）」的にとらえることができるようになる。「『教育』を根本から考える」作業を通して、自分なりの「教育観」をもち、今日の教育課題について主体的に考える態度をもつことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	教育とは何か
3	心身の発達
4	学校の歴史
5	子どもの歴史 ①古代・中世
6	子どもの歴史 ②教育対象としての子ども
7	子どもの歴史 ③ルソーによる「子どもの発見」
8	近代教育の思想と実践 ①ペスタロッチ
9	近代教育の思想と実践 ②ヘルバルト、フレーベル
10	近代教育の思想と実践 ③新教育運動
11	アメリカにおける進歩主義教育 ①前史：超越主義の教育思想（エマソン、ソロー）
12	アメリカにおける進歩主義教育 ②前史：超越主義の教育思想（ブロンソン・オルコット）
13	アメリカにおける進歩主義教育 ③超越主義から進歩主義へ
14	アメリカにおける進歩主義教育 ④デューイの教育哲学
15	現代の学校教育をめぐる論点

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教職論』（ミネルヴァ書房、2017年）

【参考文献】

授業内において適宜紹介する。

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	専門職として発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～発達理論、発達段階、発達課題、発達と学習の関係
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～親との関係性と子どもの行動
5	認知発達～子どもの遊びと社会性の広がり
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達～感情発達が行動に与える影響
8	仲間関係とこころの理解
9	道徳性と向社会的行動の発達～集団の中で学ぶもの
10	児童期の発達の特徴～学校教育という環境と発達課題
11	学校のなかでの子ども～学びを支える指導の在り方
12	発達の多様性の理解～発達をつまづきや多様化する社会の中の子どもの困り感
13	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成
14	成人期から老年期の発達と課題
15	発達と学び～生涯学習と生涯発達支援

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。復習においては、キーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、レポートにて評価する。フィードバックについては希望者に対し個別でレポートのコメントを行う。

【テキスト】

『新・プライマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜紹介する

哲学

担当教員 田畑 博敏

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目「哲学」は、古代ギリシャに始まり、中世・近代のヨーロッパを通じて発達し、現代では世界中の多くの国で研究され学ばれている科目です。日本では、自然科学と同様に、明治時代にヨーロッパから輸入され、現在、多くの大学で教えられています。哲学の特徴は、常に物事の根源にさかのぼって、探究することです。探究の対象は森羅万象、探究手段は理性とことばによる論証です。本講義では、先行の哲学者の考えを参考にして、徹底的に考え抜き、自分なりの意見を表現できる力を養うこと、を目標にします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	哲学とは何か、何が存在するのか、存在論を概観する：教科書序文および第一講義・第1.1節
2	存在のあり方、性質と関係、物とプロセス、部分と集まり：教科書第一講義・第1.2-1.4節
3	種と普遍者、可能的対象と虚構的对象：教科書第一講義・第1.5-1.6節
4	存在論の諸区分、領域的VS形式的、応用的VS理論的：教科書第一講義・第2.1-2.2節
5	形式的存在論VS形式化された存在論、存在論の道具としての論理学：教科書第一講義・第2.3-2.4節
6	メタ存在論、道具としての論理学（続）：教科書第一講義・第2.5節および「まとめ」、プリント
7	世界についてどう語るか、思考と表現、存在への関わり：教科書第二講義・第1.1-1.2節
8	パラフレーズ、修正的VS解釈的：教科書第二講義・第1.3節
9	すぐれた理論の条件、単純性と説明力：教科書第二講義・第2.1-2.2節
10	非クワイン的メタ存在論：教科書第二講義・第2.3-3.1節
11	非クワイン的メタ存在論（続）：教科書第二講義・第3.3節および「まとめ」
12	存在者をどのように分類するか？ カテゴリーと形式的因子：教科書第三講義・第1.1-1.2節
13	4 カテゴリー存在論における形式的関係：教科書第三講義・第2.1-2.2節および「まとめ」
14	ものが性質を持つということ：教科書第四講義・第1.1-1.3節
15	実在論の擁護：教科書第四講義・第2.1-2.3節

【履修上の注意事項】

講義終了後、本講義で「コミュニケーション・カード」と名づける小ペーパーを提出してもらいます。これには、予習の結果（重要と思われた3つのキーワードを書く）、講義を受けての感想、講義で学んだこと、講義についての注文など、を書いてください。

【評価方法】

コミュニケーション・カードの提出により「意欲的な受講態度」を評価し（20%）、中間レポートで「基本的理解」の度合いを評価し（30%）、最終レポートで「総合的理解と独自の思考力」を確認する（50%）、というやり方で、総合的・全体的に評価します。

【テキスト】

倉田剛「現代存在論講義Ⅰ：ファンダメンタルズ」新曜社（2017年）¥2200＋税

【参考文献】

講義の進行に応じて、適宜、指示します。

倫理学

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成31年度は閉講

【授業のねらい】

倫理が各分野で要求される時代に日本もようやく入りました。学問としての倫理学は、近代的な人間観に立脚しており、その基本形をまずドイツのカントとヘーゲルにおいて確定します。次に、20世紀後半に倫理の中核へと登場した「責任」という原理をめぐって、「作為と不作為」を掘り下げて考察します。他者危害の作為は古来から今日まで「万人の義務」であるとされ、現代の我々の倫理観の中に入っておりますが、他方、他者支援の作為は「万人の義務」として感受されていません。このギャップを埋める道をとともに探求できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	I-1 近代的な世界観の確定「人間にとって先なる世界観」優位の倫理観
2	I-1-2 カント倫理学における「道徳性Moralitaet」、個人としての人格と良心
3	I-1-3 同上2
4	I-1-4 ヘーゲルにおける「人倫Sittlichkeit」：倫理の現実化としての国家、市民社会
5	I-1-5 同上2 倫理の現実化としての家族、法、制度、家族
6	I-1-6 近代日本の国家と倫理の一体化
7	I-1-7 現代日本の倫理的状況
8	II-1 作為と不作為という考え方：罪責の二類型の発見
9	II-2 ドイツ・戦後40周年ヴァイツゼッカー大統領演説の場合
10	II-3 不作為の定義付け：作為の変種から対概念の位置へ
11	III-4 不作為の概念分析（回数としての不作為、原因としての不作為）
12	III-5 不作為の特殊形態：「生起するままに放置すること」
13	IV-1 概念枠から現実が初めて見えるということ
14	IV-2 現代日本における不作為問題の事例研究：ハンセン病問題
15	IV-3 同上、薬害問題、いじめ、水俣病問題、アスベスト問題

【履修上の注意事項】

日本の現在進行中の出来事、たとえば、水俣病関西訴訟判決以降の様相、ハンセン病問題、薬害肝炎訴訟、中国残留日本人孤児問題、医療過誤など、活字メディアによく目を通して、それらを切抜きして、各自が独自の教材をつくるという意欲が生まれます。

【評価方法】

毎回の感想文提示=30点、レポート提出=20点、定期試験=50点。

【テキスト】

山本 務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社）
R. ヴァイツゼッカー著、山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）。

【参考文献】

講義中に適宜教示。

ボランティア論

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【教育目標】支援される側、支援する側という区分ではなく、共に助け合い生きる社会の実現のために、地域社会や国内外で社会貢献できる人材の育成を目的とする。
ボランティアに関する基礎知識を理解し、実践力を修得する。

【授業の展開計画】

基本的に講義で基礎知識について学んだ後にグループ討論を行い、発表するという順番ですすめるため、事前に課題についてのレポートを作成し、課題に対する自分の考えを整理しておく。
最終的には、ボランティア実施計画書を策定し、実施、評価、報告を行うことを目指す。

週	授 業 の 内 容
1	ボランティアとは？(自助、互助、共助、公助)
2	ボランティア概念の歴史の変遷を学ぶ(宗教、地縁、災害、学問)
3	リスクマネジメントとボランティア保険
4	無償ボランティア、有償ボランティア、ボランティアコーディネーター
5	地域ボランティア(子ども、障がい児者、高齢者ホームレス等への支援)
6	災害ボランティアと災害ボランティアのプロとの出会い
7	ボランティア研修後のボランティア(一般病院、ホスピス、いのちの電話)
8	環境問題を考えるボランティア(水俣病問題と被災者支援)
9	NPO法人の設立と活動
10	国際活動(JICA海外協力隊、NGO活動)
11	支える側、支えられる側、地域共生社会の実現に向けた取り組み
12	ボランティア活動計画の立案(各専門性を活かした活動、個々のストレングスを活かした活動)
13	ボランティア活動の現状と課題
14	ボランティア活動の実施報告
15	ボランティア活動の振り返り

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分) 【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図式化したり表に整理する。(120分) 【その他のアドバイス】講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合は、講師に質問する。

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習態度の確認(10%)、2. ボランティア計画書作成・実施・報告書作成・報告(70%)、3. レポートによる評価(10%)、4. 講義における質疑応答状況(10%)、
出席重視(5回以上の欠席は定期試験が受験不可)：学則により、欠席回数が講義回数の三分之一を超えると、定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】

大熊由紀子著『恋するようにボランティアを[優しき挑戦者たち]』ぶどう社 2008年
その他、適宜、資料を配布する。

【参考文献】

三本政之・朝倉美江(編著)『福祉ボランティア論』有斐閣アルマ 2007年
田尾正雄・川野祐二(編著)『ボランティア・NPOの組織論—非営利の経営を考える—』学陽書房 2010年

カウンセリング論

担当教員 忽那 かずみ

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他者援助において基本となる代表的なカウンセリング理論を理解し、それぞれのカウンセリングの実践における本質的な考え方や方法上の相違点を理解することができる。また、それぞれのカウンセリング理論および密接に関係する心理検査の学修やワークを通じて自己理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションと序論
2	カウンセリングの基礎
3	カウンセリングの実際
4	精神分析療法の理論と実際
5	来談者中心療法の理論と実際
6	行動療法の理論と実際
7	論理療法の理論と実際
8	認知療法の理論と実際
9	認知行動療法の理論と実際
10	ゲシュタルト療法の理論と実際
11	交流分析療法の理論と実際
12	日本の心理療法の理論と実際
13	箱庭療法とコラージュ療法（切り抜いてもよい雑誌2～3冊、はさみ、のりを持参すること）
14	カウンセリングと心理検査
15	カウンセリングと精神疾患

【履修上の注意事項】

第1回目の講義にて出席に関する重要な説明をします。テキストで事前学習して下さい。講義時間内に心理検査の実施をします。毎回振り返りを行い、理解を深めてください。講義では実際のケースを取り上げたり、具体例を話すことがあります、また、演習・グループワークの中で個人的な話が出されることもありますので、個人情報扱いには細心の注意を払い、絶対に口外してはいけません。演習・グループワークでは、他の人の意見を否定・批判をしない、違う意見も尊重する、発言は最後まで聴く、そして全員が発言することをルールとします。

【評価方法】

定期試験50%、演習（ディスカッション、グループワーク、授業態度等を含む）20%、振り返りシート（レポートを含む）30%

【テキスト】

山蔦圭介著、宮城まり子監修『基礎から学ぶ カウンセリングの理論』、産業能率大学出版部

【参考文献】

必要の都度、指示します。

体育

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

心身の健全な発達の促進、運動やスポーツに内在する楽しみや技能、健康、体力の保持・向上・増進のための運動処方などを総合的・実践的に自ら把握できるようになる。

【授業の展開計画】

1. 運動行動と身体とのかかわりを説明できる
2. 運動しないと身体へどのような影響が考えられるか説明できる
3. 身体組成から見た運動行動の大切さについて説明できる
4. 無酸素運動について説明できる
5. 有酸素運動について説明できる
6. 筋肉の種類から見た運動の適正について説明できる
7. 運動の強度と運動時間について説明できる
8. 運動とエネルギー供給の関係について説明できる
9. 運動の種類と循環器の関係について説明できる
10. メタボリック理解とその対策について説明できる
11. 運動と栄養・休養との関係について説明できる
12. 運動によって引き起こされる運動障害について説明できる
13. トレーニングの種類とその効果について説明できる
14. 運動を行うに時に注意すべき事項について説明できる
15. 健康維持のための運動について説明できる

【履修上の注意事項】

授業前に資料の該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、測定結果を500字程度の文章で所定の提出用紙にまとめておくこと。

体育資料を毎時間持参すること。

演習授業は体育着で行うこと。

【評価方法】

演習レポート30%、自主的学習態度10% 課題レポート20% 体育ノート作成40%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

運動生理学 講談社 岸恭一

比較文化論

担当教員 金 蘭九、安藤 学、高 継芬、未定

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、欧米諸国やアジアの文化・社会・価値観・人々の考え方を、具体的な事例に基づいて日本と比較し、異文化理解を図ると共に、人間と文化の総合的な関係を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。中国あるいは東南アジアの文化について（安藤・高）
2	日韓文化の遠近（金）
3	医療と福祉・日本と韓国（金）
4	障害者福祉の基本・国際比較（金）
5	メディアを通じた異文化理解（未定）
6	映画と社会、文化（未定）
7	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間1（未定）
8	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間2（未定）
9	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間3（未定）
10	中国人の人間愛について（高）
11	中国人の結婚文化について（高）
12	日本と中国の教育政策について（安藤・高）
13	中国料理の由来について（高）
14	中国茶の文化について（高）
15	中国の孫子兵法と日本の太平洋戦争（安藤・高）

【履修上の注意事項】

授業前に資料（プリント）などを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

レポート80%、発表20%で評価する。

【テキスト】

毎回、資料（プリント）などを用意し、配布する。

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

英語 I

担当教員 角田 俊治

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

4年制の大卒者として最低限求められる英語力の養成を目的とし、英語による情報の受信と発信が可となることを目指す。身近で初歩的な科学の話題を扱ったテキストを用い、英語の読解、語彙力、ライティング力を包括した学習を行い、一部、聞き取りの練習も行ってコミュニケーション能力の基礎を向上させる。更に、語学が教養・全人教育の一部であることから、英語圏の国々の社会・歴史・文化への関心と知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション. 英語学習の意義、英語の特徴等の説明.
2	Unit 3. Secrets of Primates' Forward-facing Eyes 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
3	Unit 3 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
4	Unit 4. why Are Eggs Oval? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
5	Unit 4 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
6	Unit 7. Mechanism of Sugar Addiction 内容理解、設問演習、聞き取り
7	Unit 7 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
8	Unit 8. Honey Does Not Prevent a Cavity 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
9	Unit 8 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
10	Unit 12. Voice Recognition Sounds Great for Security. 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
11	Unit 12 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
12	Unit 13. Will Space Exploraton Unlock the Secrets? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
13	Unit 13 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
14	プリント(テキストとは異なる英語原文) 演習
15	14回に続けて、英文演習. 及び、これまでの講義の補足及び総括

【履修上の注意事項】

- ・英文の読解のみにならないように、教員作成の補助教材を一定量使用します。
 - ・辞書は必携です。
 - ・展開計画は一部変更することがあります。
- <テキストはリハビリテーション学科のものと同じであるが、講義で扱うユニットは同一ではない>

【評価方法】

試験 70%. 発表 20%. 平常点(受講の積極性等) 10%.
(詳細は初回の講義時に説明)

【テキスト】

石井隆之(他)著
"Science Explorer(身近な科学の世界)" (株)成美堂

【参考文献】

随時、補充教材(ハンドアウト等)配布

英語Ⅱ（医療英語）

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

医療現場での会話や医学・歯学に関するテーマについて、リーディングやライティングを中心に演習を行う。また、からだの代表的な部位の名称について、ボキャブラリーを身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、自己紹介
2	レベルチェック
3	医療現場での会話：ライティング1
4	医療現場での会話：ライティング2
5	医療現場での会話：ライティング3
6	医療現場での会話：リーディング1
7	医療現場での会話：リーディング2
8	医療現場での会話：リーディング3
9	医療現場での会話：リーディング4
10	テスト
11	医学・歯学の読み物1
12	医学・歯学の読み物2
13	医学・歯学の読み物3
14	医学・歯学の読み物4
15	まとめ・補足

【履修上の注意事項】

- ・辞書を必ず持って来ること
- ・中学校レベルの英語力があれば理解可能です。授業に楽しく積極的に参加すれば身につきます。
- ・上記の展開計画は進捗の状況に応じて変更することがあります。

【評価方法】

試験 70%、発表 20 %、授業での取り組み・積極性 20%.

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業で紹介する。

英会話 I

担当教員 池田 裕子

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英会話Iでは、基本的なコミュニケーション能力を習得することを目標とします。特に、英語のリスニング・スピーキングを中心に学び、聞き取り・発音・暗記・会話を繰り返し、多様なタスクに積極的に取り組むことにより、日常生活の様々な場面で実際に役立つ生き生きとした英語を自然と身に着けることができます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	自己紹介文 (vocabulary/ writing)
3	自分の専攻についての説明 (speaking / listening)
4	出身地・場所についての会話 (vocabulary / reading)
5	趣味についての会話 (speaking / listening)
6	空港での会話 (vocabulary / reading)
7	機内での会話 (speaking / listening)
8	観光地での会話 (speaking / listening)
9	レストランでの会話 (speaking / listening)
10	買い物での会話 (speaking / listening)
11	友人の家族宅での会話 (vocabulary / reading)
12	キャンパスでの会話 (vocabulary / reading)
13	病状についての説明 (vocabulary/ writing)
14	観光地での会話 (vocabulary / reading)
15	帰国前の日常会話 (speaking / listening)

【履修上の注意事項】

必ず予習をして授業に臨んでください。

授業中はペアワークによる活動を行いますので、コミュニケーション能力を高めるため、積極的に参加してください。

【評価方法】

予習・授業中の活動・発表 20% 小テスト30% 期末試験50%

【テキスト】

First Time Traveling Abroad 行時 繁 他著 松柏社 1,900 (税別)

【参考文献】

特になし

英会話Ⅱ

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Class Introduction of role play or community project study programme
2	A) Print 1- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 1
3	A) Print 1- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 2
4	A) Print 1- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 3
5	A) Print 1- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 4
6	A) Print 1- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 5
7	A) Print 1 review, preparation for speaking test / B) Review of project work
8	A) Mid-term speaking test 1 / B) Mid-term assessment of project work
9	A) Print 2- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 6
10	A) Print 2- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 7
11	A) Print 2- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 8
12	A) Print 2- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 9
13	A) Print 2- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 6
14	A) Print 2 review, preparation for speaking test / B) Review of project work
15	A) Final speaking test 2 / B) Second-stage assessment of project work

【履修上の注意事項】

Lectures based on prints given to students in class, and audio-visual materials for group study.

【評価方法】

Study plan A) Class participation 10%, personal dictionary 30%, and Speaking tests 60%
 Study plan B) Class participation 30%, project work 70%

【テキスト】

Any English-Japanese Dictionary app for your smartphone and/or an electronic dictionary. (For example, Collins English Dictionary app)

【参考文献】

中国語会話 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、基礎的な日常会話ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	中国について学ぼう 中国語の発音 声調・単母音の学習
2	複合母音・子音の学習
3	人称代名詞、否定、疑問など 浦東空港にて
4	名詞、副詞の用法 タクシーに乗って
5	所在を表す動詞「在」 ホテルでお茶を
6	「的」の省力 場所を表わす代名詞、存在を表わす「有」について学ぶ 私の家族
7	“喜歡”+同市の使い方について学ぶ 趣味は映画です
8	願望を表す助動詞“想” 大学の図書館へ
9	数詞、量詞について学ぶ 放課後
10	前置詞、完了の「了」について学ぶ 上海の交通
11	連動文 地下鉄付近にて
12	助動詞、経験を表わす表現について学ぶ
13	主文述語文、比較の表現 変化を表す表現など ちょっとおなかが空いた
14	結果補語、方向補語について学ぶ 突然の雨
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
 受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

小テスト 20%
 レポート 20%
 試験 60%

【テキスト】

教科書： 『LOVE 上海一初級中国語一』朝日出版社
 辞典： 相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

中国語会話Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、受講者が前期の中国語会話Ⅰで修得基礎知識をもとに、より豊かな中国語の表現力および会話力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	前期の学習内容を復習
2	自分について中国語で表現してみよう
3	家族について中国語で表現してみよう
4	日常生活について中国語で表現してみよう① 上海料理を食べる
5	日常生活について中国語で表現してみよう② おなかがいっぱいです
6	にちじょう生活について中国語で表現してみよう③ 外たんの夜景
7	日常生活について中国語で表現してみよう④ 上海語はおもしろい
8	日常生活について中国語で表現してみよう⑤ ホテルの部屋から
9	これまでの学習内容をふりかえって
10	日常生活について中国語で表現してみよう⑥ どうしたの
11	日常生活について中国語で表現してみよう⑦ 上海は魅力的
12	日常生活について中国語で表現してみよう⑧ またあいましょう
13	大学生のアルバイトを表現しよう
14	留学について中国語を表現してみよう
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
 受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

レポート 20%
 小テスト 20%
 試験 60%

【テキスト】

教科書：『LOVE 上海 初級中国語』 朝日出版社最新版
 辞典：相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

韓国語会話 I

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業では、韓国の文化や伝統の習慣などを理解しながら、基礎的な韓国語会話を習得、簡単な日常の会話ができる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 韓国語の特性及び母音と子音について
3. 韓国語の文章の構造について説明・ハングル文字の書き順の練習
4. 基本的な挨拶に関連する会話について
5. 自己紹介などの簡単な会話
6. 名詞の特別な用法を含めた簡単な会話
7. 韓国文化についてのビデオ鑑賞と説明
8. 簡単な日常生活の会話と文法的な説明・練習 (1)
9. 簡単な日常生活の会話と文法的な説明・練習 (2)
10. 簡単な日常生活の会話と文法的な説明・練習 (3)
11. 簡単な日常生活の会話と文法的な説明・練習 (4)
12. 韓国の映画鑑賞
13. 日常生活場面での簡単な会話についての説明・練習 (1)
14. 日常生活場面での簡単な会話についての説明・練習 (2)
15. 学習した会話の総括的な練習・復習

【履修上の注意事項】

学習した内容の会話を日常の場面で使う。

【評価方法】

1. 授業への参加意欲と発表 50点
2. 授業中のミニテスト 50点 計100点

【テキスト】

やさしい韓国語 (初級)、梁礼先・権点淑・曹恩美 著、朝日出版社

【参考文献】

韓国語会話Ⅱ

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

韓国語会話Ⅰに続けて、韓国の文化・歴史への理解や関心を深めながら、簡単な会話を習得し、日常生活の場面で応用できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「韓流ブーム」に関する日本の若者の見解は？（ディスカッション）
3. 韓国語会話Ⅰの復習－挨拶・自己紹介など
4. 具体的な場面を想定した日常会話（1）
5. 具体的な場面を想定した日常会話（2）
6. 具体的な場面を想定した日常会話（3）
7. 日本と韓国大学との相違点と大学生交流の重要性及びその役割について（特別講演；招聘講師）
8. 日常場面で応用できる会話（1）
9. 日常場面で応用できる会話（2）
10. 日常場面で応用できる会話（3）
11. 韓国の映画鑑賞
12. 韓国語日記・作文の練習（1）
13. 韓国語日記・作文の練習（2）
14. 韓国の文化・医療・福祉の方向性について紹介
15. 韓国への留学・就職に関する情報や諸大学の紹介・韓国留学・就職した先輩からのメッセージ

【履修上の注意事項】

韓国語会話Ⅰを履修していない学生も履修可能。
授業後には、繰り返し練習して日常生活の場面で使う。

【評価方法】

授業参加への意欲・態度及び発表 50点
授業中のミニテスト 50点 計100点

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

やさしい韓国語（初級）梁礼先・権点淑・曹恩美 著、朝日出版社

ドイツ語 I

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

ドイツの文化を、ドイツ語学習を通じて学ぶことを本講義の目的とする。ドイツ語それ自体をも対象としながら、特定の言語構造のなかで思考をおこなうとき、言語が思考に影響をおよぼすという事実を知ることがねらいとする。講義を通じて、学修者はドイツ語の言語としての構造的特性を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (講義の進め方と学習の仕方)
2	名詞の性と冠詞
3	動詞の現在形 (1)
4	冠詞と名詞の格変化
5	動詞の現在形 (2)
6	接続詞
7	定冠詞類 (dieser型) ・疑問代名詞
8	人称代名詞 ・不定冠詞類 (mein型)
9	名詞の複数形
10	分離動詞
11	3基本形 ・過去形と未来形
12	再帰 ・非人称
13	前置詞
14	完了形
15	まとめ (今後の学習指針)

【履修上の注意事項】

独和辞典の購入と教室必携は、授業開始して3回目くらいの時期までに。ドイツ語学習は、辞書のひき方それ自体も学習対象であり、予習と復習のために必須である。

【評価方法】

講義内で合計10回のミニテストを実施し、それらを総合的に評価して最終評価とする。

【テキスト】

プリントを配布する。テキストはとくに指定しない。

【参考文献】

高橋透著『今すぐ話せる！いちばんはじめのドイツ語会話』東進ブックス
橋本政義『あなただけのドイツ語家庭教師』国際語学社

ドイツ語Ⅱ

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ドイツの文化を、ドイツ語学習を通じて学ぶことを本講義の目的とする。ドイツ語それ自体をも対象としながら、特定の言語構造のなかで思考をおこなうとき、言語が思考に影響をおよぼすという事実を知ることがねらいとする。講義を通じて、学修者はドイツ語の言語としての構造的特性を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	形容詞の格変化
2	話法の助動詞
3	形容詞の比較
4	関係代名詞
5	受動・分詞
6	zu不定詞（句）・命令法
7	接続法（1）要求話法
8	接続法（2）非現実話法
9	接続法（3）関節話法
10	指示代名詞
11	数詞
12	まとめ（ドイツ語学習素材のいろいろ）
13	ドイツ語の童話を読む
14	ドイツ語の歌を聞く
15	ドイツ語の映画を見る

【履修上の注意事項】

予習と復習のために辞書を引きまくるという態勢を築いて欲しい。また、テレビ衛星放送でドイツのニュース番組「ZDF」を見るという習慣を持って欲しい。

【評価方法】

講義内で合計10回のミニテストを実施し、それらを総合的に評価して最終評価とする。

【テキスト】

プリントを配布する。テキストはとくに指定しない。

【参考文献】

清水紀子著『すてきなドイツ語』白水社
岡本和子著『30日で話せるドイツ語会話』ナツメ社

障害者言語 I (点字)

担当教員 前田 八千代

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

備考 必ず、指定のテキストと点字器、ワークショップで使用するアイマスクを準備すること。

【授業のねらい】

●一般目標

言語・コミュニケーション文化の一つである点字の技法の学習を通じて、視覚に障害がある人への理解を深め、その支援の在り方を共に考える。情報コミュニケーション支援や移動コミュニケーション支援、福祉制度の学習を通じて、視覚に障害のある人への支援のための実践的な知識と・コミュニケーション能力を養う。点字については、その簡単な読み書きが出来るように基礎的な知識・技能の習得を目標とする。

【授業の展開計画】

●行動目標：

視覚障害の特性に応じた基本的な情報コミュニケーション支援と移動コミュニケーション支援ができる。
点字については、点字で手紙のやり取りができる。

- 01 ガイダンス：①オリエンテーション ②視覚障害のある人の状況 ③まちや家の中にある点字について
- 02 情報コミュニケーション支援
①情報保障と合理的配慮 ②情報アクセシビリティと支援技術 ③分かり易い視覚情報の提供の仕方
- 03 移動コミュニケーション支援
①移動保障と合理的配慮 ②視覚に障害のある人の移動の実際
③視覚に障害のある人への接し方と移動支援技法
- 04 点字の基礎1： 点字の歴史と概要 点字の清音
- 05 点字の基礎2： 点字の器具と書き方 点字の濁音・拗音
- 06 点字の基礎3： 点字の読み方 点字の半濁音・拗濁音・特殊音
- 07 語の書き表し方： ①仮名遣い
- 08 語の書き表し方： ②数字
- 09 語の書き表し方： ③アルファベット
- 10 分かち書き： ①文節分かち書き
- 11 分かち書き： ②複合語
- 12 分かち書き： ③固有名詞
- 13 記号類と点字の手紙の書き方
- 14 福祉制度
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

点字の実技についてはテキスト・配布資料等を参考にし、自宅においても予習、復習すること。視覚に障害がある人の現状を具体的に把握するために、毎回関連の最新トピックスを情報提供し、それをテーマにグループディスカッションなども行う。思考的理解のみならず、身体的理解を深めるためにアイマスクなどを使った体験型ワークショップも実施する。理解と実技を定着させるために、宿題も課する。

【評価方法】

授業での取り組みや態度：15% 宿題提出：15% 課題レポート：20% 試験：50%

【テキスト】

『初めての点訳』第3版 全国視覚障害者情報提供施設協会

【参考文献】

『臨床に必要な障害者福祉—障害者福祉論』（福祉臨床シリーズ9）編集委員会編著 指田忠司共著 弘文堂
『視覚障害教育入門』 青柳まゆみ 鳥山由子著 ジアース教育新社

障害者言語Ⅱ（手話）

担当教員 福田 九

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

最近、ろう者による当事者組織である（一財）全日本ろうあ連盟が中心となって進めている手話言語法制定運動の全国的な取り組み、展開から地域では手話言語条例を制定しているところが増え、手話文化が定着している。手話でコミュニケーションを図るためには、スピーキング能力が不可欠であり、本講義では自分のことを手話で話し、身近なテーマについて手話で意見を述べることができるような力を育成する。

【授業の展開計画】

手話でのスピーキング能力を育成するために、様々な状況やテーマで一般的に使われる表現を学ぶ。基本的な文例表現を通して手話単語の語彙を増やすようにし、ただ手話単語を覚えるだけでなくろう者の暮らしや経験を通してまとまった考えを伝えることができるようにする。併せて実践練習を通して、ことばだけでなくジェスチャーも使いながら自然に手話で話せる能力を身につける。また各講義毎に前回の復習として、手話の読み取りテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（この講義を受講にあたって）
2	講義「手話の基礎知識」
3	実技「手話で自己紹介をする・指文字（大曾根式手指記号）」
4	実技「一日の生活・通勤・通学」編
5	個別テスト（「自己紹介」）
6	実技「趣味・スポーツ」編
7	実技「地名・旅行・観光地」編
8	実技「仕事・職業」編
9	実技「病院・病気」編
10	個別テスト（「手話でスピーチ」）
11	講義「手話を日本語文に翻訳する」
12	実技「手話を日本語文に翻訳する」(1)
13	実技「手話を日本語文に翻訳する」(2)
14	実技「手話を日本語文に翻訳する」(3)
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- 事前・事後学習については、講義毎に指示する（講義に出る前には、わからない言葉、用語の意味をある程度、辞典等で調べ整理して出席することが好ましい）。
- 授業では、パワーポイントと手話で話す（手話がわからない学生はパワーポイントや教科書等の文字情報を通して理解を深めてほしい）。

【評価方法】

試験（筆記・実技）100%

【テキスト】

全日本ろうあ連盟著(2007年)『新手話ハンドブック』,三省堂

【参考文献】

『手話教育今こそ！障害者権利条約から読み解く』高田英一(日本手話研究所長)著他

中国事情 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

中国語の文章を読むことによって中国の古代の文化や現代の中国事情について理解ができる。
 古代の文化は論語を中心に学ぶことができる。
 現代の中国事情について中国の人口、地理、民族、飲食習慣などについて理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション
2	中国の概況
3	中国の電子決済事情
4	中国の習慣
5	中国人の礼儀作法
6	論語①
7	論語②
8	中間まとめ復習
9	中国の観光
10	中国の飲食習慣
11	中国の節日
12	中国の交際礼儀
13	中国の現代の大学生
14	現代中国の抱える問題
15	総括まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート 20%
 小テスト 40%
 試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する

中国事情Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

主として中国の現代事情を理解しつつ、その事象について分析考察します。伝統文化と現代文化の関連性や、中国特有の事情と日本お違いに注目することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション
2	中国の消費観念
3	中国の就職事情
4	中国の教育事情
5	中国の婚姻
6	中国の健康観念
7	中国の定年後の娯楽
8	今までの振り返り
9	中国の医療事情
10	中国の観光事情
11	中国の伝統休日
12	中国の世界遺産
13	中国の伝統習慣
14	中国の伝統礼節
15	総括まとめ

【履修上の注意事項】

事前に授業内容を予習してくるものと事後復習してくることができれば授業がスムーズに進みます。

【評価方法】

レポート40%
小テスト20%
テスト 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介する

アジア文化

担当教員 高 継芬、安藤 学、金 蘭九、李 玄玉

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジアの国々と地域の文化形成過程(文化史)を学修し、それぞれの文化における共通性と異質性を認識することによって異文化への理解を深めることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	タイの文化(その歴史と現在)(安藤)
2	日本と韓国の違い(金)
3	日韓文化の遠近(金)
4	韓国から日本へ伝えられた様々な文化について(李)
5	「飛鳥」という地名の意味、由来(李)
6	日本語の「鳥・とり」と韓国語の「D o r i」について(李)
7	台湾の文化について(高)
8	日中の歴史について(高)
9	日中旅遊観光の文化について(高)
10	日中文化における共通性と異質性 漢字の比較(高)
11	日中文化における共通性と異質性 論語について(高)
12	日中文化における共通性と異質性 衣食住について(高)
13	国際理解異文化理解について(高)
14	日本の文化を知る(高)
15	文化についてのディスカッション(担当者全員)

【履修上の注意事項】

アジア文化の関連する本を事前に読んでいただくと毎回授業内容を復習していただくとスムーズに受講できます。

【評価方法】

レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%

【テキスト】

講義時にプリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する

基礎生物科学

担当教員 檜枝 洋記、水崎 幸一

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔保健学科の開講科目の中には、医療技術者の一員として働く上で必要な共通の教養と専門基礎知識を身に付けるために、生化学、解剖生理学、薬理学、栄養学などが設けられている。これらの生命科学与関わりのある科目の内容を理解するためには、生物有機化学や分子生物学的な基礎知識が必須である。この授業では、生物(特にヒト)の体内での合成や分解(代謝)によって創り出される物質や栄養素、遺伝子(核酸)など、いろいろな有機化合物の構造と機能についての基礎知識を習得し、専門・専門基礎科目の内容のより深い理解に役立つ。

【授業の展開計画】

授業の前半(第1週から8週まで)は、有機化合物を構成する元素やその結合様式、分子の形と混成軌道、官能基の構造と性質など、生体物質を理解する上で基礎となる内容を中心に進める。特に、生体内での代謝で創り出される有機化合物(生化学や栄養学などで必ず出てくるもの)についてわかりやすく解説し、構造式を書ける程度まで学習する。後半は、生物の単位である細胞を構成する主な有機化合物について考え、それらの構造や性質と役割、さらには遺伝子の構造や発現機構についても言及する。

週	授 業 の 内 容
1	生物を構成する元素の特徴 - CHONSPから成る分子の世界(水崎)
2	有機化合物の書き方とアルカン - 分子の形を見る(sp ³ 混成軌道)(水崎)
3	アルケンとアルキン - 分子の形を見る(sp ² 混成軌道とsp混成軌道)(水崎)
4	ベンゼンと芳香族 - 亀の甲の形を考える(水崎)
5	有機化合物の官能基と分類 - 分子の性質を決める原子団(水崎)
6	有機化合物の官能基の性質と反応 - 酸・塩基、酸化・還元反応や脱水反応の産物(水崎)
7	有機化合物の構造異性と光学異性 - この双子兄弟は一卵性?二卵性?(水崎)
8	到達度チェックの中間試験と授業の中間まとめ(水崎)
9	生体を構成する有機化合物 - 糖質と脂質の有機化学的見かたと役割(水崎)
10	アミノ酸の化学 - タンパク質を作る20種類の材料と性質(水崎)
11	タンパク質の構造と機能 - タンパク質の性質と酵素の働き(水崎)
12	核酸の化学 - 核酸を作る5種類の材料と組み合わせの化学(檜枝)
13	遺伝子と核酸 - DNA上の遺伝子の構造と働き(檜枝)
14	遺伝子発現1 - mRNAの発現と調節(檜枝)
15	遺伝子発現2 - mRNAの発現と調節(檜枝)

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で有機化学を履修しなかった、苦手としていた、好きで履修したがもう一度学び直したい、生体を構成する有機化合物の構造と機能などにも少し興味がある学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容をちょっと確認し、また、受講したその日の内に短時間でも復習し、学んだことを記憶に残す努力をする。「わかること」「知ること」を「楽しむ」姿勢で受講するとよい。

【評価方法】

本試験60点、中間試験20点、学習態度(確認小テストを含む)20点

【テキスト】

1. 食を中心とした化学 第4版 (北原重登ら、東京教学社)
2. プリント

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - (齋藤勝裕ら、裳華房)
 これでわかる基礎有機化学(畔田博文ら、三共出版) イラスト生化学入門(相原英孝ら、東京教学社)

環境科学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境問題というものをどのようにとらえるか、またその問題をどのように解決していくかを、自然と人間との関係から考え、その方法を修得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境科学オリエンテーション
2	環境とは何か
3	自然環境と人間
4	地域の自然
5	公害
6	地球・生物圏・生態系
7	水と生活環境
8	都市環境と自然
9	大気汚染
10	人工化学物質と環境
11	放射性物質
12	循環型社会
13	汚染者負担の原則
14	今後の環境問題
15	環境問題の解決策

【履修上の注意事項】

努めて出席すること。今あなたが生きている環境に目を向け、あなたの子孫が生きるであろう環境を考えるきっかけになることを期待する。

【評価方法】

授業中の取り組み (50%) レポート提出 (50%)

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する

公衆衛生学

担当教員 徳永 淳也

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境や経済的要因、社会階層等が個人の健康影響要因として再考されており、医療が対象としてきた患者としてではなく、生活者である人の健康問題を社会という文脈で考える視点と態度を養うことが肝要である。本科目では、社会環境の中で、個人としてだけでなく集団として人の健康を捉えることの意義と方法を、具体的な公衆衛生活動の各展開場面において紹介し考察する。多様な健康観を社会的視点から捉え思考する態度の重要性を認識し、人の健康への公衆衛生学的接近に関する手法と考え方を理解できることを目指す。

【授業の展開計画】

1. 公衆衛生学総論：公衆衛生学的接近とは何か
2. 環境と人間：環境保健概論
3. 環境保健を捉える諸相とは何か
4. 環境保健の評価と管理の理解
5. 保健統計概論：測定指標と現状の理解
6. 疫学概論：疫学の歴史的理解と研究デザインの理解
7. 感染症：疾病予防と健康管理
8. 地域保健と保健行政の概観
9. 保健医療の制度と法規：医療従事者における社会的、制度的環境の理解
10. 母子保健に関する取り組みの歴史的変遷および現状と課題の理解
11. 学校保健：子どもの健康状況を把握し学校保健の構成領域とその役割の理解
12. 産業保健：労働者の多様かつ特異的な健康問題の理解
13. 老人保健・福祉：高齢化の現状を理解し施策内容を関連づけて説明できる
14. 精神保健：精神保健における歴史的取り組みを理解し精神保健福祉活動を理解する
15. 国際保健：健康問題のグローバル化とその組織的対応策を理解する

【履修上の注意事項】

各講義では確認課題を毎時間課すので欠席しないように努めること。健康問題に対する人や社会の考え方、歴史的変遷における論点を整理・理解することが大切である。日頃から健康問題とその解決法について社会という枠組みから考える習慣を身につけること。講義で取り扱う領域を教科書等により予・復習するように勤めること。(60分)

【評価方法】

各講義で行う確認課題により100%評価する。適宜、課題には解説を加える。

【テキスト】

シンプル衛生公衆衛生学2019 鈴木庄亮監修、小山洋、辻一郎編集、南江堂

【参考文献】

最新歯科衛生士教本 保健生態学 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
新歯科衛生士教本 衛生学・公衆衛生学 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

環境衛生学

担当教員 星野 輝彦

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境因子と人との相互関係を理解し、生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準
3	環境化学：生態系と物質動態
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨
5	環境因子と健康：化学的因子（重金属、農薬、工業薬品など）の健康への影響
6	環境因子と健康：化学的因子（環境ホルモンなど）の健康への影響
7	環境因子と健康：生物学的因子（病原微生物など）の健康への影響
8	環境因子と健康：物理的因子（放射線など）の健康への影響
9	環境因子と健康：物理的因子（温熱、圧力、騒音など）の健康への影響
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒
13	生活環境と健康：室内の汚染物質
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント

【履修上の注意事項】

授業前にプリントを読み、わからない語句を調べる。また授業で得た知識を復習しておくこと（60分）。出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の感想を書くこと。

【評価方法】

試験90%、レポート10%

【テキスト】

各講義の際に資料を配布する。

【参考文献】

「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版）
「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄（南江堂）

生命倫理

担当教員 柴田 恵子、松本 鈴子、川本 起久子、二宮 球美、小林 幸人、村田 宮彦

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生命に関する倫理的諸問題について、人はどのように対処すべきだと考えられるかについて理解する。先端医療を始めとするバイオテクノロジーの発展がもたらす恩恵とそれにともない間われることになった生命の意味について、基本的概念とその問題点の学びから生命倫理学に関心をもち、保健・医療・福祉の従事者としての考えを深められるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と生命倫理：生命の質（柴田）
2	インフォームド・コンセント（柴田）
3	尊厳死（川本）
4	安楽死（川本）
5	終末期ケア（川本）
6	周産期医療と生命倫理（松本）
7	小児期の医療・保健と生命倫理（二宮）
8	医療資源の配分（柴田）
9	パーソン論（柴田）
10	パターンリズムと患者の権利（小林）
11	ケアと生命倫理（柴田）
12	自律とwell-being(小林)
13	専門職の役割・責務（小林）
14	倫理の源を考える：規範倫理学の時代（村田）
15	倫理の源を考える：応用倫理学の発展（村田）

【履修上の注意事項】

レポート発表、グループワークを行なうので積極的に授業に参加をすること。課題に対しての自分の意見を準備しておくこと。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

『生命倫理学を学ぶ人のために』（加藤尚武・加茂直樹編）世界思想社

人間工学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、日常の生活環境の整備計画を行う上で「人間工学」的視点がどのように利用できるかを中心に行う。特に、学生が、高齢者や障害者の心身の状態を踏まえた日常生活環境整備のあり方について把握できることを講義の核心とする。

【授業の展開計画】

看護業務や介護福祉業務、またリハビリテーション業務などのコメディカルとしての業務において、身体の負担を軽減する方法を人間工学やボディメカニズムの視点から理解する。また、医療工学（ME）器具、ベッド、椅子、衣服、機器や道具が人間工学的にどのような配慮がなされる必要があるかを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	人間工学の成立過程を歴史的背景から理解する(西島衛治)
2	人間工学の研究手法とは何か、またその応用分野について学ぶ(西島衛治)
3	人間工学を理解するうえで必要な基礎資料を学習する(西島衛治)
4	人間工学がどのように家具全般へ応用されているかを理解する(西島衛治)
5	人間工学がどのようにいすへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
6	人間工学がどのようにベッドへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
7	人間工学がどのように機器への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
8	人間工学がどのように衣服への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
9	人間工学がどのように履物への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
10	人間工学がどのように住宅への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
11	人間工学がどのように高齢者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
12	人間工学がどのように障害者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
13	人間工学と関連分野(リハビリテーション工学)との関係性を考える(西島衛治)
14	人間工学と関連分野(福祉環境マネジメント論)との関係性を考える(西島衛治)
15	人間工学と関連分野(福祉環境工学)との総括的な関係性を考える(西島衛治)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する:反転学習(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノート作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。ICT活用学習など

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習態度の確認(20%)。2. 定期試験や中間理解度確認試験による評価(60%)。3. レポートによる評価(10%)。4. 講義における質疑応答状況(10%)、出席重視(6回以上の欠席は定期試験が受験不可):学則により、欠席回数が講義回数の三分之一を超えると定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】

小原二郎 著「新版 暮らしの中の人間工学」実教出版、2015年

【参考文献】

小川鑛一 著「イラストで学ぶ看護人間工学」東京電機大学出版局、2016年

物理学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

物理学は、自然界のあらゆる出来事に対し、科学的思考によってその本質を明らかにしようという学問です。本講義は、医療・福祉分野において必要となるであろう項目を取上げますが、その学修により、観察事実に基づく科学的思考、分析的思考を身に付けることも目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	力とベクトル、力の合成・分解、作用反作用、力のつり合い
2	力のモーメント、槌子(てこ)の原理、モーメントのつり合い
3	体の構造と槌子、重心と安定性
4	圧力、サイフォン、ドレナージ(吸引)
5	速度、加速度、ニュートンの運動の法則
6	重力と重力加速度、一様重力による運動
7	等速円運動、単振動、波
8	運動量と運動量保存則、はね返り係数
9	仕事と力学的エネルギー
10	種々のエネルギーとエネルギー保存則
11	電場、静電気力；磁場、磁力
12	電流、電位差、オームの法則
13	電磁波、光
14	直流回路、交流回路
15	原子核と放射線、半減期

【履修上の注意事項】

黒板に書かれたことをただ写すだけでなく、講義を聞いて、なぜそうなのかを考えながら、要点をまとめてノートするようにしてください。自分の頭で考えることなしに、物理学を理解しや科学的思考を身に着けることはできないからです。

【評価方法】

筆記試験を行ない、その結果のみで評価します。

【テキスト】

使用しません。適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に示します。

情報リテラシー I

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りの情報環境を、自ら、積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

01. 情報教育システムの利用について（森），教務システムLiveCampusの説明（教務課）
02. キーボード・日本語入力練習 他（森）
03. E-mailの利活用① ネットワークと電子メールの仕組み，アカウント設定 他（森）
04. E-mailの利活用② アドレス帳の設定，署名作成，返信・転送の演習 他（森）
05. 文献検索（福本直子），インターネットの利活用（森）
06. 情報リテラシー・情報モラル・情報セキュリティについて（森）
07. Wordの基本操作① 段落・ページ設定，段組，段落番号 他（森）
08. Wordの基本操作② インデント，ヘッダー・フッター 他（森）
09. Wordの基本操作③ タブとリーダー 他（森）
10. Wordの基本操作④ 罫線，図の挿入とレイアウト 他（森）
11. Wordの基本操作⑤ Wordの図形描画機能 図形描画，修正（森）
12. Wordの基本操作⑥ Wordの図形描画機能 複数の図形の組合せ，曲線とフリーフォーム（森）
13. Excelの基本操作① データ入力，計算式（森）
14. Excelの基本操作② 関数，罫線（森）
15. Excelの基本操作③ グラフ描画（森）

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は、事前に予習をしておくこと。
また、講義中はゆっくりノートをしている時間はないので、復習する中で自分の理解を確かめながら、手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと、筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は、レポート30%、試験70%。
再試験は行なう。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

講義中に、適宜紹介する。

情報リテラシーⅡ

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を、自ら積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Excelの応用① 複合グラフ, 散布図, 近似直線 (回帰直線)
2	Excelの応用② オートフィル, 絶対参照と相対参照
3	Excelの応用③ 日付・時間の表示形式 他
4	Excelの応用④ 様々な関数の利用・関数の検索
5	Excelの応用⑤ IF関数とIFの組合せ, COUNTIF, SUMIF, AVERAGEIF
6	Excelの応用⑥ ピボットテーブル
7	Excelの応用⑦ 並べ替え
8	Excelの応用⑧ フィルター
9	Excelの応用⑨ 検索, 置換
10	Excelの応用⑩ 条件付き書式
11	ExcelとWordのデータ連携
12	Web上のデータのExcel, Wordでの利活用
13	PowerPointの基本① スライド作成, デザイン・配色, スライドショー
14	PowerPointの基本② スライドの切り替え効果, 図・表・グラフの挿入
15	PowerPointの基本③ オブジェクトのアニメーション, ハイパーリンク

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は、事前に予習をしておくこと。また、講義中はノートをしている時間はないので、復習する中で自分の理解を確かめながら、手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと、筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は、レポート30%、試験70%。再試験は行なう。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

講義中に、適宜紹介する。

数学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、数学の基礎を理解し、問題演習を通して「論理的思考」や「数学的思考」ができるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

1. 数と単位
2. 度数と分布
3. 平均値のいろいろ
4. 比と比率と割合
5. 比率（静的・動的）
6. リスク比，オッズ比
7. 累乗関数とその性質
8. 指数関数とその性質
9. 対数関数とその性質
10. グラフの描き方・読み方
11. 経験的確率と理論的確率
12. 根元事象と場合の数，順列・組合せ
13. 2項分布とポアソン分布
14. 条件付き確率，期待値
15. ベイズの定理

【履修上の注意事項】

テキストを使用しないので、講義中のノートをしっかり取るだけでなく、事前学習が必要になる。また毎回、前の週の確認テストを行なうので、復習をし、特に授業中の演習問題は、もう一度解いてみて、その考え方のプロセスを学ぶこと。

「数理的な思考」を身に着けるには、自分の頭で考えてみるのが大切です。

【評価方法】

定期試験のみで評価します。

毎回行なう小テストは、理解度を確認するためのものなので、評価には入れませんが、定期試験の問題として出題します（問題文や数字は変更します）。

【テキスト】

テキストは使わず、必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

講義中に、適宜、指示します。

化学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

将来、医療技術系のスタッフとして社会で活躍する皆さんは、人体の構造と働きや医療器具・医薬品などについて正しく理解し、これらの知識をもとに疾病の予防や回復のための対処法についてよく考え、的確に判断をすることが必要になる。そのために、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学など専門基礎分野や専門分野の科目を学修しなければならない。本科目を受講することにより、医療系で重要かつ必須の化学的な基礎知識を身につけ、専門基礎分野や専門分野の科目の内容を、科学的（化学的）により深く理解できるようになる。

【授業の展開計画】

この授業では、初めに物質を構成する目では見えない主な粒子、原子、分子やイオンの成り立ちを知り、物質中に見られるこれらの粒子の結合の仕方（化学結合）を理解する。次に、化学や物理で決められている原子、分子、イオンの量的な取り扱い方を知り、物質の状態変化や化学的な変化（化学反応）を量的な変化として表す方法を学ぶ。また、医療と関係の深い物質の濃度の表し方やその状態に関する現象（原理と法則）について学び、さらに主な物質（酸化剤・還元剤、酸・塩基）の性質とその定義、反応の理論についても理解する。

週	授 業 の 内 容
1	物質を構成する見えない粒子（原子）を想像する — 元素とその原子の構造（原子核と電子）
2	原子の性質は原子が持っている電子で決まる — 原子の電子配置と周期性
3	原子が物質のもとになる粒子（イオンと分子）に姿を変える理由 — オクテットルール
4	物質中の原子どうしの手のつなぎ方を見る — 化学結合（イオン結合と共有結合）
5	原子・分子・イオンの質量（重さ）と物質量を考える — 化学量と物質量（molとEq）
6	原子・分子・イオンの質量（重さ）をmolで表現する — 物質量（molとEq）の換算方法
7	水溶液の濃度 — 百分率（%）とmol濃度（mol/L）、その他
8	水溶液の性質とヒトの血液 — 蒸気圧と浸透圧
9	物質が姿を変える — 状態変化と化学変化そしてエネルギー変化
10	反応の速さと進む方向の偏り — 可逆反応と化学平衡
11	酸化するものと酸化されるもの — 酸化と還元、酸化・還元反応の理論
12	ヒトは生きるために酸素を必要とする — 生体内での酸化・還元反応
13	酸性を示すものとアルカリ性をしめすもの — 酸と塩基とpH、酸・塩基反応の理論
14	ヒトのからだと血液のpH — 緩衝液とpH
15	ヒトの細胞内はコロイド溶液 — コロイド溶液とその性質

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で化学を履修しなかった、化学を苦手としていた、化学が好きで履修したがもう一度学び直したい学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受講したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。授業の最初か最後に、皆さんの理解度を確認するための小テストを行いながら、「わかること」を「楽しめる」丁寧な講義を行う。

【評価方法】

定期試験 80%、学習態度（確認小テストを含む）20%

【テキスト】

食を中心とした化学（第3版）（北原重登ら、東京教学社）

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - （齋藤勝裕ら、裳華房）
まるわかり！基礎化学（田中永一郎ら、南山堂）

生物学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生物のあらゆる生命活動は細胞のはたらきの産物である。ヒトのからだは、二百数十種類、数十兆個の細胞が独自の機能を果たし、同時に、協同的にはたらくことによって維持されている。この授業では「細胞」を軸にして、生物（とくにヒト）のからだの構造とはたらきについて基本的な知識を習得し、専門科目のより深い理解に役立つ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生物の多様性と共通性
2	環境と生命
3	細胞の構造とはたらき
4	生体構成物質
5	代謝
6	エネルギーの獲得と利用
7	酵素のはたらき
8	中間試験
9	遺伝子DNAと染色体
10	遺伝子のはたらき
11	細胞分裂
12	遺伝
13	生殖と発生
14	組織と器官
15	まとめ

【履修上の注意事項】

暗記ではなく、考えて理解しながら、基本的な事柄をじっくりしっかり頭にしみ込ませることに重点を置いて授業する。

【評価方法】

中間試験（50%） 単位試験（50%）

【テキスト】

プリント配布

【参考文献】

1. わかる！身につく！生物・生化学・分子生物学、第2版（田村隆明、南山堂）
2. 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学、第3版（和田勝、羊土社）

解剖生理学 I

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人体各部の巨視的な構造（肉眼解剖学）に重点を置いて勉強できるようになる。たとえば心臓はある構造をしていて、機能的には血液を送り出す役割を理解できるようになる。構造と機能は密接に関連していて本来は切り離せないが、本講義では特に構造を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

- 1、解剖学の基礎について説明できる
- 2、上肢の骨格筋と骨格について説明できる
- 3、下肢の骨格筋と骨格について説明できる
- 4、脳頭蓋の特徴について説明できる
- 5、心臓について説明できる
- 6、動脈の特徴について説明できる
- 7、静脈系の特徴について説明できる
- 8、リンパ管の特徴について説明できる
- 9、神経の特徴について説明できる
- 10、脳の神経構造について説明できる
- 11、脳神経の特徴について説明できる
- 12、中枢神経系の特徴について説明できる
- 13、脊髄神経の特徴について説明できる
- 14、末梢神経系の特徴について説明できる
- 15、骨格筋に分布する神経について説明できる

【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。
復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。
授業後オリジナル出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。

【評価方法】

小テスト（60%）、自主的学習態度（10%）、課題レポート（30%）による総合評価

【テキスト】

解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

【参考文献】

解剖学アトラス 越智淳三（文光堂）

解剖生理学Ⅱ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生き物が生きていく仕組み(生理学)を原子、分子、細胞、組織、器官および個体レベルで学習します。教科書に準拠して講義を進めるので、十分に教科書を読んで下さい。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して、他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	栄養の消化と吸収1 口・咽頭・食道・胃の構造と機能
2	栄養の消化と吸収2 小腸・大腸の構造と機能
3	栄養の消化と吸収3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能
4	呼吸と血液の働き1 呼吸器の構造と呼吸運動
5	呼吸と血液の働き2 ガス交換とガスの運搬、呼吸運動の調節
6	呼吸と血液の働き3 血液の組成と機能
7	体液の調節と尿の生成1 腎臓の構造、糸球体・尿細管・傍糸球体装置
8	体液の調節と尿の生成2 糸球体濾過、クリアランスと、排尿の機序、体液の調節
9	神経系の構造と機能 神経系の構造、興奮の伝導と伝達
10	自律神経による調節
11	内分泌による調節1 ホルモンの構造、視床下部、下垂体、甲状腺、膵臓、副腎
12	内分泌による調節2 甲状腺・副甲状腺、ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節
13	情報の受容と処理1 中枢神経の構造と機能、末梢神経の構造と機能
14	情報の受容と処理2 脳の高次機能、運動機能、感覚機能、特殊感覚の構造と機能
15	身体機能の防御と適応 皮膚の構造と機能、生体の防御機構

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)により判定する。

【テキスト】

解剖生理学(人体の構造と機能[1]) 坂井建雄、岡田隆夫 医学書院

【参考文献】

なし。

解剖生理学Ⅲ

担当教員 山下 忍

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講座では前半は内臓系として消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器の構造と機能について把握できるようになる。後半は内分泌系、感覚器の構造とその働きについて把握できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	消化器の口腔内および咽頭の組織学的特徴と構造について説明できる
2	食道と胃の構造と機能について説明できる
3	小腸と大腸尾構造と機能について説明できる。
4	肝臓、膵臓の構造と機能について説明できる。
5	呼吸器の構造と機能について説明できる。
6	泌尿器の構造と働きについて説明できる。
7	生殖器の構造と機能について説明できる。
8	内分泌系の機能と働きについて説明できる
9	感覚器の皮膚の構造と機能について説明できる。
10	視覚器の構造と機能について説明できる。
11	聴覚器の構造と機能について説明できる。
12	味覚器の構造と機能について説明できる。
13	嗅覚器の構造と機能について説明できる。
14	特殊感覚系の神経支配について説明できる。
15	体表解剖学から見た人体の構造について総合的に説明できる。

【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。
 復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。
 授業後オリジナル出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。

【評価方法】

小テスト (30%) 自主的学習態度 (10%)、課題レポート (30%) による総合評価

【テキスト】

解剖生理学(人体の構造と機能Ⅰ) 坂井建雄 岡田隆夫 医学書院

【参考文献】

解剖学アトラス 越智淳三 (文光堂)

生化学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生化学とは諸々の生命現象を化学的に解明する学問である。生体を構成する化学物質は多様であり最初は戸惑うであろうが、勉強しているうちに馴染めるものであるから落ち着いて取り組んでほしい。適切な教科書を指定するので、皆さんは教科書内容の7割程度は理解して、他人に解説出来るようになること。

【授業の展開計画】

- 1、始めに（元素間の結合様式等、原子一分子に関する基礎的なことについて）
- 2、生体構成成分の構造と機能（糖質の化学）
- 3、生体構成分子の構造と機能（糖質の化学）
- 4、生体構成分子の構造と機能（脂質の化学）
- 5、生体構成分子の構造と機能（脂質の化学）
- 6、生体構成分子の構造と機能（アミノ酸とタンパク質の化学）
- 7、生体構成分子の構造と機能（アミノ酸とタンパク質の化学）
- 8、生体構成分子の構造と機能（核酸の化学）
- 9、生体構成分子の構造と機能（核酸の化学）
- 10、生体構成分子の構造と機能（ビタミンの化学）
- 11、生体構成分子の構造と機能（ビタミンの化学）
- 12、代謝（エネルギー代謝、糖質代謝）
- 13、代謝（エネルギー代謝、糖質代謝）
- 14、代謝（脂質代謝、アミノ酸代謝、タンパク質代謝）
- 15、核酸とタンパク質の生合成、まとめ

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受講したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。

【評価方法】

小テストと期末試験の成績で判断する。

【テキスト】

『コンパクト生化学』 大久保岩男、賀佐伸省 著 南江堂

【参考文献】

解剖生理学(人体の構造と機能[1]) 医学書院

医用工学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1) 放射線による検査と治療の基礎を学び、質の高いケアを可能にする。これらの医療行為には、患者の理解と協力が必要で、医療従事者による患者指導が果たす役割は大きい。医療従事者が、診療の目的・内容・方法をよく理解し、適切な前処置や介助を行えば、十分な診療情報が得られ、よい治療効果を可能にする。
- 2) 臨床検査の基礎知識と意義を学ぶ。患者の状態を正しく診断するうえで不可欠の手段となっている臨床検査の全体像と意義を総合的に理解し、医療従事者の役割を正しく把握する。

【授業の展開計画】

【授業の順番と内容】

【授業担当者・日程】

放射線と臨床利用

平成30年(火:10-10:40)

1. 放射線概論：放射線の特性、医療被曝、放射線防護を正しく理解する。
また、放射線診療のあり方と実際の診療内容の知識を得る。 羽手村 9-25火
2. 放射線画像：放射線画像の成立過程を理解し、いろいろな画像検査の目的と方法を習得する。 肥合10-02火
3. 放射線画像：CT検査の原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。
また造影剤の特性も理解する。 羽手村10-09火
4. 放射線画像：MRI検査と超音波検査の原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 肥合10-16火
5. 核医学：放射性同位元素を用いた核医学検査の特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 肥合10-30火
6. 放射線治療学：悪性腫瘍の治療における放射線療法の特徴について理解し、放射線治療の原理（メカニズム）と実際の照射技術や放射線治療の副作用、最新の放射線治療法について解説する。 荒木11-06火
7. 放射線治療学： 荒木11-13火

臨床検査

平成30-31年(水13:10-14:40)

8. 臨床検査総論：臨床検査の種類およびその役割と評価基準 千場11-14水
9. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口11-21水
10. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口12-05水
11. 臨床検査総論：臨床検査の流れと看護師の役割、検体採取、保存法、感染防止、
系統別臨床検査の進め方 千場12-12水
12. 臨床検査各論：一般検査、 千場12-19水
13. 臨床検査各論：血液検査、(検体検査) 化学検査 千場 1-09水
14. 臨床検査各論：免疫・血清検査、ホルモン検査 千場 1-16水
15. 臨床検査各論：微生物検査、病理検査 千場 1-23水
16. 単位修得試験 樋口・千場 1-30水

【履修上の注意事項】

- 1) 医用工学の学習ノートを各自用意し、講義内容の要点を書き留め、その日の内に整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え理解する。意味が解らない時は質問する。
- 3) 「放射線と臨床利用」には『臨床放射線医学』を、「臨床検査」には『臨床検査』の教科書を持参する。
- 4) 数値の単位を理解する。

【評価方法】

筆記期末試験（100＝放射線と臨床応用47％＋臨床検査53％、但し原則として、両分野とも6割以上の得点で合格とする）。前提条件は、2/3以上の出席である。

【テキスト】

『臨床放射線医学』 福田国彦他9名 著、系統看護学講座 別巻、医学書院

『臨床検査』 奈良信雄 編集、系統看護学講座 別巻、医学書院

【参考文献】

『臨床検査法提要』改訂版 金井正光 編著、金原出版

『解剖生理学』 坂井建雄 岡田隆夫 著、系統看護学講座、医学書院

生活栄養学

担当教員 本田 榮子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

○食べ物と健康という観点から、基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し、自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来るようになってもらいたい。

なお、医療従事者として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食・栄養面の知識を、効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食行動と管理目標)
2	食生活の課題 (食と健康 食と健康 食文化)
3	日常生活と栄養 (食習慣と栄養 日本人の食事摂取基準)
4	栄養指導・保健指導 (栄養指導の過程と栄養スクリーニング、特定健診・特定保健指導とは)
5	栄養素の機能と代謝 (1) 炭水化物の種類、エネルギー
6	栄養素の機能と代謝 (2) 脂質・たんぱく質の種類、代謝、栄養
7	栄養素の機能と代謝 (3) ビタミン・無機質の機能と代謝
8	食物の摂取と消化・吸収 (食欲・消化の調節・栄養素の吸収)
9	ライフステージと栄養 (妊娠・授乳期期・乳幼児期・)
10	ライフステージと栄養 (学童期・思春期)
11	ライフステージと栄養 (成人期・老年期)
12	疾患別食事指導の実際 (1) 糖尿病、高血圧、脂質異常症
13	疾患別食事指導の実際 (2) 虚血性心疾患 脳卒中等
14	疾患別食事指導の実際 (3) 慢性腎臓病 摂食嚥下障害等
15	経管栄養と中心静脈栄養 (栄養療法 経腸・静脈栄養法・栄養管理におけるチームアプローチ)

【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、テキストと配布資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」をもとに、きちんと予習復習をし受講すること。

【評価方法】

筆記試験85% 課題レポート10% 学習態度5%

【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

【参考文献】

わかりやすい栄養学 (三共出版) 基礎栄養学 (第一出版) 日本人の食事摂取基準 (2015年版) 七訂補日本食品成分表 国民衛生の動向29年度 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表 応用栄養学 (医歯薬出版)

口腔解剖学

担当教員 山名 啓介

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

‘食べること’は、生きることの根源である。また‘食べること’は、楽しみを生み、コミュニケーションの場となる文化的な行為である。本講義では、消化器の入り口である口腔領域の解剖、機能を学ぶ。さらに、高齢者や脳梗塞などの後遺症で摂食・嚥下機能障害を持つ方々に対して、正しい口腔ケアとリハビリテーションを提供できるように理解を深める。

【授業の展開計画】

口腔領域の解剖と機能について

週	授 業 の 内 容
1	口腔解剖学総論
2	永久歯総論
3	永久歯各論Ⅰ（エナメル質、象牙質、セメント質）
4	永久歯各論Ⅱ（歯髄）
5	歯の鑑別
6	乳歯総論、各論
7	歯の異常
8	口腔の構造
9	咽頭・喉頭
10	頭頸部の硬組織
11	頭頸部の脈管
12	頭頸部の筋
13	頭頸部の神経
14	口腔粘膜
15	歯周組織

【履修上の注意事項】

授業の内容を授業で用いたプリントならびに教科書を用いて不明な語句を調べて、復習すること。

【評価方法】

学期末試験 100%（その他、小テストやレポート等考慮する場合もある）

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能－口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社

【参考文献】

最新歯科衛生士教本 障害者歯科 森崎市治郎 医歯薬出版, 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 森戸光彦 医歯薬出版, 新歯科衛生士教本 解剖学・組織発生学・口腔解剖学 第2版 高橋和人 医歯薬出版

口腔組織発生学

担当教員 永尾 優果

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

歯や歯周組織、口腔粘膜といった口腔組織の正常構造や組織学的構造を理解することができる。また、それらの構造がどのように成り立っているのか、発生に段階より理解し、口腔領域の専門家として、これからの歯科医療を引っ張っていくことができる。

【授業の展開計画】

1. 口腔組織学ならびに発生学総論
2. 口腔組織の構造
3. 頭頸部の発生学
4. 細胞構造と線維芽細胞
5. 歯周組織、口腔粘膜
6. 歯と支持組織の組織発生
7. 唾液腺、顎関節の組織発生
8. 発生学を臨床に活かす。

【履修上の注意事項】

出席率60%未満の者は単位認定試験の受験不可

【評価方法】

単位認定試験で評価する。

【テキスト】

歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能
口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

【参考文献】

口腔組織・発生学 脇田稔 編集代表／前田健康、山下靖雄、明坂年隆 編著 医歯薬出版

口腔生理学

担当教員 福泉 忠興

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

口腔生理学は、口腔を構成する諸器官の生命現象、機能を研究し、それらに存在する法則性を明らかにする生理学の一分野である。口腔生理学では、複雑な口腔各器官の生理的メカニズムを理解できることを目標とする。また、口腔顔面領域の諸機能は身体の他の部位から独立して営まれているのではないので、全身機能との関連性を理解できることも大切である。

【授業の展開計画】

1. 口腔生理学を学ぶにあたっての基礎事項
2. 歯と口腔の感覚
3. 味覚と嗅覚
4. 咬合と咀嚼・吸啜（下顎位、下顎運動）
5. 咬合と咀嚼・吸啜（顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸啜）
6. 嚥下と嘔吐
7. 唾液
8. 発声

【履修上の注意事項】

各項目ごとに講義の後、小テストを行うので講義中は集中して受講すること。
講義内容が難しいため、復習は必須である。

【評価方法】

学期末試験（筆記試験）（100%）による評価

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版株式会社）

【参考文献】

なし

口腔生化学

担当教員 田中 みどり

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

生命の営みは、生体を構成している化学的成分の化学的反応によって行われている。口腔は単なる身体の一器官ではなく、生命活動に必要なエネルギー源を体内に取り込む大切な器官である。口腔生化学で修得する基本知識は、口腔器官の構成成分や、口腔の健康を維持するメカニズムであり、日常臨床において口腔疾患の発病・病態との因果関係を洞察し理解する上で歯科衛生士にとって基礎をしっかりと身に付ける必要がある。

【授業の展開計画】

1口腔生化学基礎①

2口腔生化学基礎②

※口腔生化学に必要な生化学の知識を復習する。

3歯と歯周組織

※どのような構成をしているのかを学ぶ。

4石灰化とカルシウム代謝

※カルシウムが歯や骨にどう関わるのかを学ぶ。

5唾液と唾液腺

※唾液の成分や役割を学ぶ。

6歯面への付着物

※バイオフィルムの成り立ちや構成を知る。

7う蝕と歯周疾患の成り立ちと予防

※歯科衛生士としてこれから関わるう蝕や歯周疾患を知り、予防を理解する。

8まとめ（試験対策）

【履修上の注意事項】

講義中に要点プリントを配布するので必ず出席して下さい。
また、講義後は復習が必要なので、配られたプリントを含めたノートを作成すること。

【評価方法】

期末試験(100%)

試験不良者は再試験および講義ノートもしくはレポート提出にて再評価する。

【テキスト】

最新 歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社

【参考文献】

*スタンダード生化学・口腔生化学 安孫子宜光他 学建書院

*口腔生化学サイドリーダー 金森孝雄 学建書院

病態生理学 I

担当教員 未定、大河原 進

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成立の基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	病理学入門、病因論 (1) 病理学で学ぶこと (大河原)
2	病理学入門、病因論 (2) 障害と修復 (大河原)
3	腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類、発生原因 (掃本)
4	腫瘍 (2) 腫瘍の発生病理、転移と進行度 (掃本)
5	腫瘍 (3) 腫瘍の診断と治療 (掃本)
6	腫瘍 (4) 腫瘍の診断と治療 (化学療法) (掃本)
7	循環障害 局所性・全身性循環障害 (掃本)
8	代謝障害 (掃本)
9	小テスト 前半まとめ (掃本)
10	感染症 (掃本)
11	老化と死 (掃本)
12	炎症と免疫 (1) 炎症、免疫 (掃本)
13	炎症と免疫 (2) 免疫・アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 (掃本)
14	先天異常 (1) 先天異常、遺伝子異常、遺伝性疾患 (掃本)
15	先天異常 (2) 染色体異常、胎児の障害、診断 (掃本)

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

【評価方法】

授業への積極性 (5%)、筆記試験 (95%) で総合的に評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】

(系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

【参考文献】

1. 新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
2. 図解ワンポイントシリーズ3、「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

病態生理学Ⅱ

担当教員 坂下 直実、牛島 正人

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床医学で取り扱う各種疾患についての症候・病態・診断・治療とともにこれらの病気が発生するメカニズムを学びます。総論的な内容を取り扱う病態生理学Ⅰとは異なり、本講義では各器官や臓器の特徴を踏まえて各種疾患の成り立ちとその特徴を理解することを目標とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	呼吸器① 解剖生理・呼吸器感染症	(坂下直実)
2	呼吸器② アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患	(牛島正人)
3	呼吸器③ 間質性肺炎、気道系疾患、肺腫瘍	(坂下直実)
4	呼吸器④ 肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜・縦隔疾患	(坂下直実)
5	循環器① 心不全、高血症	(坂下直実)
6	循環器② 動脈硬化、虚血性心疾患	(坂下直実)
7	循環器③ 不整脈、心臓弁膜症	(坂下直実)
8	循環器④ 心筋疾患、静脈疾患、先天性心疾患	(坂下直実)
9	神 経① 脳血管障害	(坂下直実)
10	神 経② 変性疾患、脱髄性疾患、神経感染症、神経中毒	(坂下直実)
11	神 経③ 神経筋接合部、筋疾患、末梢神経、自律神経	(坂下直実)
12	血 液① 赤血球の疾患	(坂下直実)
13	血 液② 白血球の疾患、出血性疾患	(坂下直実)
14	膠原病/アレルギー (膠原病と関連疾患、全身性アレルギー)	(坂下直実)
15	感覚器 (眼・耳鼻咽喉疾患)、体温・酸塩基平衡の調節異常	(坂下直実)

【履修上の注意事項】

講義前に必ず教科書の該当箇所を読んで予習して下さい。講義時間に「講義の要点プリント」を配布しますので、講義当日の夜に講義の要点を自分で整理して下さい (これは講義の復習になります)。試験直前の勉強だけでは講義の内容を理解することは難しいので、上記の予習と復習を必ず行って下さい。

【評価方法】

講義に対して積極的に臨んでいるかを「講義内容についての疑問/質問」レポートによって判定し、成績の10%相当として評価します。学期末に筆記試験を行い結果を成績の90%相当として総合的に評価します。合格点は合計60点以上とします。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

1. (系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

病態生理学Ⅲ

担当教員 未定、安岡 寛理、片渕 美和子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学Ⅱに引き続き、臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。病態生理学Ⅱと同様に、本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を知識として身につけ、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	消化管（1）食道の疾患、胃・十二指腸の疾患	（掃本）
2	消化管（2）大腸の疾患、肛門の疾患	（掃本）
3	肝/胆/膵（1）肝臓疾患	（掃本）
4	肝/胆/膵（2）胆道疾患、膵疾患	（掃本）
5	代謝/栄養（1）糖尿病、メタボリック症候群	（掃本）
6	代謝/栄養（2）痛風、骨粗鬆症、サルコペニア	（掃本）
7	内分泌 視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	（掃本）
8	皮膚 湿疹・皮膚炎、皮膚感染症	（掃本）
9	女性生殖器（1）月経困難症、子宮内膜症、不妊症	（片渕）
10	女性生殖器（2）子宮癌、乳癌	（片渕）
11	女性生殖器（3）性感染症、更年期障害	（片渕）
12	運動器（1）解剖と生理、外傷、骨折、脱臼・捻挫	（安岡）
13	運動器（2）脊椎・脊髄、上肢・下肢、腫瘍、末梢神経麻痺	（安岡）
14	腎/泌尿器（1）糸球体腎炎、続発性腎疾患、その他の腎疾患	（掃本）
15	腎/泌尿器（2）泌尿器疾患 腎不全	（掃本）

【履修上の注意事項】

内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

【評価方法】

授業への積極性（5%）、筆記試験（95%）で総合的に評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

1. （系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

口腔病理学

担当教員 田中 文丸

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

病理学は、その疾病の原因、経過および結果を追究し、それらを体系化して理解する事により、疾病の本質を究明する学問であり、基礎医学と臨床医学の架け橋として重要な役割を担っている。

歯科臨床において一翼を担う歯科衛生士としての必要不可欠な疾病の理論や口腔病変の概要を理解するとともに、考える基礎を学ぶ事により社会生活においての問題対応能力を高め、それが臨床現場で役立てられる力を身に付ける。

【授業の展開計画】

口腔内の、それぞれの疾病を理解してもらう

1. 歯の発育異常
2. 歯の機械的および化学的損傷
3. 歯の付着物および沈着物
4. 象牙質とセメント質の増生および歯髄と歯根膜の石灰化
5. う蝕
6. 歯髄の病変
7. 歯周組織の病変
8. まとめ

【履修上の注意事項】

授業の予習及び復習を行うこと

【評価方法】

レポート（10%）および学期末試験（90%）による総合評価

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 「病理・口腔病理学」 全国歯科衛生士協議会編集 医歯薬出版

【参考文献】

口腔病変の組織診断 山本浩嗣・武田泰典 永末書店

感染症学

担当教員 樋口 マキエ、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

① ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働き、② 病気の原因となる微生物と寄生虫の分類と特性（構造、性質、病原性）③ 感染の成立と経過（代表的感染症の起因为菌と臨床症状）について学ぶ。④ 医療現場における感染予防とその方法について学ぶ。⑤ 免疫・生体防御の機構、⑥ 抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等）の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び、感染症に対する化学療法を理解する。化学療法薬の面から抗がん薬も付加して学ぶ。

【授業の展開計画】

【授業内容】

【授業担当者】 【授業日程】

選択 他4学科 (2019) 9:10-10:40

- | | | |
|--|------------------------------------|----------|
| 1) 感染症学概論、常在正常細菌叢とその働き | (三森) | 4/05 (金) |
| 2) 病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構） | (三森) | 4/12 (金) |
| 3) 細菌と感染 | (三森) | 4/19 (金) |
| 4) 真菌と感染、 | (三森) | 4/26 (金) |
| 5) ウイルスと感染、 | (三森) | 5/10 (金) |
| 6) 寄生虫・原虫と感染 | (三森) | 5/17 (金) |
| 7) 感染に対する生体防御機構(免疫) | (樋口) | 5/24 (金) |
| 8) 医療現場における感染防止対策 (感染管理認定看護師:熊大附病 手塚・樋口) | (樋口) | 5/31 (金) |
| 9) 化学療法薬について | (樋口) | 6/07 (金) |
| 10) 消毒薬(殺菌薬)について | (樋口) | 6/14 (金) |
| 11) 抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本 | (樋口) | 6/21 (金) |
| 12) 抗菌薬(抗生物質) | (樋口) | 6/28 (金) |
| 13) 抗菌薬(合成抗菌薬)、抗結核薬、抗真菌薬 | (樋口) | 7/05 (金) |
| 14) 抗原虫薬、抗ウイルス薬 | (樋口) | 7/12 (金) |
| 15) 抗がん薬 | (樋口) | 7/19 (金) |
| 16) 単位修得試験 | 選択 他4学科 (9:10-10:30 80min) (樋口・三森) | 8/02 (金) |

【履修上の注意事項】

- 1) 授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 3) 教科書2冊を精読し自己学習する。①「わかる身につく病原体・感染・免疫」(主に4/05～6/28に使用)、②「コメディカルのための薬理学 第3版」-第12章 感染症に対する薬物と消毒薬-(5/24～8/02)
- 4) 教科書・参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

【評価方法】

- 1) 学期末の筆記試験(100%)は、授業時間に比例した配点で評価する。
講義1～6(40点)、7～9(20点)、10～15(40点)
- 2) 授授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。

【テキスト】

- 1) わかる身につく病原体・感染・免疫 3版(藤本 編、目野・小島 著、南山堂 2,800円)、3)教員プリント
- 2) コメディカルのための薬理学 第3版(渡辺 他 編、朝倉書店 3,900円)-薬理学、病態生理学でも使用-

【参考文献】

- 1) 微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院 2,200円)
- 2) 看護の基礎固め: 6. 微生物学編、4. 薬理学編(メデイカルレビュー社 各1,600円)

口腔微生物学

担当教員 金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は専門科目に関する知識を学ぶ。学修者は「感染症学」を総論として、口腔内に常在する微生物の特性が説明できる。その上で、口腔の2大疾患であるう蝕と歯周病に関係する細菌を中心に、口腔内細菌の全身疾患との関わり、口腔内症状がみられる感染症、歯科診療上留意すべき感染症に関する内容を説明できる。

【授業の展開計画】

北田：う蝕予防に関する研究論文を発表している。

1. 細菌の一般的性状、分類、主な病原性細菌（北田）
2. 口腔内環境と口腔内常在菌（北田）
3. 口腔内常在菌による歯垢形成と成熟の過程（北田）
4. 細菌感染症としてのう蝕症、う蝕原性細菌と全身疾患との関連（北田）
5. 歯髄炎・根尖性歯周炎に関連する細菌種、感染経路、症状と細菌との関連、その特徴について（金子）
6. 歯周病原性細菌の種類と特徴、感染の進行による細菌種の変化と症状の特徴について（金子）
7. 歯周病分類別の細菌種の特徴、それに伴う症状と宿主免疫との関連について（金子）
8. 歯周病原性細菌が全身疾患に及ぼす影響、また全身疾患が歯周病に及ぼす影響について（金子）

【履修上の注意事項】

講義は教科書を必ず持参する。一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと(60分)、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験80%、小テスト、レポート等20%、フィードバックとしてレポートにコメントして返却する。

【テキスト】

『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復の過程の促進2 微生物学』全国歯科衛生士教育協議会 監修
医歯薬出版 一部は講義中に資料配布する。

【参考文献】

『デンタルプラーク細菌』奥田克爾 著 医歯薬出版
『イラストでわかる歯科医学の基礎』淵端 孟 編 永末書店

薬理学

担当教員 福泉 忠興

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

薬理学は疾病の治療、予防、診断における合理的な薬物療法を追求する学問である。薬物は疾病の原因除去や、症状緩和を目的に使用されるが、副作用を誘引しない薬物はない。すなわち、薬物の有用な作用だけでなく副作用も認識したうえで、薬物を選択し投与しなければならない。そのためには全身的な疾患に対する幅広い薬物の知識を修得できることが大切である。この講義では、薬理学の基礎的な概念を総論を通じて学習し、各論において個々の薬物の薬理作用を理解することを到達目的とする。

【授業の展開計画】

1. 総論（薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序、薬理作用に影響を与える因子、薬物の投与と薬物動態）
2. 総論（薬物の連用、薬物の併用、薬物の有害反応）
3. 総論（医薬品、剤型、処方箋と調剤）
4. 中枢神経系に作用する薬物（中枢性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬）
5. 中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、睡眠剤、抗不安薬）
6. 末梢神経系に作用する薬物（局所麻酔薬）
7. 末梢神経系に作用する薬物（自律神経系に作用する薬物、神経・筋接合部に作用する薬物）
8. 呼吸・循環器に作用する薬物（強心薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、抗高血圧薬、気管支喘息治療薬、鎮咳薬および去痰薬）
9. 血液と薬（出血と止血、止血薬、血液凝固阻止薬）
10. 抗炎症薬（炎症の経過、炎症とケミカルメディエーター、ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤）
11. ビタミン・ホルモン（脂溶性・水溶性ビタミン、脳下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、性ホルモン、脾臓ホルモン）
12. 病原微生物に作用する薬物（各種消毒薬の分類と作用機序、抗生物質分類と副作用、抗生物質の作用機序による分類）
13. 抗悪性腫瘍治療薬（アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗癌抗生物質、ホルモン剤、植物アルカロイド、免疫療法薬）
14. 免疫と薬（免疫増強薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬、ワクチン）
15. 服薬指導（コンプライアンス、患者に伝えるべき基本事項、服用時間、薬物相互作用、小児への服薬指導、妊産婦への服薬指導、高齢者への服薬指導、障害者への服薬指導）

【履修上の注意事項】

講義内容が難しいため、復習は必須である。

【評価方法】

期末試験（筆記試験）（100%）による評価

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学（第2版）
全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版株式会社）

【参考文献】

知っておきたい歯科衛生士のためのくすりの知識（デンタルダイヤモンド社）

リハビリテーション概論

担当教員 川俣 幹雄

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者は、リハビリテーションの理念、歴史、障害理論およびその関連する制度等について理解する。

【授業の展開計画】

川俣：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーションとは（定義、理念、思想）
2	リハビリテーションの歴史
3	リハビリテーションと障害医学
4	障害の理論的モデル：ICIDH
5	障害の理論的モデル：ICF
6	リハビリテーションと関連職種
7	医学的リハビリテーション
8	社会的、職業的リハビリテーション
9	リハビリテーションの対象
10	リハビリテーションと社会制度
11	地域リハビリテーション
12	リハビリテーションと環境整備
13	介護予防とリハビリテーション
14	予防医学とリハビリテーション
15	リハビリテーションを取り巻く環境と今後の課題

【履修上の注意事項】

テキストの該当箇所の予習・復習を徹底すること（120分）。
出席登録を除き、授業中の携帯電話の使用を禁止する。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。
小テストを通じて、学修到達度、課題等をフィードバックする。

【テキスト】

『医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論最新版』 上好秋孝、編著（永井書店、）

【参考文献】

『入門リハビリテーション概論』中村隆一編（医歯薬出版）、『入門リハビリテーション医学』中村隆一監修（医歯薬出版）、『社会福祉小六法』（ミネルバ書房）、『リハビリテーション』（砂原茂一（岩波書店 - 139）など

医事法規

担当教員 野崎 和義

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 医療行為を中核とする現行医事法制の中で、歯科衛生士の法的位置づけを理解する。
- 2 医療専門職に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。
- 3 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。
- 4 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市民の法と専門職の法——市民法の基礎、歯科衛生士の法的位置づけ
2	医療職と法——守秘義務と個人情報保護、三層の法構造
3	医業の独占——医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散
4	治療行為と同意（1）——医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト
5	治療行為と同意（2）——家族による同意、成年後見制度と治療同意権
6	診療の補助と医師の指示——具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール
7	歯科衛生士の業務範囲——歯科衛生士の業務、「歯科診療の補助」と医療行為
8	医療職と刑事責任（1）——終末期医療と家族
9	医療職と刑事責任（2）——チーム医療と信頼の原則、異常死体等の届出義務と黙秘権
10	チーム医療と民事責任（1）——民事責任の構造、医療従事者の注意義務
11	チーム医療と民事責任（2）——歯科衛生士の過失、実習生による事故とその対応
12	医療過誤と訴訟——訴訟の目的とその限界、医療ADRの取り組み
13	看護師と労働法——労働契約の特殊性、院内暴力・セクハラ
14	医療制度と法——医療制度改革、医療法の改正
15	コメディカルの業務と責任——医療従事者の義務、医事法の構造と射程

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100％）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医事法学概論』2011年、ミネルヴァ書房。
野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

【参考文献】

各回の講義の際に適宜紹介する。

医療福祉論

担当教員 竹中 健

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 医療保険制度（診療報酬に関する内容も含む）の概要が理解できる。
2. 医療ソーシャルワーカーの専門援助活動が理解できる。
3. 保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける多職種協働が理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	戦後の保健医療サービスの整備・拡充の歴史、医療費に関する政策動向を理解させる。
3	多様な居住の場における在宅療養やターミナルケアを支援する診療報酬制度を理解させる。
4	自立支援医療、公費負担医療制度の概要を理解させる。
5	医療施設の機能・類型を理解させる。〔熊本県救護施設協議会より高尾純子氏をお招きする〕
6	介護保険制度（介護施設の基準・類型）と介護報酬制度の概要を理解させる。
7	医療、保健、介護の連携による在宅支援のシステムを理解させる。
8	医療ソーシャルワーカーと各専門職の視点と役割の実際を理解させる。
9	インフォームドコンセントの意義と実際を理解させる。
10	医療ソーシャルワーカーの歴史、資格化の議論、業務の枠組みを理解させる。
11	ミクロ、メゾ、マクロの視点から医療ソーシャルワーク業務の内容を理解させる。
12	医療連携やチーム医療の推進について、社会福祉士や精神保健福祉士の役割や業務を理解させる。
13	医師、保健師、看護師等の医療チームアプローチや機関・団体との連携方法と実際を理解させる。
14	地域の社会資源との連携、地域包括ケアにおける保健医療サービスの位置づけと役割を理解させる。
15	まとめ

【履修上の注意事項】

講義予定の範囲について、テキストをあらかじめよく読み、毎回予習をしておくこと。

【評価方法】

講義内で実施する合計5回のミニテストの結果を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『保健医療サービス』中央法規（最新版）

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

保健社会論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 我が国の国民衛生の歴史及び現状について説明することができる。
- 2 衛生の主要指標について理解し、現在課題となっている保健・医療問題を解説することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	保健社会論とは
2	病気と医療の関係
3	医療保障の歴史と目的
4	保健医療論① 保健・医療・福祉の資源
5	保健医療論② 地域保健・地域医療
6	保健医療論③ 社会保障制度と医療経済
7	保健医療論④ 国際保健
8	産業保健① 労働衛生対策
9	産業保健② 産業性疾病
10	産業保健③ 産業中毒
11	環境保健① 環境と適応
12	環境保健② 地球環境の変化と健康影響
13	環境保健③ 環境汚染の評価と対策
14	環境保健④ 環境緯線の発生要因と現状（公害のエピソードを含む）
15	現代医療の課題

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料（学習プリント）を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

地域保健論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 地域保健の位置づけやその構造を理解し、具体的な活動や医療制度について理解する。
- 2 地域保健が目指す新しい健康の概念や地域集団としての健康づくりへの取り組みの例に着目し、今後の地域医療の在り方について考えることができる。

【授業の展開計画】

地域保健における現状や課題について、説明とペアを中心としたディスカッションにより学習を構成する。前半は、地域保健の対象や内容など、概要についての理解を中心に展開し、後半は、集団検診や感染症対策などの具体的な内容と事例を中心に展開する。

週	授 業 の 内 容
1	地域保健とその構造
2	保健・医療・福祉の組織と活動
3	地域保健① 保健所の組織と業務
4	地域保健② 市町村保健センターの組織と業務
5	救急医療① 救急医療体制
6	救急医療② 救急救命士
7	災害医療① 医療における災害の定義と解釈と災害拠点病院
8	災害医療② 災害時保健医療活動
9	災害医療③ トリアージ
10	へき地医療 へき地保健医療対策と遠隔医療
11	在宅医療① 在宅ケア
12	在宅医療② 訪問診療・往診と訪問看護制度
13	在宅医療③ 訪問及び通所リハビリテーション
14	チーム医療
15	保健・医療・福祉の連携

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

精神保健 I

担当教員 水間 宗幸、平川 泰士

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。
- ・精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健の概要
2	精神保健の歴史と現代における意義・課題
3	社会構造の変化と新しい健康観
4	ライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）
5	ライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）
6	ストレスと精神の健康
7	生活習慣と精神の健康
8	精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害
9	アルコール関連問題と精神保健
10	うつ病と自殺防止対策
11	現代社会を取り巻く諸相と精神保健（長寿・認知症・少子化を巡って）
12	精神の健康に関する心的態度
13	精神保健に関する予防の概念と対象
14	精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体などの役割と連携
15	精神保健に関する専門職種

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】

試験による評価（70%）および 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）。なお希望者には個別に評価内容を伝える。

【テキスト】

新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援（第3版）』中央法規，2018年

【参考文献】

各講義ごとに主要文献を紹介する

健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

児童生徒の心の健康問題が深刻化し、学校の保健室でも心身両面の対応が養護教諭によって行われていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」についての理論と方法について学習し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について述べることができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景/健康相談の基本的理解
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談
3	健康相談と健康相談活動（学校保健安全法との関連）
4	健康相談に関連する諸理論
5	健康相談のプロセス
6	ヘルスアセスメントについて
7	健康相談における子ども理解の方法(演習含む)
8	健康相談での心理的理解
9	健康相談における連携
10	諸問題の捉え方と関わり方
11	諸問題への具体的な対応について（事例研究の目的）
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ① 疾病を伴う事例
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ② 生活上での課題等様々な課題事例
14	保健室登校と不登校の捉え方と対応
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

レポート30%、まとめのテスト70%として評価する

【テキスト】

養護教諭の行う健康相談 大谷尚子 森田光子 東山書房

【参考文献】

学校保健実務必携

学校保健

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

児童生徒の発育・発達、健康そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から、保健教育・保健管理・組織活動の諸活動を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌について説明できる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	学校保健概論・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・学校保健の歴史、社会情勢との関連
3	学校保健計画・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
4	学校保健組織活動・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
5	学校保健の対象・児童生徒の発育発達の現状と課題
6	学校保健の対象・健康の基礎理論
7	学校保健の対象・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・保健管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・保健管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・保健管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・保健管理：学校環境衛生
12	学校保健活動・保健管理：感染症予防
13	学校保健活動・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習と保健指導
15	保健教育：性教育、薬物乱用防止教育、食育

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

筆記試験85%、レポート15%により評価する

【テキスト】

学校保健ハンドブック 第5次改定 教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい

【参考文献】

新訂版 学校保健実務必携 第一法規

救急処置法

担当教員 古賀 由紀子、井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①生命にかかわる緊急を要するような重大事故時に処置に対する、正しい判断ができる。
- ②学校現場での事故を予測し正しい知識と技術を身に着け児童生徒に対して応急処置ができる。
- ③心肺蘇生法ができる。
- ④救急処置対応計画を作成することができる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験
井手：アスレチックトレーナーとしてスポーツ競技団体支援経験

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/救急処置の基本的知識（古賀）
2	学校救急処置について/学校における救急体制（古賀）
3	外傷時の救急処置（傷の種類とその処置）（古賀）
4	外傷時の救急処置（頭部外傷、眼部外傷）（古賀）
5	外傷時の救急処置（歯・口腔の外傷、熱傷等）（古賀）
6	外傷時の救急処置（骨折、捻挫、脱臼、打撲等）（古賀）
7	外傷時の救急処置（R I C E処置・止血・テーピング）（井手）
8	内科的疾患の救急処置（発熱、けいれん、頭痛）（古賀）
9	内科的疾患の救急処置（喘息、呼吸困難等の対応）（古賀）
10	内科的疾患の救急処置（腹痛、下痢等の対応）（古賀）
11	内科的疾患の救急処置（めまい等その他の対応）（古賀）
12	緊急時の救命処置（C P R理論）（古賀）
13	緊急時の救命処置（A E D理論）（古賀）
14	緊急時の救命処置（C P R実技1）（古賀）
15	緊急時の救命処置（C P R実技2）（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分)毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

小テスト30%, 定期試験70%として評価する

【テキスト】

- ・初心者のためのフィジカルアセスメント―救急保健管理と保健指導―永田利三郎 監修 東山書房
- ・赤十字救急法教本 ・赤十字基礎講習教本（講習時に販売）

【参考文献】

口腔保健衛生学

担当教員 北田 勝浩

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

口腔衛生の基礎として必要な知識を学び、口腔の健康を保持増進することの重要性を認識し、そのための理論と方法を説明できる。また、口腔の2大疾患であるう蝕および歯周病を中心に、不正咬合、顎関節症、口臭症、口腔乾燥症など様々な口腔疾患の病因・病態を学び、その予防法について体系的に理解を深め、概説できる。

【授業の展開計画】

北田：歯科医師として大学および大学附属病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	保健衛生学の意義
2	歯・口腔の健康 (1) : 歯・口腔の構造
3	歯・口腔の健康 (2) : 歯・口腔の発生と成長・発育、機能、全身疾患との関連
4	歯・口腔の付着物・沈着物
5	口腔清掃 清掃の意義、口腔清掃法、歯磨剤・洗口剤
6	歯科疾患の疫学、指数
7	う蝕の予防 (1) : う蝕の症状、分類、う蝕発生の要因・機序
8	う蝕の予防 (2) : う蝕活動性、う蝕活動性試験
9	う蝕の予防 (3) : う蝕の予防法 (第一次、第二次、第三次)、フッ化物の性状
10	う蝕の予防 (4) : フッ化物応用
11	歯周疾患の予防 (1) : 歯周疾患の症状、分類、発生の機序
12	歯周疾患の予防 (2) : 歯周疾患の全身に与える影響、予防手段と処置
13	その他の疾患の予防 (1) : 口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症
14	その他の疾患の予防 (2) : 歯の形成不全、口臭症、口腔乾燥症
15	ライフステージごとの口腔保健管理

【履修上の注意事項】

授業前にテキストをよく読み、次回の内容について予習すること (15分)。
授業の内容について、十分に復習すること (30分)。

【評価方法】

レポート等の日常的学習成果 (20%)、定期試験 (80%) を総合して評価する。
フィードバックとしてレポートにコメントして返却する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学第2版」、
「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学」 : 全国歯科衛生士教育協議会監修 (医歯薬出版)

【参考文献】

口腔保健・予防歯科学 : 安井利一、宮崎秀夫、鶴本明久、川口陽子、山下喜久、廣瀬公治 編 (医歯薬出版)
他、講義の中で適宜紹介する。

口腔保健統計学

担当教員 徳永 淳也

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

口腔保健学における諸活動の効果的、効率的推進のため、歯科領域で蓄積されてきた各種統計資料や歯科関連統計データに習熟し、統計学を駆使した洞察力や判断力の涵養を目的とする。各種統計資料を用いて我が国の歯科疾患の変遷をとらえ、その評価方法やデータ把握手法を修得し、歯科疾患の疫学や評価指標、初等統計学を用いたデータ解析方法について理解を深め、問題把握と分析能力の修得をはかる。

【授業の展開計画】

1. 口腔保健統計学概論：保健情報と国家統計調査の概要を理解する
2. 歯科疾患の疫学：疫学の考え方、研究デザイン、データの数量化を理解し説明できる
3. 統計学入門：標本データの記述、代表値およびデータ特性を理解し分析に使用できる
4. 母数の推定と確率分布：正規分布の特徴を理解し推定、検定の違いを説明できる
5. 検定とは：その論理と手順について考え方を理解する
6. 二変数間の分析：独立性の検定を理解し分析ができる
7. 平均値の差の検定：t検定を理解し分析ができる
8. 多群間の平均値の比較：分散分析と多重比較を理解し分析ができる

【履修上の注意事項】

各種統計値の算出を行うので電卓を持参すること。妥当かつ信頼性の高い議論や仮説検証はどのようにして可能となるのか、について問題意識を持って講義に出席すること。講義前後には教科書等で予習復習に努めること。
(60分)

【評価方法】

各講義で行う確認課題レポートで100%評価する。適宜、課題には解説を加える。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 保健情報統計学 全国歯科衛生士教育協議会 編（医歯薬出版）

※1年次の口腔保健衛生学で使用した教科書を持参すること

【参考文献】

新歯科衛生士教本 口腔衛生学・歯科衛生統計（医歯薬出版）

歯科衛生士テキスト 口腔衛生学—口腔保健統計学を含む—（学建書院）

地域口腔保健学

担当教員 徳永 淳也

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

地域社会はもとより、学校、職域をはじめとする人々の生活の場であるコミュニティ(共同体)において、その特徴を十分踏まえた支援や介入が求められており、口腔保健学的接近による対象の捉え方、考え方と具体的方策の理解が目的である。各対象に応じた地域口腔保健活動における、歴史、基本概念、目的、内容、方法についてその変遷をとらえ理解をはかり、各コミュニティを構成する人々の生活の質向上に資する保健医療福祉領域の多職種が共有すべき概念や具体的な問題解決手法について修得する。

【授業の展開計画】

1学期に学んだ公衆衛生学や関連科目で獲得した考え方を、口腔保健領域に適用して考えることが必要となるので、健康問題への社会的アプローチの諸側面について復習して講義に出席し、口腔保健を通じた地域に対するイメージと視野を獲得できているか、常に自問し学修すること。

1. 地域口腔保健学概論：地域における口腔保健学的接近とは
2. 公衆衛生活動と地域口腔保健の理解
3. 社会疫学概論：健康決定要因としての社会階層と口腔保健の関連の理解
4. 学校保健における口腔保健学的接近の意義の理解
5. 成人高齢者における地域口腔保健の目的と具体的取り組みの理解
6. 母子保健における口腔保健の目的と具体的取り組みの理解
7. 産業保健の歴史と職業特性に応じた口腔保健における取り組みの理解
8. 災害歯科保健、国際歯科保健についての理解

【履修上の注意事項】

講義時に配布するプリントとともに、口腔保健衛生学(1年次開講)で使用した教科書(下記テキスト)を使用するので必ず持参すること。地域口腔保健臨地実習の先修科目であるので注意すること。講義前後には、教科書等で予習復習に努めること。(120分)

【評価方法】

各講義ごとに行う確認課題で100%評価する。適宜、課題には解説を加える。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 保健生態学 全国歯科衛生士教育協議会 編 (医歯薬出版)

※口腔保健衛生学(1年次開講済)で使用した教科書

【参考文献】

シンプル 公衆衛生学2019 鈴木庄亮監修 小山洋、辻一郎編集 ※公衆衛生学で使用する教科書
歯科衛生士テキスト 口腔衛生学—口腔保健統計を含む— (学建書院)

保健福祉行政論

担当教員 福本 久美子、隈 直子、中川 武子、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 地域の人々の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と分配を促進する必要性について理解できる。2. 保健医療福祉行政の仕組み、地域の健康課題に必要な社会資源の開発、評価等の基礎となる法律・制度・政策について理解できる。

【授業の展開計画】

教科書およびその内容理解を助けるプリントを配布し、以下の内容について講義を進める。

週	授 業 の 内 容	
1	福本	保健医療福祉の行政の理論と機能①
2	福本	保健医療福祉の行政の理論と機能②
3	福本	保健医療福祉の財政
4	福本・中川・未定	保健医療福祉行政の計画と評価①GW
5	中川	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷①
6	中川	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷②
7	福本	社会保障制度と公衆衛生行政
8	未定	地域保健の制度①
9	中川	公衆衛生に関する国際的な活動
10	隈	社会保障制度（社会福祉）
11	福本(外部)	医療制度（医療提供体制）
12	福本(外部)	地域保健の制度と実際の運用
13	福本・中川・未定	保健医療福祉行政の計画と評価②GW発表
14	福本(外部)	介護保険制度
15	福本・中川・未定	保健医療福祉行政の計画と評価③GWまとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 予習復習を行い、講義に積極的に参加すること。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。

【評価方法】

レポート（50%）、GWと発表（40%）、地域活動参加レポート（5点×2回＝10点）
レポート提出先：教務課

【テキスト】

『これからの保健医療福祉行政論』日本看護協会

【参考文献】

『国民衛生の動向』厚生統計協会、『国民福祉の動向』厚生統計協会、『蘇陽風とくらしと健康』熊本日日出版社

国際保健論

担当教員 未定

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

口腔保健学概論

担当教員 薄井 由枝、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、緒方 有希、未定、十時 彩、伊東 隆利

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔保健学は、歯・口腔の形態の保持増進、および国民の生活の質的な向上を図ることを実践する学問であり、歯科衛生士は口腔保健を担う職種である。では、歯科衛生士とは具体的に何か。歯科衛生士としてどのように社会貢献できるのか、様々な概念や価値観を学びながら、自ら考え、判断し、行動できるようになる知識とスキルを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	海外における歯科衛生士とその社会的責任（国際歯科衛生士連盟）（薄井）
2	口腔保健学とは、口腔衛生の発展（薄井）
3	歯科衛生士の歴史、歯科衛生士の役割、歯科衛生士法と業務（薄井）
4	口腔衛生活動のための理論、予防の概念、EBD（薄井）
5	歯科衛生士と医療倫理（薄井）
6	口腔衛生業務と医療安全（薄井）
7	病院・施設における歯科衛生士（淀川・志垣）
8	障害者センター・高齢者病院における歯科衛生士と国際協力について（石井・緒方）
9	社会福祉士など他資格と歯科衛生士資格（松尾・十時）
10	歯科病院における多職種連携と歯科衛生士の役割（伊東）
11	口腔保健学に必要な思考（科学的思考、批判的思考）と研究マインド（薄井）
12	口腔保健に関する医療コミュニケーション（薄井）
13	口腔衛生業務論「歯科衛生過程」（薄井）
14	歯科衛生過程の活用法（薄井）
15	歯科衛生士としての社会的責任と貢献（薄井）

【履修上の注意事項】

各講義終了後に、まとめ／小テストをおこなうので、授業に集中すること。また、復習(30分)のなかで、理解できなかった箇所は、必ず次の授業中に質問し、期末テストに備えること。

【評価方法】

毎回の授業最後に配布・提出するレポート等（50%）フィードバックとして提出物にはコメントして返却します。期末テスト（50%）

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論，医歯薬出版

【参考文献】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第2版，医歯薬出版

歯科衛生の展開

担当教員 淀川 尚子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

歯科衛生活動はすべてのライフステージを対象として、多様な価値観を持ちながらコミュニティで生活する人を理解した支援が必要である。科学的根拠を基に、事象に対する感じる力を豊かにし、考える力、表現する力を高め、歯科衛生過程の実践への応用方法を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歯科衛生過程を活用する意義を理解する
2	歯科衛生モデルの8領域の視点と歯科衛生アセスメントの実際を理解する
3	口腔保健上の問題・課題抽出の実際を理解する
4	口腔保健上の問題・課題に対する解決方法の実際を理解する
5	歯科衛生アセスメントおよび歯科衛生診断を評価し考察する
6	歯科衛生計画および歯科衛生介入を評価し考察する
7	歯科衛生過程の枠組みを通して、人を全体的にみる視点を理解する
8	歯科衛生過程の実践への活用方法について理解する（歯科衛生過程の展開に対するまとめ）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

授業前に各自予習をして授業に臨むこと。（60分）

【評価方法】

随時の小テスト・レポート(80%)、グループワーク時の発表内容(20%)
フィードバックとして課題レポートおよび発表内容にコメントする。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）

【参考文献】

適宜紹介する。

臨床歯科医学概論

担当教員 金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は歯科医療の入門編としての歯科疾患の概要と特異性を学ぶ。学修者は歯科診療における歯科衛生士の業務内容と歯科診療の流れを説明できる。

【授業の展開計画】

北田：小児歯科に関する研究論文の発表があり、小児歯科・矯正学について講義経験もある。。

1. 歯科医療とは、歯科医療のに携わる人、歯科医療の内容診療科名（金子）
2. 歯科医療の特徴、医の原則、医療安全（金子）
3. 歯科診療所の1日、診察の流れ、歯科医療面接（金子）
4. 歯科医師とのチーム医療、治療の流れ、有病者患者の対応・その注意事項（金子）
5. 歯科保存治療（保存修復・歯内療法・歯周治療）の概要（金子）
6. 歯科補綴治療・口腔外科治療の概要（金子）
7. 小児歯科治療・矯正歯科治療の概要（北田）
8. 高齢者・障がい児に対する歯科治療の概要（金子）

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと（60分）、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験90%、レポート10%、フィードバックとしてレポートにコメントして返却する。。

【テキスト】

『新・歯科衛生士教育マニュアル 歯科臨床の基礎と概論』 栢 豪洋、升井一郎、石川隆義、山田隆文
クインテッセンス出版

【参考文献】

『ファンダメンタル』 歯科臨床大要 著 戸田 忠夫、末瀬 一彦、志田 亨、神原 敏之 永末書店

歯科臨床医学 I (保存修復・歯内療法)

担当教員 金子 憲章

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は専門科目を学ぶ。学修者は歯科保存修復学はう蝕、外傷、形成不全などによって生じた歯の硬組織欠損・異常に対して種々の修復法が説明できる。さらに各修復法に使用する器具・材料等の取り扱いおよび術式についても説明できる。歯内療法学ではう蝕、外傷等により生じた、歯髄病変の症状、診査・診断を学び、その治療法を理解し、必要な器具、薬剤、術式を説明できる。さらに歯髄炎に継発して生じる根尖性歯周疾患の原因、症状、診査・診断、治療法についても説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歯の保存療法の種類：保存修復と歯内療法の違い、対象疾患(硬組織疾患, 歯髄・根尖性歯周疾患)
2	口腔診査：現象の診査（視診, 触診, 打診, 温度診, 電気歯髄診, 透照診, インピーダンス診査, EMR)
3	う蝕：脱灰と再石灰化、う窩の状態、摩耗・咬耗症の違い、侵蝕症、形態異常、変色
4	保存修復の概要・準備：窩洞の分類・条件、歯間分離、ラバーダム、隔壁法、切削器具、裏層
5	直接修復：コンポジットレジン充填（マトリックスレジン、フィラー）
6	直接修復：セメント修復（グラスオイオノマーセメント、その他のセメント）
7	間接修復：インレー及びアンレー修復（印象法、鋳造法）、ベニヤ修復、合着剤及び接着剤
8	保存修復における歯科衛生士の役割：充填時の補助、印象採得の方法、患者管理
9	歯内療法の概要：歯内療法の意味、歯内疾患の原因
10	歯内療法の種類とその症状処置
11	歯髄の保存療法：歯髄鎮静療法、覆髄法（間接・直接覆髄に関する薬剤、方法、使用器具）
12	歯髄の除去療法：歯髄切断法(使用する薬剤、方法、使用器具)、抜髄（使用する薬剤、方法、使用器具）
13	根管治療・根管充填：根管治療の概念・術式、根管充填、使用器具
14	外科的歯内療法：切開、歯根尖切除術、ヘミセクション、歯根切断、歯根分離、歯の外傷
15	歯内療法における安全対策・歯科衛生士の役割・歯のホワイトニングの方法と薬剤

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと(60分)、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験90%、授業中の小テスト評価10%、フィードバックとして小テストを解答・解説する。

【テキスト】

『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法学』
全国歯科衛生士教育協議会 監修 松井恭平他編集 医歯薬出版

【参考文献】

歯内療法学 戸田忠夫ら[編] 医歯薬出版
保存修復学 平井義人ら[編] 医歯薬出版

歯科臨床医学Ⅱ(歯周病治療)

担当教員 金子 憲章

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

本科目は専門科目を学ぶ。学修者は歯周疾患を引き起こす原因とその発症過程を学び、歯周疾患に関する基礎知識と臨床的術式を説明できる。また、歯周病予防の考え方や歯周基本治療からメンテナンスまでの治療過程を学び、歯周治療の概念を理解できる。歯周治療において使用する器具、および歯周外科の手術法、器具の種類についても説明できる。さらに歯周疾患がある種の全身疾患に関連し、又増悪させることを学び、歯科衛生士が行う予防と治療後の予後管理の重要性についても説明できる。

【授業の展開計画】

1. 正常な歯周組織の構造と機能: 歯肉, 歯根膜, セメント質, 歯槽骨の構造と機能
2. 歯周病の分類 (歯肉病変・歯周炎・壊死性歯周病・その他)
3. 歯周治療の原因 (細菌因子・宿主因子・環境因子)
4. 歯周治療の進め方・歯周病の診査 (プロービング・出血の診査・動揺度診査・根分岐部診査・アタッチメントレベル等)
5. 歯周基本治療: 歯周基本治療の目的, 歯周基本治療の内容 (プラークコントロール・スケーリング・ルートプレーニング・咬合調整・暫間固定等)
6. 歯周外科治療: 意義, 術式の種類, 各術式に必要な器具
7. 歯周治療としての口腔機能回復治療
8. メンテナンス・SPT: 治癒と病状安定の違い, メンテナンス・SPTの重要性

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと(60分)、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験90%、授業中の小テスト評価10%、フィードバックとして小テストを解答・解説する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 全国歯科衛生士教育協議会 編集
医歯薬出版株式会社

【参考文献】

『カラーアトラス・歯周基本治療』岩山幸雄 編集 医歯薬出版
『ラタイチャーク・カラーアトラス 歯周病学』日本臨床歯周病学会 訳 永末書店

歯科臨床医学Ⅲ(補綴・高齢者)

担当教員 村上 慶、緒方 有希

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

補綴：口腔機能回復の中心となる学問で、口腔生理、解剖、顎関節、咬合、材料、固定式修復物、可撤式修復物、インプラント補綴等内容は多岐にわたる。CAD/CAMシステムの発達など今後も発達していく分野である。この授業のねらいは、その基礎となることを学び、歯科臨床の現場で対応できる知識を得ることである。
 高齢者：ライフステージの最終発達段階にある高齢者の基本的知識を学び、高齢者を支援する立場から社会状況や生活環境を知り、歯科衛生士としてでき得る支援について考える態度を養う。

【授業の展開計画】

村上：歯科医師として歯科医院開業
 緒方：歯科衛生士として高齢者施設勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	歯科補綴の概要、歯の欠損に伴う障害と補綴(村上)
2	補綴歯科治療の基礎知識、補綴装置の種類とその構造(村上)
3	補綴歯科治療における検査・診断、クラウン・ブリッジ治療の実際(村上)
4	有床義歯治療の実際、インプラント治療の実際(村上)
5	歯科材料の基本知識、前半内容チェック(小テスト)(村上)
6	補綴歯科治療に用いられる器材、補綴歯科治療における歯科技工(村上)
7	検査・診断時の業務、治療時の業務(クラウン・ブリッジ治療)(村上)
8	治療時の業務(有床義歯治療)、患者指導(有床義歯治療)(村上)
9	患者指導(クラウン・ブリッジ治療)、患者指導(インプラント治療)、器材の管理(村上)
10	後半内容チェック、まとめ(村上)
11	高齢者をとりまく社会と生活の場について説明することができる(緒方)
12	高齢者の身体的機能、精神・心理状態(認知症)について特徴を説明することができる(緒方)
13	高齢者の口腔の特徴と疾患について列挙し、状態を説明することができる(緒方)
14	高齢者に対する摂食・嚥下リハビリテーションの方法について説明することができる(緒方)
15	症例を通して歯科衛生士の立場からでき得る支援を考察する(緒方)

【履修上の注意事項】

第1講～第10講までは補綴および歯科材料について、第11講～第15講は高齢者について学びます。

高齢者では、必要に応じて課題レポートや、確認テストで授業の理解度を確認します。
 毎回の授業を復習しておくこと。フィードバックとして課題レポートにコメントして返却します。

【評価方法】

日常授業評価40%(補綴：小テスト、高齢者：課題レポート、確認テスト)、期末試験60%で評価します。
 それぞれの担当教員の評価を合計して科目の評価とします。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」医歯薬出版、「改訂版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」永末書店、最新歯科衛生士教本「高齢者歯科 第2版」医歯薬出版

【参考文献】

歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第2版 森戸光彦ほか編 永末書店

歯科臨床医学Ⅳ(小児・障がい児者)

担当教員 北田 勝浩、石井 里加子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

胎児期から青少年期までの成長・発達をふまえ、各ライフステージでの全身および口腔の正常像、口腔疾患とその予防・治療法ならびに口腔の健康管理、顎骨、歯列および咬合の成長発達について体系的に説明できる。障害の概念や障がい者の現状を理解するとともに、歯科衛生士としての基本的な心構えやあり方について述べるができる。さらに、質の高い歯科医療や口腔保健の提供が、障がい児・者のQOLの向上や自己実現につながることを学び、具体的な対応方法や歯科診療の補助、健康支援方法について概説できる。

【授業の展開計画】

北田：歯科医師として大学および大学附属病院勤務経験

石井：歯科衛生士として障害者専門の歯科医療機関に勤務

週	授 業 の 内 容	
1	小児歯科学概論、心身の発育	(北田)
2	小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育	(北田)
3	歯の発育と異常	(北田)
4	歯列・咬合の発育と異常	(北田)
5	小児の歯科疾患 う蝕、歯周疾患、軟組織疾患	(北田)
6	小児期の特徴と歯科的問題点	(北田)
7	小児歯科診療(1)：診療体系、治療の原則、診査・検査、麻酔、歯冠修復	(北田)
8	小児歯科診療(2)：歯内療法、外科的処置、外傷、咬合誘導、定期検診	(北田)
9	患児の対応法(1)：小児の態度と行動、一般的対応	(北田)
10	患児の対応法(2)：行動療法、抑制的対応、鎮静・減痛、全身麻酔、緊急時対応	(北田)
11	障害の分類、基本理念、障がい者における口腔保健の現状と歯科衛生士の役割	(石井)
12	障害と疾患の特徴 精神発達・心理的発達と行動の障害	(石井)
13	障害と疾患の特徴 神経・運動障害 その他障害	(石井)
14	障害と疾患別歯科診療の補助、行動調整法、リスク管理	(石井)
15	障がい児・者における口腔健康管理	(石井)

【履修上の注意事項】

授業前にテキストをよく読み、次回の内容について予習すること(15分)。

授業の内容について、十分に復習すること(30分)。

発達支援臨地実習Ⅰ(小児)および発達支援臨地実習Ⅱ(障がい児者)の先修科目である。

【評価方法】

レポート等の日常的学習成果(20%)、定期試験(80%)を総合して、北田担当分65点と石井担当分35点の合計100点満点で評価する。

フィードバックとしてレポートにコメントして返却する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 小児歯科学：全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本 障害者歯科第2版：全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)

【参考文献】

小児歯科学<第5版>：白川哲夫 編集代表(医歯薬出版)

スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科：日本障害者歯科学会 編(医歯薬出版)

歯科臨床医学V (矯正)

担当教員 北田 勝浩

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

不正な成長発育により生ずる不正咬合の予防および治療法について体系的に説明できる。

【授業の展開計画】

北田：歯科医師として大学および大学附属病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	矯正歯科治療の概要
2	成長・発育
3	正常咬合と不正咬合
4	矯正歯科診断
5	矯正歯科治療と「力」— 強制力・顎整形力・保定 —
6	矯正装置
7	上下顎の前後的関係の不調和、上下顎の垂直的關係の不調和
8	成人矯正、口腔顎顔面の形態異常と変形
9	歯の埋伏と歯数の異常、矯正歯科治療時のトラブルへの対応
10	矯正歯科診断にかかわる業務
11	器具・材料の準備と取り扱い
12	装着時の補助と指導（可撤式・固定装置）
13	装着時の補助と指導（機能的矯正装置、上顎側方拡大装置、顎外固定装置）
14	矯正歯科患者と口腔保健管理
15	口腔筋機能療法、器材、資料、文書の管理

【履修上の注意事項】

授業前にテキストをよく読み、次回の内容について予習すること（15分）。
授業の内容について、十分に復習すること（30分）。

【評価方法】

レポート等の日常的学習成果（20%）、定期試験（80%）を総合して評価する。
フィードバックとしてレポートにコメントして返却する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正：全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）

【参考文献】

歯科矯正学＜第5版＞：相馬邦道、飯田順一郎、山本照子、葛西一貴、後藤滋巳 編（医歯薬出版）
他、講義の中で適宜紹介する。

口腔外科学

担当教員 金子 憲章

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は専門科目を学ぶ。学修者は口腔・顔面領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。先天異常、発育異常、歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折の特徴と治療、各種粘膜疾患・嚢胞の特徴と治療、良性腫瘍・悪性腫瘍の特徴と治療、顎関節疾患唾液性疾患の特徴と治療、神経性疾患・口腔内に症状を現す血液疾患の特徴と治療を説明できる。また歯科麻酔では、全身疾患の有無、処置の内容により対応が異なり、その適応を説明でき、適切な準備ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	口腔外科の概要：口腔外科はどんな治療を行うか：口腔外科診療のプロセス
2	先天異常と発育異常：歯の異常、口腔軟組織の異常、口唇・口蓋裂、その他の先天異常
3	口腔の損傷と機能障害：歯・軟組織の損傷、歯槽骨・顎骨骨折、顎関節疾患
4	口腔粘膜疾患：潰瘍、びらん、水疱形成、白斑、色素沈着、口腔乾燥、舌の病変
5	血液疾患：赤血球・白血球に起因する疾患、出血傾向を示す疾患、その他の異常
6	炎症：歯槽骨・顎骨炎症、顎骨周囲組織の炎症
7	嚢胞：顎骨・軟組織の嚢胞
8	腫瘍：良性腫瘍・悪性腫瘍
9	唾液腺疾患：唾液腺炎、唾液腺腫瘍
10	神経系疾患：三叉神経痛、顔面麻痺、舌痛症、オーラルディスキネジア
11	抜歯と口腔外科小手術：抜歯と小手術で注意すべき全身疾患・服用薬、抜歯の基本、偶発症
12	口腔外科小手術：嚢胞摘出術、歯根端切除術、良性腫瘍摘出術、口腔インプラント手術
13	歯科麻酔における患者管理；モニタリング
14	歯科治療と局所麻酔・吸入鎮静法・静脈内鎮静法
15	歯科治療と全身麻酔・救急蘇生法

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと(60分)、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験90%、授業中の小テスト評価10%、フィードバックとして小テストを解答・解説する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 全国歯科衛生士教育協議会監修
医歯薬出版株式会社

【参考文献】

口腔外科学・歯科麻酔学 池邊哲郎 升井一郎 吉増秀實 伊賀弘起 クインテッセンス出版株式会社

歯科放射線学

担当教員 金子 憲章

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

本科目は専門科目を学ぶ。学修者は放射線の生物学的影響、防護について説明ができ、またエックス線写真の処理が行え、口腔内エックス線写真およびパノラマエックス線写真の手技を説明できる。更に口腔領域の基本的な病変像のエックス線所見を説明できる。

【授業の展開計画】

1. 放射線とエックス線:放射線とは、エックス線の性質
2. 放射線の影響:単位、生体に対する影響
3. 歯科用エックス線撮影装置, エックス線画像の形成
4. 撮影法(口内法):2等分法、平行法、咬合法
5. 撮影法(口外法):パンラマエックス線写真、原理
6. フィルム処理, デジタルエックス線システム
7. 正常なエックス線画像, 病変の画像例:エックス線写真の読影
8. 放射線の防護と管理, 放射線治療:放射線防護の理念と防護法:放射線治療とは

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと(60分)、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験90%、授業中の小テスト評価10%、フィードバックとして小テストを解答・解説する。

【テキスト】

わかりやすい歯科放射線学第3版 監修:有地榮一郎、笹野高嗣、馬嶋秀行、湯浅賢治、代居敬 学建書院

【参考文献】

新歯科衛生士教本 歯科放射線学 医歯薬出版

口腔疾患予防学

担当教員 北田 勝浩

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「口腔保健衛生学」で学んだ口腔疾患の病因、病態、予防法に関する知識をもとに、口腔の2大疾患であるう蝕と歯周病の病因、病態、予防処置に関する方法・技術を学び、歯科衛生士の業務としての専門的予防処置法について体系的に説明できる。

【授業の展開計画】

北田：歯科医師として大学および大学附属病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	う蝕と歯周病の基礎知識 (1) : 口腔内の付着物・沈着物、う蝕
2	う蝕と歯周病の基礎知識 (2) : 歯周病
3	予防の概要 (第一次、第二次、第三次)
4	食品とう蝕誘発性、う蝕予防のための食生活指導法
5	う蝕リスク検査法 意義、目的、各種検査法
6	う蝕リスク検査法 口腔乾燥状態の評価
7	フッ化物の応用 (1) : 総論、作用機序、安全性
8	フッ化物の応用 (2) : 全身応用、局所応用
9	フッ化物の応用 (3) : 歯面塗布法、洗口法、フッ化物配合歯磨剤
10	小窩裂溝填塞法、フッ化ジアンミン銀塗布法 (第二次予防)
11	歯周組織の評価 (検査) 法
12	口腔清掃方法、歯磨剤・洗口剤
13	スケーラーの種類とスケーリング法 (1) : 手用スケーラー
14	スケーラーの種類とスケーリング法 (2) : 超音波スケーラー、エアースケーラー
15	機械的歯面清掃法 (PMTc)

【履修上の注意事項】

授業前にテキストをよく読み、次回の内容について予習すること (15分)。
授業の内容について、十分に復習すること (30分)。

【評価方法】

レポート等の日常的学習成果 (20%)、定期試験 (80%) を総合して評価する。
フィードバックとしてレポートにコメントして返却する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論：全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)

【参考文献】

口腔保健・予防歯科学：安井利一、宮崎秀夫、鶴本明久、川口陽子、山下喜久、廣瀬公治 編 (医歯薬出版)
他、講義の中で適宜紹介する。

口腔疾患予防学実習 I (基礎技術)

担当教員 石井 里加子、金子 憲章、未定、北田 勝浩、淀川 尚子、松尾 文、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯周病予防を中心とした歯科衛生介入を行う上で必要な基礎技術および態度を習得する。

- ①クライアントの安心安全に配慮するための要点を説明することができる
- ②歯周病リスク要因を観察して整理することができる
- ③スケーリング時の作業姿勢を整え、基本操作ができる

【授業の展開計画】

模型実習室・臨床実習室を使用して、2部授業の形式で行う。

- 1- 2 歯周組織の診査方法とエキスポローリングの方法を習得する
マネキン操作方法と基本姿勢の決め方を理解する
- 3- 4 プローブとスケーラーの構造と把持法を習得する
プロービングとスケーリングの基本的操作方法を習得する
- 5- 6 上下前歯部のスケーリング操作方法を習得する
- 7-10 上下前歯部のスケーリングを相互に経験する（操作部位のプロービング）
左側臼歯部のスケーリング操作方法を習得する（上下前歯の復習）
- 11-14 左側臼歯部のスケーリングを相互に経験する（操作部位のプロービング）
右側臼歯部のスケーリング操作方法を習得する（左側臼歯部の復習）
- 15-18 右側臼歯部のスケーリングを相互に経験する（操作部位のプロービング）
シクルスケーラーのシャープニング技術を習得する（スケーリング復習）
- 19-20 超音波スケーラー・エアスケーラー・エアフローの操作方法を習得する
保健指導 電動歯ブラシ、ウォーターピック等の口腔清掃用具、デンタルリンス等を体験する
- 21-22 超音波スケーラー・エアスケーラー・エアフローの操作方法を習得する
- 23-24 歯科用機材の知識を深め、口腔ケアの実際を体験する（ウエルテック）
- 25-26 超音波スケーリングと歯面研磨の方法を習得する（3人組）
- 27-28 全顎スケーリング操作方法の復習（3人組）
- 29-30 実技試験

【履修上の注意事項】

- ・技術習得のために、課題意識をもって実習に取り組むこと。
- ・教員に助言を求めるなど、自ら問題を解決する態度をもって取り組むこと。
- ・問題の解決は開講回ごとに行い、次回実習にいかすようにすること。

【評価方法】

技術習得度評価(実技試験) , 小テスト:60%、各回のレポート : 30%、身だしなみ、忘れ物等 : 10%

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）

【参考文献】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版
適宜資料を配布

口腔疾患予防学実習Ⅱ(う蝕予防)

担当教員 北田 勝浩、石井 里加子、金子 憲章、未定、淀川 尚子、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

う蝕の一次予防に関する知識、方法および技術を体系的に説明できる。

【授業の展開計画】

北田：歯科医師として大学および大学附属病院勤務経験
 石井：歯科衛生士として障害者専門の歯科医療機関に勤務
 金子：歯科医師として大学および大学附属病院勤務経験
 淀川：歯科衛生士として病院勤務経験
 緒方：歯科衛生士として診療所勤務経験
 近藤：歯科衛生士として大学附属病院および附属介護施設勤務経験
 志垣：歯科衛生士として診療所勤務経験
 十時：歯科衛生士として病院勤務経験

- | | | |
|--------|-------------------------------|-------------------------|
| 1. | う蝕の一次予防法の基本的知識の理解 | (北田) |
| 2. | 口腔観察の基本的知識・技術の理解(模型実習) | (十時、淀川、北田) |
| 3-4. | 口腔観察の基本的知識・技術の理解(相互実習) | (十時、淀川、北田) |
| 5-6. | 口腔乾燥状態の評価方法の基礎的知識・方法の習得 | (北田、淀川、志垣) |
| 7-10. | う蝕活動性試験の検査方法の基本的知識・技術の理解 | (北田、緒方、十時) |
| 11-12. | う蝕リスクに関する歯科衛生過程の展開方法の理解 | (淀川、十時) |
| 13-14. | 口腔清掃状態の評価法の基本的知識・技術の理解 | (志垣、石井、緒方) |
| 15-16. | 口腔清掃方法の基本的知識・技術の理解 | (志垣、緒方、近藤) |
| 17-18. | 専門的歯面清掃の基本的知識・技術の理解(模型実習) | (淀川、緒方、志垣) |
| 19-20. | 専門的歯面清掃の基本的知識・技術の理解(相互実習) | (淀川、緒方、志垣) |
| 21-22. | フッ化物局所応用法(洗口、歯磨剤)の基本的知識・技術の理解 | (十時、淀川、北田) |
| 23-24. | フッ化物局所応用法(歯面塗布)の基本的知識・技術の理解 | (十時、淀川、北田) |
| 25-26. | 小窩裂溝?塞法の基本的知識・技術の理解(模型実習) | (北田、石井、金子、
近藤、志垣、十時) |
| 27-28. | 小窩裂溝?塞法の基本的知識・技術の理解(相互実習) | (北田、石井、金子、
近藤、志垣、十時) |
| 29-30. | う蝕予防に関する歯科衛生過程の基本的考え方・展開方法の理解 | (淀川、十時) |

【履修上の注意事項】

実習衣を着用し実習に臨む。
 事前に配布された資料、器材は必ず持参する。
 実習内容について、十分に予習および復習する(45分)。
 口腔保健臨床実習Ⅲ(発展実習)および口腔保健臨床実習Ⅳ(応用実習)の先修科目である。

【評価方法】

実習中の知識または技能の確認、レポート等の日常的学習成果により100%評価する。
 フィードバックとしてレポートにコメントして返却する。
 再試験は実施しない。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論：全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)

【参考文献】

フッ化物応用の科学(財団法人 口腔保健協会)
 新フッ化物ではじめる虫歯予防 筒井昭仁他 (医歯薬出版)

口腔疾患予防学実習Ⅲ(歯周病予防)

担当教員 淀川 尚子、石井 里加子、金子 憲章、北田 勝浩、松尾 文、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔疾患予防学は人間が日常生活を支障なく送れるように健康を保持・増進するための歯科衛生士の活動である。本実習では相互演習にて歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画、歯科衛生介入により支援方法を学び、対象者の病態や生活背景を把握し、個別性を捉えた予防管理の技術を習得することができる。

【授業の展開計画】

- 1講 アセスメントのためのクライアント情報の収集を相互に経験する (淀川)
- 2講 プロービングの操作方法を確認し、修正する (石井・淀川・松尾)
- 3-4講 情報の収集、口腔内評価および口腔保健指導を相互に経験する (淀川・十時)
- 5-6講 行動変容の理論を応用した患者教育法を習得する/ 歯科衛生計画を立案する (淀川)
- 7-8講 歯周組織の診査、プロービング操作を相互に経験する (金子・石井・松尾)
キュレットタイプスケーラーの構造・特徴を習得する
エクスプローラーの操作方法を習得する (薄井・淀川・緒方)
- 9-10講 歯周組織の診査、プロービング操作を相互に経験する (金子・石井・松尾)
キュレットタイプスケーラーの構造・特徴を習得する
エクスプローラーの操作方法を習得する (薄井・淀川・緒方)
- 11-12講 上下顎前歯部の操作方法を習得する (薄井・緒方・北田)
- 13-14講 上下顎前歯部のスケーリングを相互に経験する (淀川・未定・十時)
上下顎左側臼歯部のスケーラーの操作方法を習得する (薄井・緒方・北田)
- 15-16講 上下顎左側臼歯部のスケーラーの操作方法を習得する (薄井・緒方・北田)
上下顎前歯部のスケーリングを相互に経験する (淀川・未定・十時)
- 17-18講 上下顎左側臼歯部のスケーリングを相互に経験する (淀川・未定・十時)
上下顎右側臼歯部のスケーラーの操作方法を習得する (薄井・北田・松尾)
- 19-20講 上下顎右側臼歯部のスケーラーの操作方法を習得する (薄井・北田・松尾)
上下顎左側臼歯部のスケーリングを相互に経験する (淀川・未定・十時)
- 21-22講 上下顎右側臼歯部のスケーリングを相互に経験する (淀川・未定・十時)
全額スケーリング技術の修正を行う (薄井・北田・松尾)
- 23-24講 上下顎右側臼歯部のスケーリングを相互に経験する (淀川・未定・十時)
全額スケーリング技術の修正を行う (薄井・北田・松尾)
- 25-26講 キュレットタイプスケーラーのシャープニング技術を習得する (薄井)
- 27-28講 再評価時の歯周組織の検査方法、プロービング操作を相互に経験する (金子・石井・松尾)
スケーリング技術の習得度を評価する (薄井・淀川・緒方・未定)
- 29-30講 プレゼンテーションの作成方法を習得する (淀川・十時)

【履修上の注意事項】

実習に必要な器具等は掲示板にて確認すること。1講で配布するポートフォリオを毎回持参すること。各自予習(課題レポート、歯科衛生計画等)をして授業に臨むこと。(60分)

【評価方法】

日常学習成果(実習態度20%)、随時の小テスト・技術テスト・レポート・ケースプレゼンテーション(80%)を総合して評価する。
フィードバックとして課題レポートにコメントして返却する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)

【参考文献】

適宜紹介する。

口腔介護マネジメント論

担当教員 石井 里加子、阿部 敦、吉岡 久美

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔領域に疾病や障がいを抱え、日常生活を営むことが困難な状態にある人に対して、歯・口腔の健康の回復と維持・増進を図り、対象者の自立した生活と豊かな人生を支援することを学ぶ。

対象者の歯・口腔ならびに全身状態を把握し、専門的な口腔のケアを実施するための基礎知識を習得する。

【授業の展開計画】

石井：歯科衛生士として障害者専門の歯科医療機関に勤務

- | | | |
|---|---|----|
| 1 | 口腔介護の概念と歯科衛生士の役割について理解する | 石井 |
| 2 | 顎口腔機能の発達について説明できる | 石井 |
| 3 | 摂食嚥下のメカニズムについて説明できる | 石井 |
| 4 | 摂食嚥下障害の原因について説明できる | 石井 |
| 5 | 口腔保健に関連した日本の施策、制度について説明できる（医療保険、介護保険、歯科保険制度等） | 阿部 |
| 6 | 介護に関連した法律について説明できる（医療介護総合確保推進法と地域包括ケアシステム等） | 吉岡 |
| 7 | 口腔の疾患と異常の観察ができる | 石井 |
| 8 | 要介護者に対する安全な口腔のケアの方法について説明できる | 石井 |

【履修上の注意事項】

本科目は、発達支援臨地実習Ⅲ（高齢者）の先修科目である。
また、3年生1学期の口腔介護マネジメント実習につながる基礎内容となる。
開講回ごとに事前学習（15分）、復習（60分）を行うこと。

【評価方法】

試験80%、提出物20%を総合して評価する。
フィードバックとして、レポートはコメントまたは解説し返却する。

【テキスト】

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版

【参考文献】

適宜資料を配布あり。最新歯科衛生士教本 高齢者歯科，障害者歯科 医歯薬出版
はじめて学ぶ歯科衛生士のための歯科介護 第3版 医歯薬出版

口腔介護マネジメント実習

担当教員 石井 里加子、未定、大池 貴行、金子 憲章、北田 勝浩、松尾 文、緒方 有紀、未定、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

摂食嚥下に関連する器官の構造・機能・メカニズムについて学び、障がい児・者や要介護高齢者における摂食嚥下障害の原因と病態を理解する。さらに、口腔内環境を整備し、摂食嚥下障害を有する対象者への効果的なリハビリテーションを実施するための基礎的な知識や手技、介護方法を習得する。そして、摂食嚥下障害を有する対象者に対して歯科衛生士の専門性を活かした歯科衛生介入について考察する。

【授業の展開計画】

石井：歯科衛生士として障害者専門の歯科医療機関に勤務経験
松尾、緒方、志垣、十時：歯科衛生士として病院や施設に勤務経験

- | | | |
|--------|----------------------------------|---------------|
| 1. | 口腔介護マネジメントにおける歯科衛生士の役割を理解する | (石井) |
| 2. | 口腔・咽頭領域の解剖と生理を理解する | (金子) |
| 3. | 摂食嚥下のメカニズムと機能の発達を理解する | (石井) |
| 4. | 摂食嚥下障害の原因と摂食嚥下リハビリテーションの進め方を理解する | (石井) |
| 5-6. | 要介護者に対する清掃用具の選択と安全な口腔ケア実施方法を習得する | (石井・十時・緒方・北田) |
| 7-8. | 障がい児・者に対する口腔ケアの介助方法と実施方法を習得する | (石井・緒方) |
| 9-10. | 口腔ケアの体位確保に必要な介助技術を習得する | (十時・松尾・北田) |
| 11-12. | 個別性に合わせた清掃用具の選択と口腔ケアの方法を習得する | (石井・緒方) |
| 13-14. | 口腔ケアの体位確保に必要な介助技術と口腔ケア方法を習得する | (十時・松尾・志垣・北田) |
| 15-16. | 摂食嚥下障害の病態と診察・診断を理解する | (山口・石井) |
| 17-18. | 摂食嚥下にかかわる検査評価方法を習得する | (石井・志垣・十時) |
| 19-20. | 摂食嚥下障害に対する間接訓練法を習得する | (志垣・石井・十時) |
| 21-22. | 摂食嚥下障害に対する呼吸訓練法を習得する | (大池・石井) |
| 23-24. | 摂食嚥下障害に対する直接訓練法を習得する 1 姿勢・食物形態 | (石井・志垣・十時) |
| 25-26. | 摂食嚥下障害に対する直接訓練法を習得する 2 直接訓練法 | (石井・志垣・十時) |
| 27-28. | ベットサイドでの口腔ケアを習得する | (石井・十時・志垣・松尾) |
| 29-30. | リスクマネジメントの基本技術を習得する、実技試験 | (石井・十時・志垣・松尾) |

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、次回の内容について予習すること（30分）。
実習内容について復習を行うこと（60分）。
口腔保健臨床実習Ⅲ（発展実習）・Ⅳ（応用実習）の先修科目である。

【評価方法】

小テスト50%、レポート・提出物50%を総合して評価する。
フィードバックとして、レポートに対してはコメントまたは事後解説する。

【テキスト】

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版
他、講義の中で適宜紹介する。

【参考文献】

口腔機能向上マニュアル 厚生労働省
はじめて学ぶ歯科衛生士のための歯科介護 新井俊二監修 医歯薬出版

健康教育総論

担当教員 薄井 由枝

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

健康とQOLを高めるためには、個人や集団または地域が直面している健康課題を明らかにし、社会環境の整備とともに、対象とする個人や集団が望ましい保健行動がとれるよう健康教育が必要となる。本講義では、歯科衛生における健康教育を推進するうえで必要な健康教育の基礎知識を習得する。

【授業の展開計画】

1. 健康の定義と病気の概念（病理学・免疫学など）
2. 健康維持の概念（ヘルスプロモーションなど）
3. 健康教育の重要性と方法
4. STD、Drug abuseと健康教育
5. 健康教育に用いる医療コミュニケーション
6. 歯科衛生士の健康教育業務（頭頸部内外の観察）
7. ライフステージからみた健康教育と歯科衛生活動
8. 歯科衛生士としての健康に関する社会的責任

【履修上の注意事項】

本科目は、2年生で学ぶ口腔保健指導論や3年生以降に実施される臨床実習や臨地実習につながる授業である。開講回ごとに事前学習（30分）、復習（60分）を行うこと。

【評価方法】

授業ごとに実施する確認課題で100%評価する。確認課題は小テストとレポート。提出物はフィードバックとしてコメントをして返却する。

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論，医歯薬出版

【参考文献】

最新歯科衛生士教本 栄養と代謝・病理学・解剖学，
3分でできる 衛るための口腔内外チェック 永末書店

デンタルスタッフの口腔衛生学 医歯薬出版

口腔保健指導論

担当教員 松尾 文

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

対象者の歯・口腔の健康を維持増進するために、健康と疾患の概念を理解し、プロフェッショナルケア・セルフケアの基本となる論理的思考の基礎を学ぶ。専門的立場から助言や支援を行うために必要な知識を習得し、ライフステージ別の特徴を理解した上で支援方法について考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	口腔の健康を保持増進することの意義を理解する
2	アセスメント、情報収集
3	歯ブラシ、その他清掃用具の選択
4	口腔清掃用具の使用目的・使用方法
5	対象者に合わせた歯科保健指導
6	行動変容に関する理論
7	面接技法
8	妊産婦期における口腔保健指導
9	乳幼児期における口腔保健指導
10	学童期における口腔保健指導
11	青年期・成人期における口腔保健指導
12	老年期における口腔保健指導
13	障がい者に対する口腔保健指導
14	禁煙指導、歯科衛生課程
15	業務記録（SOAPIEを理解する）

【履修上の注意事項】

覚えるのではなく、考えること、それを自分の言葉で言語化することが中心の授業です。そのため、本講では予習が最も重要になります。毎回授業の終わりに、予習範囲は指示します(120分)。

【評価方法】

試験：60%、レポート・提出物：40%
フィードバックとして、課題レポートにコメントして返却します。

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論，医歯薬出版

【参考文献】

公益社団法人日本歯科衛生士会 監修 歯科口腔保健の推進に向けて ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック，医歯薬出版

食生活指導

担当教員 薄井 由枝

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

食生活は直接に口腔疾患や全身疾患と関係する。

歯科衛生士は、健康を維持・増進する役割を担うので、栄養学・生化学の基礎知識と技能を総合的に習得する。

①五大栄養素の基本的な役割を学ぶ。②食品成分と食品分類、ライフステージ別の栄養、食生活習慣について学ぶ。③病態に対する食生活指導について説明することができ、食事指導内容を立案することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	食生活と栄養（消化・吸収）
2	食事摂取基準（エネルギー必要量・代謝）
3	栄養素の働き（糖質・タンパク質・脂質）
4	栄養素の働き（ビタミン類・ミネラル類・食物繊維・水）
5	食品の成分（食品成分表）とカロリー
6	食べ物のおいしさ（味覚・物性・テクスチャー）
7	ライフステージ別の栄養と調理（乳幼児・食育・おやつ指導・成人期・高齢期）
8	食生活（嗜好と中毒）と健康（現状・課題・取り組み）
9	病態と食生活指導（WHOの指針とその背景）
10	病態と食生活指導（糖尿病・脂質異常症・痛風・抗がん剤治療患者）
11	病態と食生活指導（高血圧症、動脈硬化症、腎臓病、骨粗鬆症）
12	食生活指導の立案：歯科受診成人患者における食生活指導（グループワーク）
13	食生活指導の立案：歯科受診小児患者における食生活指導（グループワーク）
14	食生活指導の立案：歯科受診有病患者におけるの食生活指導（グループワーク）
15	食生活指導の立案：歯科における保健指導のなかでの食生活指導（発表）

【履修上の注意事項】

準備として、1年次に学習した生化学・解剖生理学Ⅱ・生活栄養学の内容（消化・吸収・代謝など）の復習をしてください。授業中に配布する資料・プリントはファイルし、教科書と一緒に持参してください。

【評価方法】

期末試験50%、レポートおよび発表内容50%は、フィードバックとしてコメントをして返却します。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 栄養と代謝、および 病理学・口腔病理学 医歯薬出版

【参考文献】

10% Human, アランナコリン（河出書房新社）

地域口腔保健学実習

担当教員 淀川 尚子、未定、徳永 淳也、北田 勝浩、古賀 由紀子、石井 里加子、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・健康教育の対象となるコミュニティおよびライフステージを認識した指導計画および教育媒体を作成する態度を習得する。
- ・地域歯科保健計画の要点を習得して、う蝕り患抑制を目的に地域特性を把握した歯科保健計画を立案する。

【授業の展開計画】

1. 地域口腔保健における活動の目的を理解する（淀川）
2. 発達口腔保健における活動の目的を理解する（淀川・未定・緒方）
3. 講義：指導案の作成方法を理解する（古賀）
4. 講義：コミュニティの文化を考慮した口腔保健活動を理解する（淀川）
5. 演習：指導案の作成方法を体験する（古賀）
6. 演習：コミュニティの文化を考慮した口腔保健活動の方法を体験する（淀川）
7. 保育所における口腔保健活動を理解する（未定・淀川）
8. 保育園児集団を対象とする指導目的の設定と指導案を作成する（未定・淀川）
- 9-12. 保育園児集団を対象とする指導目的に沿った媒体作成をする（未定・淀川）
- 13-14. 集団指導の発表と評価（未定・淀川・石井・薄井・徳永・北田・緒方・十時）
15. 高齢者施設における口腔保健活動を理解する（緒方・淀川）
16. 高齢者施設入所者を対象とする指導目的の設定と指導案を作成する（緒方・淀川）
- 17-18. 高齢者施設入所者を対象とする指導目的に沿った媒体作成をする（緒方・淀川）
- 19-20. 高齢者を対象とした集団指導を相互評価する（緒方・淀川）
- 21-22. プリシード・プロシードモデルにあてはめて地域の歯科保健目標を設定する（淀川）
23. 地域口腔保健計画立案の考え方を理解する（淀川）
24. 5歳児のう蝕抑制を目的とする市町村歯科保健計画を立案する（淀川）
- 25-26. 市の広報媒体を作成する（淀川）
- 27-28. 熊本市歯科保健事業を知り地域における口腔保健活動を理解する（淀川）
- 29-30. 地域住民に対する保健指導計画を作成し、考察する（淀川）

【履修上の注意事項】

各人が役割を確認して、グループとして協働する態度をもって取り組むこと。
これまでの口腔保健学で学んだ科目を基礎としているので、事前に関連する知識について調べて臨むこと。
(60分)

【評価方法】

作製物：60%、レポート40%
フィードバックとして作製物およびレポートにコメントする。

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 保健生態学（医歯薬出版）

【参考文献】

日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開（保健同人社）

歯科診療補助総論

担当教員 松尾 文

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

歯科医療現場におけるチーム診療を円滑に行うために、歯科診療および診療介助業務に関する基本的な知識を習得する。①歯科診療の補助と介助の違いを説明できる②医療安全の概念と感染予防対策を説明できる③滅菌・消毒

の定義および方法について述べる④歯科材料の種類、成分、用途を説明できる⑤チーム歯科医療の必要性を述べる

【授業の展開計画】

- 1 歯科診療補助・介助とは、歯科診療室の基礎知識、歯科診療の流れと診療補助
- 2 医療安全・感染予防
- 3 滅菌・消毒
- 4 主要歯科材料の種類と性質（印象材、石膏、ワックス）
- 5 主要歯科材料の種類と性質（合着材、仮封材）
- 6 主要歯科材料の種類と性質（成型歯冠修復用コンポジットレジン、シーラント）
- 7 全身疾患をもつ患者と歯科診療
- 8 チーム歯科医療、周術期における口腔管理、歯科訪問診療

【履修上の注意事項】

授業後に復習をしてください。

【評価方法】

期末試験（80％）、レポート・提出物（20％）により評価する。

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論，医歯薬出版

【参考文献】

全国歯科衛生士教育協議会監修：新歯科衛生士教本 歯科診療補助，医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会監修：新歯科衛生士教本 歯科器械の知識と取り扱い，医歯薬出版

歯科診療補助実習 I (基礎)

担当教員 薄井 由枝、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯科医療現場におけるチーム医療を安全かつ円滑に行うために、療法別の歯科診療補助および歯科診療介助業務に関する知識と、基本的な技術および態度を習得する。①歯科における療法別の治療の流れが説明できる②歯科における治療の流れと使用器具を関連づけることができる③日常的手洗いの方法を実施できる④歯科において使用する基本的な器具を適切に使用することができる

【授業の展開計画】

- 1 歯科診療補助の意義、補助と介助（薄井）
- 2 歯科診療室の設備・機器（松尾）&見学・実習（松尾・薄井）
- 3-4 ユニットの使用方法、ごみの分別、患者誘導 実習（松尾・緒方・薄井）
- 5-6 ニュートラルポジション&アーゴノミクス 実習（薄井）
- 7-8 医療コミュニケーション 実習（薄井）
- 9-10 セメント、成形修復材、印象材、石膏の種類と用途 実習（松尾・十時・緒方）
- 11-12保存修復・歯内療法・歯周病治療・補綴治療に使用する器材と器材の確認 実習（松尾・十時・緒方）
- 13-14 口腔外科治療・麻酔・矯正治療に使用する器材と器材の確認 実習（松尾・十時・緒方）
- 15-16 小児・障がい者・高齢者・訪問歯科診療に用いる器材と器材の確認 実習（石井・緒方・薄井）
- 17 スタンダードプリコーション（薄井）
- 18 器械・器具の消毒・滅菌 実習（松尾・緒方・薄井）
- 19-20 日常的手洗いの方法、鉗子の使い方 実習（淀川・十時）
- 21 基本セット（ピンセット・ミラー・探針）の使用方法 実習（十時・淀川）
- 22 綿球・ガーゼ・ロールワッテ・ブローチ綿栓作成法 実習（志垣・松尾）
- 23-24 ポジショニング・ミラーテクニックについて 実習（松尾・十時・薄井）
- 25-26 口腔内洗浄の方法、バキューム操作（松尾） 実習（松尾・十時・薄井）
- 27-28 総合実習（薄井・石井・淀川・松尾・志垣）
- 29-30 筆記試験60分（薄井） 実技試験（薄井・石井・淀川・松尾・志垣）

【履修上の注意事項】

1年次に学習した歯科診療補助総論を復習してください。
実習の内容については、テキストや資料をよく読み、予習（30分）および復習（40分）を行ってください。
実習を行う場合には、実習衣を着用してください。

【評価方法】

実技試験60%、筆記試験40%

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論，医歯薬出版
松井恭平ほか編：歯科衛生士のための歯科臨床概論，医歯薬出版

【参考文献】

全国歯科衛生士教育協議会監修：新歯科衛生士教本 歯科器械の知識と取り扱い，医歯薬出版

歯科診療補助実習Ⅱ(臨床)

担当教員 未定、石井 里加子、未定、金子 憲章、北田 勝浩、淀川 尚子、松尾 文、緒方 有希、十時 彩

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割や意義について理解し、実際の歯科診療補助を安全かつ円滑に行うために必要な知識・技術・態度を身につけることができる

【授業の展開計画】

- 1・2. フォーハンドテクニック・共同動作を習得する(近藤・緒方・十時)
 - 3-6. 口腔内診査の基本を理解する(淀川・金子・徳永)
合着材・接着剤の種類・用途・性質について理解し、取扱いを実施する(近藤・十時)
 - 7・8. 修復材・仮封材・根管充填剤の種類・用途・性質について理解し、取り扱いを実施する(十時・近藤)
 - 9・10. タッフルマイヤー型マトリックスバンドの取扱いを習得する(金子・近藤・北田)
光重合型コンポジットレジン修復の適応・手順・使用器具について理解する(金子・近藤・北田)
 - 11-14. 口腔内写真の撮り方を理解する(志垣・石井・徳永)
ラバーダム防湿の意義を理解し、手順に沿って実施する(近藤・金子・北田)
 - 15・16. アルジネート印象材・石膏の取扱いを理解する(近藤・緒方・志垣)
 - 17-22. アルジネート印象採得(近藤・緒方・十時・淀川・徳永)
レントゲン撮影の手順および補助の方法を理解する(金子・志垣・近藤)
外科器具の取扱いについて理解する(淀川・志垣)
 - 23-26. アルジネート印象材を用いて印象採得・スタディーモデルの作成法を理解する(緒方・北田・徳永・十時)
ラバー系印象材・寒天印象材を用いた連合印象を理解する(近藤・金子)
 - 27・28. レントゲンの読影およびマウントの方法を理解する(金子・近藤)
歯科診療時の診療補助におけるセメント練和、アルジネート印象練和・治療に用いる器具の取扱いを習得する(近藤・志垣・十時)
 - 29・30. 実技試験(近藤・金子・淀川・志垣・十時)
- 臨床実習室および模型実習室を使用して、2部形式の実習を行う場合がある

【履修上の注意事項】

演習の内容についてテキストや資料をよく読み、予習して臨むこと。
演習後は、十分に復習すること。
実習衣を着用し、実習に臨むこと。

【評価方法】

実技試験：50%、随時の小テスト・レポート・成果物：50%

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論(医歯薬出版)、最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法(医歯薬出版)、最新歯科衛生士教本 口腔外科(医歯薬出版)、わかりやすい歯科放射線学第3版(学健書院)

【参考文献】

適宜、紹介する

歯科診療補助実習Ⅲ(応用)

担当教員 松尾 文、石井 里加子、未定、金子 憲章、徳永 淳也、北田 勝浩、淀川 尚子、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでの歯科診療補助実習Ⅰ・Ⅱを通して学んだ基本的技術を再確認しながら、専門的知識を様々な場面で引き出し、診療の補助・介助の臨床場面に応用していくことで知識の定着と技術の向上を図る。臨床実習において歯科診療の補助・介助業務を実践するために、実践可能な臨床技術を習得することが本実習のねらいである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1-2 歯髄切断法、抜髄法、根管充填処置 松尾・金子・石井
2	3-4 既成レジン冠を使用した暫間被覆冠の作成 松尾・緒方・徳永
3	5-6 パノラマ・頭部X線規格撮影／修復物・補綴物別の患者指導 金子・十時／松尾・北田
4	7-8 パノラマ・頭部X線規格撮影／修復物・補綴物別の患者指導 金子・十時／松尾
5	9-10 矯正治療時の診療補助／印象採得 北田・未定／松尾・緒方・石井
6	11-12 矯正治療時の診療補助／印象採得 北田・未定／松尾・緒方・石井
7	13-14 スタディモデルの作成 松尾・緒方・十時・未定
8	15-16 矯正治療時の診療補助(結紮法)／症例分析法 北田・石井／松尾
9	17-18 口腔外科処置時の診療補助／全身管理と偶発事故対応 松尾・金子・石井／淀川・十時
10	19-20 口腔外科処置時の診療補助／全身管理と偶発事故対応 松尾・金子・石井／淀川・十時
11	21-22 歯周外科処置における診療補助 金子・松尾・薄井
12	23-24 インプラント治療における診療補助 松尾・淀川・北田
13	25-26 患者説明総合実習 松尾
14	27-28 ホワイトニング、CAD/CAM、レーザー 松尾
15	29-30 臨床技術総合実習 松尾・金子・石井・未定

【履修上の注意事項】

実習に必要な器具等は掲示板にて確認し持参すること。
各自予習(90分)して授業に臨み、授業後は復習(60分)をして知識の定着を図ること。

【評価方法】

日常的学習成果(態度・身だしなみを含む、10%)、随時の小テスト・実技テスト・事前課題・事後レポート(50%)、総合実技テスト(40%)を総合して評価する。
フィードバックとして、課題レポートにコメントして返却します。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論、歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法、咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴、咀嚼障害・咬合異常 2 歯科矯正、顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔(医歯薬出版)

【参考文献】

適宜紹介する。

歯科医療安全学

担当教員 淀川 尚子、徳永 淳也

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

安全で質の高い医療を目指すには医療安全の考え方をもとに事故防止やエラーを防止することが重要である。医療安全の理解を深め、歯科医療における事故の背景や要因を認識し、事故防止のための予防対策および事故発生時の対応について習得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	医療における安全の概念を理解する (徳永)
2	歯科医療における安全管理の考え方を理解する (淀川)
3	スタンダードプリコーションに基づいた感染管理について理解する (淀川)
4	歯科医療における感染予防対策を理解する (淀川)
5	事例を通して感染予防対策を考える (淀川)
6	医療事故の原因とヒューマンエラーについて考える (淀川)
7	歯科医療におけるリスクマネジメントの実際を理解する (淀川)
8	事例を通して医療事故防止のため危険因子を挙げ予防対策を考える (淀川)
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

講義資料をファイルし、教科書と一緒に持参すること。事前学習は教科書を熟読し、新聞、ニュース等で報道される医療事故に関心をもち、情報収集(60分)を行う。事後学習は講義資料や教科書を参考に復習(30分)し、疑問点は質問等を行い理解するようにする。

【評価方法】

小テスト50%・レポート50%(随時)を総合して評価する。
フィードバックとして課題レポートにコメントして返却する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 全国歯科衛生士教育協議会監修 (医歯薬出版)

【参考文献】

適宜紹介する。

歯科医療管理学

担当教員 徳永 淳也、反後 雅博

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯科医学の社会への適用である歯科医療では、その過程において社会との間に様々な摩擦が生じることも少なくない。医療費高騰を背景として歯科医療の継続的な質改善による質保証をはかりつつ、効率的、効果的に歯科医療サービスを提供するという新たな医療経済学的命題にも直面している。医療機関の組織管理から保険請求業務の実際や個別の管理学的課題を紹介し、歯科医療の質と評価に関する捉え方や理論について理解を深めることを目的とする。

【授業の展開計画】

1. 歯科医療管理学概論：歯科医療の管理学的構成(徳永)
2. 歯科医療システムの評価(1)：医療システムの鳥瞰的理解(徳永)
3. 歯科医療システムの評価(2)：成果(Outcome)評価と医療経済学的評価(徳永)
4. 歯科医療における品質改善：質改善活動と質保証の視点と理解(徳永)
5. 歯科医療保険制度概説(反後)
6. 歯科医療保険制度の運用と問題点、今後の課題(反後)
7. 歯科医療保険請求業務の実際(1)：書面による請求業務(反後)
8. 歯科医療保険請求業務の実際(2)：コンピュータによる電子的請求(反後)

【履修上の注意事項】

前半の講義は確認課題を毎時間課すので欠席しないように努めること。実習で学んだ歯科医療における治療や歯科衛生士の行為は、制度体系として患者に何をもたらしていたか、を批判的に吟味して講義に臨み、医療管理学的な考え方が医療の質にどのように貢献するかを講義後に復習すること。(120分)

【評価方法】

講義時の確認レポート50%、定期試験50%で評価する。適宜、講義中にレポートには解説を行う。

【テキスト】

プリントを配布する(徳永担当分)

歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 第9版(医歯薬出版、末高武彦 著)(反後担当分)

【参考文献】

歯科医療管理—医療の質と安全確保のために 高津茂樹(編) 医歯薬出版
新社会歯科学 可児徳子 末高武彦編著 医歯薬出版

口腔保健臨床実習 I (早期実習)

担当教員 未定、石井 里加子、未定、金子 憲章、徳永 淳也、北田 勝浩、淀川 尚子、松尾文、緒方 有希、十時 彩

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 臨床の場における歯科衛生士の役割を考える。
- (2) 口腔保健の活動の場として臨床を認識し、口腔保健学について学びを深める動機づけとする。
- (3) 一次医療と三次医療の違いを理解する。

【授業の展開計画】

到達目標

- (1) 歯科衛生士の役割を列挙することができる
- (2) 患者のニーズを列挙することができる
- (3) 一次医療と三次医療について、歯科診療所と鹿児島大学病院での実習を比較して述べることができる
- (4) 2年次における学習目標を列挙することができる

1. 歯科診療所

歯科医療全体の流れを理解する

歯科衛生士の業務である歯科予防処置、歯科診療補助、口腔保健指導の実際と活動の場を見学する。

2. 鹿児島大学病院

1) 大学病院の機能と各診療科の専門性ならびに歯科衛生士、看護師等の役割を理解する。

保存科・歯周病科・冠ブリッジ科・義歯補綴科・小児歯科・矯正歯科・口腔保健科

口腔外科・口腔顎顔面外科・歯科病棟

2) 歯科衛生士の業務の実際および歯科医療従事者(歯科医師、看護師、放射線技師等)の活動の場を見学する。

<実習計画>

オリエンテーション 半日、実習前指導 1日半、歯科診療所 4日、鹿児島大学病院 1日、

実習後指導 半日

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って臨むこと。

実習した事柄は、振り返りを行い、以降の実習に生かせるように考察をすること。

健康管理に注意して実習に臨むこと。

先修科目(口腔保健学概論、臨床歯科医学概論)の単位認定された者。

【評価方法】

実習指導者評価(60%)、学内教員評価(40%)

【テキスト】

実習前指導で配布した資料、専門科目講義で使用した教科書

歯科衛生士のための歯科用語小辞典(基礎編、臨床編)

【参考文献】

適宜、紹介する

口腔保健臨床実習Ⅱ（基礎実習）

担当教員 薄井 由枝、石井 里加子、金子 憲章、徳永 淳也、北田 勝浩、淀川 尚子、松尾 文、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔保健学における専門分野・専門基礎分野で学んだ知識と見学、体験を関連づけて歯科衛生士の役割を考察する。一次医療を観察して口腔保健の意義を考え口腔保健学を学ぶ態度を養う。

【授業の展開計画】

歯科診療所、歯科口腔病院において臨床・臨地実習要項に基づいて実習を行う。

- (1) 医療人としての身だしなみで臨むことができる。
- (2) 見学および体験した処置法について記述できる。
- (3) 見学および使用した器具器材の名称を記述できる。
- (4) 患者のことは、歯科診療録、歯科衛生士の業務記録から、患者のニーズを拾い出すことができる。
- (5) 患者に対する思いやりを歯科診療所のスタッフの言動から列挙することができる。
- (6) 患者が安全に受診できるように実習生にできる配慮を3つ以上挙げるができる。
- (7) 一次医療における歯科医師と歯科衛生士との役割分担について具体例を挙げて述べるができる。
- (8) 今後の学習課題を3つ以上挙げて報告することができる。

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習(予習40分)を行って望むこと。
実習後は振り返り(復習60分)を行い、次の実習につなげること。
体調管理に注意して臨むこと。

【評価方法】

実習指導者評価60%、学内日・実習指導日評価10%、実習記録・レポート30%。提出物にはフィードバックとしてコメントをして返却します。

【テキスト】

専門科目の教科書および講義・演習で用いた資料、実習前指導時の配布資料

【参考文献】

眞木吉信ら監著：歯科衛生士教育サブテキスト 臨床実習HAND BOOK, クインテッセンス出版

口腔保健臨床実習Ⅲ(発展実習)

担当教員 松尾 文、未定、石井 里加子、未定、徳永 淳也、北田 勝浩、淀川 尚子、緒方 有希、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 6

準備事項

備考

【授業のねらい】

学外実習を通して臨床の場における歯科衛生士の役割を理解し、自分の目標とする歯科衛生士像を描くことができる。生活者である患者を通して、口腔保健の役割と機能について理解し、これまでに学んだ知識・技術の習得を図る。また、人々とのコミュニケーションを介して人を感じ、対象者の問題を総合的に把握し理解する能力を身につけ、課題解決に必要な論理的思考力を養うことができる。

【授業の展開計画】

- (1) 診療ごとに必要な器材の準備、取り扱いができる。
- (2) 対象者に合わせてコミュニケーションをとることができる。
- (3) 対象者のニーズを推測することができる。
- (4) 実習指導者からの指示内容を理解し、実践できる。
- (5) スタッフ(他職種を含む)と連携して共同動作、必要なサービスができる。
- (6) 歯科衛生業務を行う上で、情報収集、分析、計画立案ができる。
- (7) 対象者に応じた保健管理指導と業務記録ができる。
- (8) 施設のルールに従って院内感染予防、環境整備を実践できる。
- (9) 再発防止に役立てるために、医療事故や潜在的医療事故に関する情報を報告することができる。
- (10) 実習体験から口腔保健上の問題を発見し、キーワードを挙げて文献を検索することができる。

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って臨むこと。
実習記録をみて振り返り、疑問に思ったことは確認すること。
健康管理に注意し、報告・連絡・相談を徹底すること。

【評価方法】

実習指導者評価(50%)、教員評価(40%)、実習中および学内日の成果物(10%)で評価する。

【テキスト】

専門科目の教科書と講義で用いた資料、実習前指導の資料。

【参考文献】

臨床実習 HAND BOOK監修：眞木吉信他

口腔保健臨床実習Ⅳ(応用実習)

担当教員 十時 彩、松尾 文、北田 勝浩、淀川 尚子、石井 里加子、徳永 淳也、未定、緒方 有希、未定

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

多職種が共同する場面において、様々な健康問題を持つ対象者の健康及び“生活の質”(QOL: Quality of Life)の維持向上に寄与し、他職種との共同を通して“支援”できる基礎能力を涵養する。

【授業の展開計画】

目的

- (1) 多職種が協働する場面における歯科衛生業務のあり方を考察し、口腔保健の価値を追求する。
- (2) 医療依存度の高い対象者の身体的・心理的・社会的側面に口腔保健が与える影響を考察し、全人的な歯科衛生活動を実践するための能力を身につける。
- (3) 対象者のQOL向上を目指し、これまでに習得した知識・技術を対象者の支援に活用する。
- (4) 対象者とのコミュニケーションを介して人を感じ、言語的・非言語的コミュニケーション能力を身につける。
- (5) 臨床場面における課題を感取し、課題解決に必要な論理的思考力を養う。

目標

- (1) 保健・医療・福祉の他職種との連携において、多職種間で共有する対象者のゴール(目標)を挙げることができる。
 - (2) 対象者の行動や発言を根拠として口腔保健上のニーズを推測する。
 - (3) 歯科衛生士業務を行う上で、情報収集、分析、計画立案により対象者のニーズを解決する方法を身につける。
 - (4) 他職種との連携において口腔保健の専門性を活かした支援ができる。
 - (5) 対象者に応じた口腔保健指導と業務記録ができる。
 - (6) 施設のルールに従って院内感染予防、環境整備を実践できる。
 - (7) 医療事故や潜在的医療事故に関する情報を報告することができる。
 - (8) 実習の体験から解決すべき問題を発見し、文献検索により課題解決へと導く方法を身につける。
 - (9) 倫理的配慮が必要な場面を挙げることができる。
 - (10) 入院患者の一日の生活から他職種の援助内容を列挙する。
 - (11) 入院患者の疾患、障害のメカニズムや経過、検査、治療について説明できる。
 - (12) 入院患者の食事、口腔衛生への援助について考察する。
- ※ (9)、(10)、(11)、(12)は病棟実習での到達目標とする。

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って臨むこと。
実習記録をみて振り返り、疑問に思ったことは確認すること。
健康管理に注意し、連絡・報告・相談を徹底すること。

【評価方法】

実習指導者評価(50%)、教員評価(40%)、実習および学内日の成果物(10%)で評価する。

【テキスト】

専門科目教科書および講義で用いた資料

【参考文献】

歯科衛生士教育サブテキスト 臨床実習HANDBOOK(クインテッセンス)

地域口腔保健臨地実習

担当教員 淀川 尚子、石井 里加子、未定、徳永 淳也、北田 勝浩、松尾 文、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域住民の健康およびQOLの維持向上支援について口腔保健の観点から学ぶために、玉名市・玉東町・長洲町保健センターおよび熊本市区役所保健子ども課において実習する。

【授業の展開計画】

1. 玉名市・玉東町・長洲町保健センター
 - 1) 住民の健康増進とのかかわりの観点から、保健センターの機能を理解する
 - 2) 住民の健康増進を目指す多職種連携を理解する
2. 熊本市区役所保健子ども課
 - 1) 熊本市における保健行政の概要を理解する
 - ・ 歯科衛生士の役割を説明することができる
 - ・ 各区役所保健子ども課の事業を分類することができる
 - 2) 健診事業を体験する
 - ・ 歯科健診事業の実施手順を説明することができる
 - ・ 受診者の健康上の問題を報告することができる
 - ・ 多職種協働の具体例を記録することができる
 - 3) 健康相談事業を体験する
 - ・ ライフステージごとの事業を列挙できる
 - 4) 普及啓発事業（健康教育）を体験する
 - ・ 実習する健康教育の目的と方法を説明することができる
 - ・ 普及啓発活動の実際例を報告することができる
 - 5) フッ化物応用を体験する
 - ・ フッ化物歯面塗布ならびフッ化物洗口における指導上の要点を説明することができる

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って実習に望むこと。
健康管理には特段の注意をして実習に望むこと。
毎日、事前学習としてまとめたレポートを読み返して復習（30分）すること。

【評価方法】

実習指導者評価(60%)と教員評価(40%)を併せて総合的に評価する。
フィードバックとして実習記録にコメントして返却する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学（医歯薬出版）

【参考文献】

臨地実習HAND BOOK 監修：眞木吉信他

発達支援臨地実習 I (小児)

担当教員 未定、石井 里加子、徳永 淳也、未定、北田 勝浩、淀川 尚子、松尾 文、緒方 有希、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 乳幼児の成長・発育を観察し、歯科衛生士として乳幼児に対する支援を考察する
- (2) 保育・教育活動に参加し乳幼児の行動を観察し、理解する
- (3) 保育・教育の場で働く職種の役割を理解し、連携の中で歯科衛生士としての役割を考察する

【授業の展開計画】

到達目標

- (1) 実習配置された園児のクラスを中心に保育・教育活動に参加し、子どもの日常生活を観察する
- (2) 対象園児の食事・遊び・清潔について、情報を整理することができる
- (3) 保育士・幼稚園教諭等の乳幼児に対する支援を観察し、記録することができる
- (4) 体験した生活自立(食事・清潔等)への援助を報告することができる
- (5) 遊びを通じて園児とコミュニケーションすることができる
- (6) 幼児の成長・発育段階を観察し、事前学習した内容と比較し、述べることができる
- (7) 対象児に応じた口腔保健指導を立案・実施することができる
- (8) 感染防止や事故防止、口腔清掃時の安全確保に配慮することができる
- (9) 体験・観察したことから乳幼児の口腔保健に対する支援についての考えを述べることができる

実習内容

本実習の目的を達成するために以下の項目について積極的に取り組むこととする

a実習配置された園児のクラスを中心に保育・教育活動に参加し、子どもの発達段階および日常生活の観察

b対象園児と関わり、食行動、清潔行動、遊び・コミュニケーションを観察する

c生活自立(食行動、清潔行動)への援助

dリスクマネジメント(感染防止や事故防止、口腔清掃時の安全)の適切な実施

*カンファレンスの実施

オリエンテーション時に決定したテーマに基づき、実習施設において実習指導者参加のもとカンファレンス(発表および質疑応答：約30分程度)を実施する

〈実習計画〉

実習前指導 1日、保育所・幼稚園実習 5日、実習後指導 半日

*実習前に、配置施設を事前訪問しオリエンテーションを行う

【履修上の注意事項】

実習要項の熟読および事前学習レポートを作成し、幼児の成長・発育について学習し実習に臨むこと。

健康管理には特段の優位をして臨むこと。

指定された身だしなみで実習すること。

先修科目(歯科診療医学Ⅳ(小児・障がい児者)、地域口腔保健学実習)の単位認定された者。

【評価方法】

実習指導者評価(60%)、学内担当教員(40%)

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 小児歯科学(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

【参考文献】

適宜、紹介する

発達支援臨地実習Ⅱ (障がい児者)

担当教員 石井 里加子、徳永 淳也、未定、北田 勝浩、淀川 尚子、松尾 文、緒方 有希、未定、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

障がい児・者施設や特別支援学校の概要と他職種の業務や役割を理解し、介助を必要としている人々への支援方法を学ぶ。さらに、障がいに応じたコミュニケーション方法や口腔保健の在り方について考察する。

【授業の展開計画】

石井：歯科衛生士として障害者専門の歯科医療機関に勤務経験

基礎

- (1) 特別支援学校では、発達に応じた教育環境と教育方法について学び、説明することができる。
- (2) 障がい児・者施設や病院では、生活環境や支援、介助方法について学び、説明することができる。
- (3) 障がい児・者の個々のニーズに応じたコミュニケーションを図ることができる。
- (4) 障がい児・者の個々のニーズに応じた支援または介助ができる。
- (5) 障がい児・者に関わる他職種の役割について説明できる。

専門

- (1) 口腔内を観察し、障がい別の口腔内の特徴について述べるができる
- (2) 障がい児・者の個々のニーズに応じた口腔保健管理について計画できる
- (3) 障がい児・者の個々のニーズに応じたセルフケアの支援・口腔のケアができる
- (4) 障がい別の障がいや病態等への配慮の仕方について述べるができる。
- (5) 障がい児・者の摂食嚥下機能を観察し、食事介助ができる。

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って実習に臨むこと。
健康管理には十分に注意し、実習に臨むこと。

【評価方法】

実習指導者60%，担当教員30%，科目教員10%による総合評価

【テキスト】

歯科衛生士教本「障害者歯科」医歯薬出版

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版

【参考文献】

適宜資料を配布。

スペシャルニーズデンティストリー障害者 一般社団法人日本障害者歯科学会編 医歯薬出版

発達支援臨地実習Ⅲ(高齢者)

担当教員 緒方 有希、石井 里加子、未定、徳永 淳也、北田 勝浩、淀川 尚子、松尾 文、未定、十時 彩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高齢者施設において、介護を必要とする高齢者の生活特性および健康課題を分析し、生活の質（QOL：Quality of Life）の向上をねらいとした口腔保健活動の在り方を考察する。高齢者施設における看護師、介護福祉士、栄養士等他職種の役割を学び、歯科衛生士としての協働を考察する。高齢者施設において、介護を必要とする高齢者と職員がコミュニケーションをとる様子を観察し、その手法を学ぶ。高齢者施設において、口腔ケアプラン作成のプロセスを体験する。

【授業の展開計画】

行動目標

- (1) 医療人としての身だしなみで臨むことができる
- (2) 高齢者施設の特徴を記述することができる
- (3) 高齢者施設における他職種の役割を職種別に記録できる
- (4) 口腔機能の維持向上をねらいとしたレクリエーションを実施することができる
- (5) 介護を必要とする高齢者と非言語的な手段を使ってつながりをもつことができる
(笑顔, アイコンタクト, うなずき, 肩に手を触れる等)
- (6) 介護を必要とする高齢者のADL・口腔状況を記録することができる
- (7) 介護を必要とする高齢者のADL・口腔状況から健康課題を1つ以上挙げるができる
- (8) 共通目標を念頭においたケアプランを立案し記述できる

実習内容

- ① 高齢者施設の見学
- ② 他職種の業務の見学
- ③ 職員間で行われるカンファレンス等の傍聴による多職種連携の考察
- ④ 身体機能訓練の見学および介助
- ⑤ 入所者とのコミュニケーション
- ⑥ レクリエーションの実施および参加（口腔機能の維持向上をねらいとした健口体操など）
- ⑦ 担当入所者の情報収集
- ⑧ 車いすによる移動等の援助
- ⑨ 食事介助および見学
- ⑩ 口腔ケアの見学および介助（機能訓練を含む）

高齢者施設で上記項目の実習を実施する。

学内で実習前指導、実習後指導を行い高齢者施設における口腔保健の役割と協働について学びを深める

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って実習に臨むこと。
見分し実習した事柄は、実習に生かせるように考察をすること。

【評価方法】

評価項目は実習記録、レポート内容、評価割合は実習指導者評価(60%)、学内教員評価(40%)とする。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 全国歯科衛生士教育協議会監修 松井恭平ほか編 医歯薬出版
歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修

【参考文献】

介護保険施設における口腔ケア推進マニュアル 公益社団法人 日本歯科衛生士会

臨床心理学

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的な動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って、必要な基礎的な知識の習得を目指す。とかく従来の臨床心理学は単なる学派の羅列的理解が中心であることが多いが、この授業では、正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象をどのように診立て、また、援助を行う必要があるかについての基本知識の習得と心理的援助の勘所に焦点を当てながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床心理学とは何か（1）史的概説を中心に
2	臨床心理学とは何か（2）精神医学との相違
3	面接と検査 アセスメント
4	観察と行動 データ収集技法
5	正常と異常 DSMを中心に
6	異常心理学 精神的な症状と心理学
7	精神障害 心理的問題と種類
8	発達臨床心理学 ライフサイクルと心理的問題
9	介入理論モデル（1）精神分析とクライエント中心療法
10	介入理論モデル（2）認知行動療法と家族療法
11	介入技法モデル（1）遊戯・箱庭療法
12	介入技法モデル（2）SSTと心理教育
13	介入技法モデル（3）さまざまな相談活動
14	コミュニティ・モデル
15	医療・福祉領域の臨床心理学

【履修上の注意事項】

現代の心理病理現象について、事前事後の学習をしておくこと。

【評価方法】

期末試験：100%で評価 *本講義の再試験は実施しない。

【テキスト】

未定

【参考文献】

『精神医学事典』加藤・保崎他編 弘文堂2001年 『心理アセスメントハンドブック』上里監 2001年
『DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル』加藤他監編 医学書院 1996年

障害児心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な発達に基づいた人間理解を基盤とし、「障害」の多様な考え方を理解することができる。また、生涯発達支援の考え方に沿い、さまざまな障害の特性を理解し、適切な援助のあり方を考察することができるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「障害」に対する考え方
2	こころ・からだ・ことばの発達（1）
3	こころ・からだ・ことばの発達（2）
4	こころ・からだ・ことばの発達（3）
5	社会性の発達と障害
6	ことばの障害
7	聞こえの障害
8	視覚障害
9	知的障害
10	聴覚・言語障害
11	身体障害（肢体不自由）
12	発達障害① 自閉症
13	発達障害② アスペルガー障害、高機能広汎性発達障害
14	発達障害③ 学習障害
15	発達障害④ 注意欠陥多動性障害

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を読んでおくこと。

【評価方法】

総合的な学びの理解と確認のため筆記試験による評価を行う。

【テキスト】

改訂新版 障害児者の理解と教育・支援（金子書房） 橋本創一他編著

【参考文献】

授業の中で紹介

感覚・知覚の行動心理

担当教員 山住 賢司

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

我々人間は感覚・知覚を通じて外界の情報を得ている。感覚や知覚の働きがなければ、自己の存在を含め、どんな存在も認識することは出来ないだろう。心理学の分野では感覚・知覚の研究は古くから関心がもたれ、行動の科学としての心理学の実験テーマとして研究されてきた。本講義では、心の働きとしての感覚・知覚についての基礎的な知識や心理学における研究法などについて取り上げ、それらの理解を目的とする。本講義を通じて受講者は、感覚・知覚の心理学的基礎について自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	感覚・知覚とは
2	感覚・知覚心理学の歴史と方法論
3	精神物理学的測定法と刺激閾・弁別閾
4	視覚：視覚システムと基礎機能
5	視覚：明るさ・色の知覚
6	視覚：形の知覚
7	視覚：3次元空間の知覚
8	視覚：運動の知覚
9	聴覚：聴覚系の機能と構造
10	聴覚：聴覚の知覚的性質
11	聴覚：音声の知覚
12	聴覚：音楽の知覚・認知
13	身体感覚
14	味覚と嗅覚
15	多感覚相互作用

【履修上の注意事項】

講義に加え簡単なデモンストレーションも行う予定である。
 欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
 事前学習として各回の内容について参考文献などを参照しておくこと（120分）。
 また講義終了後に、各回の配布資料の内容を復習すること（120分）。

【評価方法】

定期試験の得点100%で成績を評価する。
 再試験は実施しない。

【テキスト】

使用せず、講義中に随時資料を配布する。

【参考文献】

「朝倉心理学講座6 感覚知覚心理学」 菊地正（編） 朝倉書店 2008
 「知覚心理学 一心の入り口を科学する」 北岡明佳（編著） ミネルヴァ書房 2011

こころのしくみの理解

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会から求められる医療人の育成のために、心理学の知見と医療現場で求められる知識や考え方を理解することを目指す。そのために、人間についての基本的理解、現場に役立つ実践的な心理学の習得、患者理解のための心理学及び歯科患者の心理などについて理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバス説明 オリエンテーション 一般心理学との違い等
2	生理心理学と大脳生理
3	こころと身体の世界
4	こころと行動の形成
5	こころと行動の発達
6	こころの個性と深層
7	こころの適応と障がい
8	こころと身体の臨床心理
9	対人援助者と患者の人間関係
10	対人援助に役立つ心理テスト
11	医療に役立つ心理療法
12	被援助者の心理メカニズム
13	ストレスとコーピング
14	こころのしくみ
15	こころのしくみ (進化心理学)

【履修上の注意事項】

本科目は再試験を実施しない。したがって、日頃からの出席とノートテークをしっかりとしないと単位取得は難しい。さらに事前・事後の学習を怠らないこと。

【評価方法】

定期試験：100点で評価する

【テキスト】

未使用

【参考文献】

各單元ごとに紹介していく

社会福祉原論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、老齢、障害、母子・寡婦等〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2019年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。『社会福祉六法』（最新版）。

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】

上妻、古堅、新、古城：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験。
第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行なう。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	サービスとしての看護、看護サービス提供の場（新）
3	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
4	国民の健康状態（上妻）
5	看護の対象の理解（上妻）
6	国際化と看護（新）
7	災害時における看護（古堅）
8	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
9	医療安全と医療の質保証（古城）
10	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護学概論9-12回のまとめ：小テスト2、DVD視聴（柴田）
14	看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

系統看護学講座 基礎看護学（1）、茂野香おる 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

介護概論

担当教員 前田 公江

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 介護の理念とその枠組みについて学習し、人間尊重と自立支援を目指した新しい介護の考え方を理解する。
2. 歴史的展開を理解すると共に、現代社会における介護の在り方や関係職種間の連携の重要性について学ぶ。
3. 介護援助における倫理及び援助者としての基本的態度を身につけ、個々の利用者に応じた介護技術のあり方を探求する。
4. 介護を通して「人間としての尊厳」や「その人らしい生き方」について学び、人間観や思考を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	少子高齢社会の現状と動向・課題について：専門職が担う介護が求められる理由とは？
2	高齢者の生活実態と福祉・介護ニーズを理解する：身体・心理・社会面からのアプローチ
3	介護従事者としての役割と実際：要介護者を支える仕組みを知り今後の課題を考えてみよう
4	介護の概念や対象・範囲について
5	介護保険制度の仕組みとサービス体系について
6	地域で支える介護の必要性と介護予防の概念を理解する
7	高齢者の尊厳を支える介護とは何か？専門職として果たすべき役割を通して思考を深める
8	介護過程の概要と展開・介護の技法について
9	自立に向けた介護とは何かを考えよう：その1 家事における介護
10	自立に向けた介護とは何かを考えよう：その2 身支度、移動、睡眠、食事、口腔衛生の介護
11	自立に向けた介護とは何かを考えよう：その3 入浴、清潔、排泄の介護
12	認知症ケアの概況：これからの認知症ケアのあり方と方向性
13	死と終末期ケア：人間観と倫理から終末期ケアと死生観を考える
14	事例検討：介護サービス計画
15	事例検討：認知症ケア

【履修上の注意事項】

- ・授業前にテキストを読み、単元のキーワードについて調べてくること（90分）
 - ・授業後は必ず配布したプリントを復習し理解を深めること（60分）
- 成績評価基準として、試験80%、課題レポート10%、発表10%にて総合的に判断する

【評価方法】

毎回の授業の終わりに小レポートを提出、および講義・演習への参加意欲を20%加味し筆記試験80%で評価する。

【テキスト】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」社会福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介する。

地域福祉論 I

担当教員 竹中 健

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 地域福祉の理念および内容について説明できる。
2. 地域福祉の歴史的発展経緯および現状について説明できる。
3. 在宅福祉サービスの内容や推進方法およびサービス提供システムについて解説できる。
4. 在宅福祉サービスの実態や現状について解説できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (講義の進め方と学習の仕方)
2	新しい社会福祉システム これまでの社会福祉と地域福祉の発展について考察する
3	新しい社会福祉システム 社会福祉のメインストリームとしての地域福祉と主体形成について考える
4	地域福祉の基本的な考え方 地域福祉理論の発展過程について概観する
5	地域福祉の基本的な考え方 地域自立支援の考え方を理解する
6	地域福祉の基本的な考え方 地域社会のとらえ方と保健・医療・福祉圏域について考察する
7	地域福祉の主体と福祉教育 福祉教育と福祉教育の歩みについて理解する
8	地域福祉の主体と福祉教育 福祉教育の概念と内容について理解する
9	行政組織と民間組織の役割と実際 地方分権と地域福祉計画について理解する
10	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉協議会の概要を把握する
11	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉法人とボランティア活動の概要を理解する
12	行政組織と民間組織の役割と実際 民生委員・児童委員、保護司、コミュニティビジネスを把握する
13	コミュニティ・ソーシャルワークと専門職 コミュニティワークの考え方・方法について理解する
14	コミュニティ・ソーシャルワークと専門職 専門職チームアプローチと住民参加について考察する
15	まとめ (今後の学習指針)

【履修上の注意事項】

地域福祉に関する日常的なニュースや報道の内容に関心を払い、また、実習やボランティアで見聞きしたことを土台にして、地域福祉の理論や方法がどのように実際の場面で活かされているかを考えながら受講し、事前学習および事後学習に努めること。

【評価方法】

講義内で実施する5回のミニテストの結果を参照して総合的に判定する(100%)。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座 9 『地域福祉の理論と方法』社会福祉士養成講座編集委員会編集, 中央法規出版を使用する。

【参考文献】

- 1) 必要に応じ、授業の進展に合わせて提示する。
- 2) 授業ごとに必要な資料を配布する。

社会保障論

担当教員 未定

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会保障論では、指定教科書の中でも、特に概論的な部分に焦点をあてます。具体的には、「現代社会と社会保障」、「社会保障の歴史」、「社会保障の構造」、「社会保障の財源と費用」、「社会保障が当面する課題」などについて理解を深めます。こうした項目における学びを通じて、社会保障の今日的な重要性を自らの言葉で説明できるようになること—これが、本講義のねらいになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会保障が当面する課題（Ⅰ）——少子高齢化の動向と少子化への取り組み
2	社会保障が当面する課題（Ⅱ）——労働市場の変化と社会保障
3	社会保障の範囲、理念と機能、生活と社会保障
4	社会保障の歴史——欧米における社会保障の歴史的展開
5	日本における社会保障の歴史的展開（Ⅰ）——戦後からオイルショックまで
6	日本における社会保障の歴史的展開（Ⅱ）——オイルショックから今日まで
7	社会保障の構造（Ⅰ）——社会保障制度の体系、社会保険の構造
8	社会保障の構造（Ⅱ）——社会扶助の構造
9	社会保障の財源と費用（Ⅰ）——社会保障の費用、社会保障の財源
10	社会保障の財源と費用（Ⅱ）——社会保障と経済
11	日本の医療制度を考えるための国際的視座——アメリカと中国の事例から
12	医療保険制度（Ⅰ）——医療保険制度の沿革と概要、健康保険と共済制度
13	医療保険制度（Ⅱ）——国民健康保険制度、後期高齢者医療制度
14	医療保険制度（Ⅲ）——国民医療費と医療をめぐる最近の動向
15	社会保障論のまとめ——理想と現実、そしてあるべき方向性

【履修上の注意事項】

- (1) テキストを持参して受講することが求められます
- (2) 可能な限り予習（30分程度）をして講義に臨み、講義後は、適宜、復習をしてください

【評価方法】

レポート 75%
 試験 25%
 なお、再試験は実施しません

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座12 社会保障【第5版】』（中央法規出版、2018年）

【参考文献】

特に指定しません

高齢者福祉論 I

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 高齢者への支援に必要な介護保険法の諸手続き方法、居宅・施設サービスの種類、地域支援事業、地域包括支援センターの機能や役割について説明できる。
2. 高齢者への総合的相談援助に必要な高齢者諸関係法を説明できる。

【授業の展開計画】

科目担当者実務経験

【吉岡】大学病院（看護師）、一般病院（看護師長）、訪問看護ステーション（訪問看護師・管理者）、介護福祉士養成校教員（高齢者分野担当） 介護支援専門員 他

週	授 業 の 内 容
1	介護保険法目的、保険者と被保険者、保険料を理解する。
2	介護保険法の要介護認定の仕組みとプロセスを理解する。
3	介護保険サービスの体系を理解する。
4	介護保険法の居宅・介護予防・地域密着型サービス、住宅改修を理解する。
5	介護保険法の施設サービスの種類、役割、機能を理解する。
6	地域包括支援センターの役割と実際を理解する。
7	介護保険法における地域支援事業、苦情処理、審査請求、介護保険制度の最近の動向を理解する。
8	介護保険法における組織及び団体の役割と実際を理解する。
9	介護保険法における専門職の役割と実際を理解する。
10	介護保険法におけるネットワークとその実際を理解する。
11	老人福祉法の歴史と概要、サービスと援助を理解する。
12	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律を理解する。
13	高齢者の権利擁護と成年後見制度を理解する。
14	高齢者の居住の安定確保に関する法律を理解する。
15	高齢者関連法と諸施策を理解する。

【履修上の注意事項】

該当する単元については、指定テキストを用いて事前に学習しておくこと。講義後もう一度通読して復習し、理解を深めること。また、指示したレポートは期限を守り、提出すること。

【評価方法】

定期試験90%、課題レポート10%で評価する。

課題レポートについてはコメントを入れて返却する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『高齢者に対する支援と介護保険制度-高齢者福祉論-』（最新版）中央法規。
野崎和義監修『社会福祉六法』（最新版）ミネルヴァ書房。

【参考文献】

授業中、適宜紹介

障害者福祉論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。
- 2 障害者福祉制度の発達過程について理解する。
- 3 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要
2	障害者福祉制度の発達過程
3	障害者総合支援法
4	障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際
5	障害者総合支援法における専門職の役割と実際
6	障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際
7	相談支援事業所の役割と実際
8	身体障害者福祉法
9	知的障害者福祉法
10	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
11	発達障害者支援法
12	障害者基本法
13	心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律
14	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
15	障害者の雇用の促進等に関する法律

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』第6版（中央法規、2019年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。『社会福祉六法』（最新版）。

児童福祉論 I

担当教員 橋本 真奈美

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を理解できる。
- 2 児童・家庭福祉制度の発展過程を理解できる。
- 3 児童の権利について理解できる。
- 4 児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解できる。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度を児童の権利から理解する。

[授業終了時の達成課題]

社会情勢を学び、歯科衛生士に必要な児童・家庭福祉制度の最近の動向を理解する。

週	授 業 の 内 容
1	児童福祉の学びのポイントの理解、児童や家庭に対する支援と家庭福祉制度の概要の理解
2	児童・家庭の生活実態と社会の関連性を理解する
3	子育て、ひとり親家庭、児童虐待、家庭内暴力の実態から福祉需要を把握する
4	地域における子育て支援及び青少年育成の実態から福祉需要を把握する
5	児童・家庭福祉制度の発展過程を理解する
6	「児童福祉法」の概要を学ぶ、児童の定義と権利を理解する
7	児童相談所の役割と実際（組織体系、児童福祉司等の専門職の業務、他職種との連携）を理解する
8	「児童虐待防止法」の概要、社会的養護の理解と自治体の役割を理解する
9	「DV法」「母子及び父子並びに寡婦福祉法」の目的理解、婦人相談所や保護施設の役割理解
10	児童健全育成・保育と児童手当等の社会手当の役割を関連付けて理解する
11	「母子保健法」「子ども・子育て支援法」の役割理解と子どもの貧困対策について理解する
12	児童・家庭福祉制度と地域における他職種連携とネットワーキングと実際を理解する
13	障害・難病のある子どもと家族の理解と相談援助活動についての考察
14	児童虐待・非行・情緒障害児等と社会的養護の関連性の理解と相談援助活動についての考察
15	児童・家庭に対する相談援助活動についての整理と理解

【履修上の注意事項】

この科目は、社会福祉学科及び口腔保健学科の学生を対象に開講される。社会福祉学科においては社会福祉士養成課程科目の一つである。授業前にテキストを読むこと(30分)。授業後にポイントをおさえて復習する(60分)。

【評価方法】

試験80点、授業内レポート20点で評価する。レポートの内容については講義内で説明する

【テキスト】

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規（最新版）

【参考文献】

社会福祉用語辞典（第9班）山縣文治・柏女霊峰編集委員代表 ミネルヴァ書房

福祉法学

担当教員 野崎 和義

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

以下の各点について理解する。

- ①相談援助活動と法、②相談援助活動と成年後見制度、③成年後見制度の実際、④社会的排除や虐待などの権利侵害、認知症などで日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	相談援助活動と法との関わり（1）：日本国憲法の基本原理、民法等の理解
2	相談援助活動と法との関わり（2）：行政法の理解、福祉関連法の理解
3	成年後見制度（1）：制度の概要（法定後見と任意後見、制限行為能力）
4	成年後見制度（2）：法定後見の各類型と申立て手続き
5	成年後見制度（3）：任意後見とその利用手続き
6	成年後見制度（4）：成年後見人の職務と権限、その課題（医療同意権等）
7	成年後見制度利用支援事業：事業の概要、対象者、制度の根拠
8	日常生活自立支援事業（1）：事業の概要（専門員、生活支援員の役割）
9	日常生活自立支援事業（2）：成年後見制度との連携
10	権利擁護に関わる組織と団体：家庭裁判所、市町村、社会福祉協議会等の役割
11	権利擁護に関わる専門職：弁護士、司法書士、社会福祉士等の活動の実際
12	成年後見活動の実際：消費者被害を受けた者への対応、障害児・者への支援等
13	権利擁護活動の実際（1）：被虐待児・者への対応、高齢者虐待への対応等
14	権利擁護活動の実際（2）：非行少年への対応、ホームレスへの対応等
15	障害者と法：障害者虐待防止法、障害者差別解消法

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100％）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『福祉法学』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

【参考文献】

国際保健活動論

担当教員 中川 武子、未定、淀川 尚子、安藤 学

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

科目目的：国際保健活動の現状と課題および実際の活動を学び、国際保健活動に貢献できる能力を養う。

到達目標

国際保健活動の現状を学び、その課題を考察することができる。

国際保健活動の展開方法を理解し、実践できる能力を養うことができる。

人々の健康的な生活支援に必要な情報を科学的・論理的に分析する能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

中川：看護師として病院勤務経験、保健師として保健センター勤務経験、イギリスにて病院勤務経験

淀川：歯科衛生士として病院勤務経験、ミャンマーにて活動経験

特別講師(今村) 看護師として病院勤務経験、国際保健支援活動経験

週	授 業 の 内 容
1	講義：国際保健の歴史と保健医療の概観（中川）
2	講義：グローバルヘルス（中川）
3	講義：国際機関・国際協力と国際保健活動（淀川）
4	講義：国際保健活動の実際(1)（淀川）
5	講義：国際保健活動の展開（中川）
6	講義：開発途上国における支援（中川）
7	講義：母子保健分野における支援（未定）
8	講義：感染症対策における支援（中川）
9	講義：紛争における支援（安藤）
10	講義：国際的な災害救護と支援（中川）
11	講義：国際保健活動の実際(2)（中川・特別講師：今村）
12	講義：国際保健活動の実際(3)（中川・特別講師：今村）
13	演習：国際保健活動の課題と支援（GW発表）（中川他）
14	演習：国際保健活動の課題と支援（GW発表）（中川他）
15	講義：国際保健分野における支援者の役割（中川）

【履修上の注意事項】

事前学習：教科書の該当範囲を読むこと。（30分以上）

事後学習：講義内容を基に配布資料を確認整理すること。（60分以上）

国内外の保健活動に関する情報を常に入手しておくこと。

【評価方法】

試験(50%)・発表(20%)・課題レポート(30%)

課題レポートはコメントして返却します。

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院

【参考文献】

日本国際保健医療学会編 国際保健医療学 第3版 杏林書院

一般社団法人厚生労働統計協会編 国民衛生の動向 最新版

研究方法論

担当教員 金子 憲章、石井 里加子、薄井 由枝、徳永 淳也、北田 勝浩、古賀 由紀子、淀川 尚子、松尾 文

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は科学的の研究とは何かを学び、学修者は一般的な歯学領域やそれに関連する分野の著書、専門分野の学術雑誌掲載論文などを参考にしながら理解し、科学的思考や科学的方法論を学ぶことができる。また、4年生において行われる卒業研究・卒業論文をふまえて、学生がテーマを考えるための方法論と卒業研究・卒業論文の執筆に対する考えかたを構築することができる。

【授業の展開計画】

全ての教員が各分野で博士、または修士を取得しており、専門的研究を行ってきている。

週	授 業 の 内 容
1	研究とは：意義（金子）
2	研究テーマに対する考え方：テーマの選択（薄井）
3	研究計画とその考え方（薄井）
4	研究の進め方（薄井）
5	実験研究（北田）
6	文献検索の方法と整理法（松尾）
7	研究テーマの設定（淀川）
8	研究の倫理（古賀）
9	データの収集・解析（北田）
10	統計学（徳永）
11	統計処理（徳永）
12	疫学の実際（徳永）
13	論文作成の手順・論文の構成（石井）
14	プレゼンテーションの方法（石井）
15	卒業研究報告書と卒業論文との違い（石井）

【履修上の注意事項】

講義は教科書を必ず持参する。

必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書の関連部分を読み予習しておくこと(60分)、また授業後は復習すること。

【評価方法】

授業担当者が、授業ごとにレポート・小テスト等で評価し、フィードバックとしてレポートにはコメントして返却し、小テストについては解答・解説する。担当教員が授業時間ごとに成績を評価する。

必要であれば、教員が学生評価について個々に対応するため再試験は行わない。

【テキスト】

歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第2版 監修：武井典子、金澤紀子。合場千佳子、石井拓男、岩久正 医歯薬出版

【参考文献】

卒業研究 HAND BOOK 監修：眞木義信 クインテッセンス出版

卒業研究

担当教員 淀川 尚子

配当年次 4年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ライフステージやコミュニティの視点から人間の口腔保健に関わる諸問題をテーマに本質を探究する力を習得する。研究活動を通して、研究対象への関心を深め、理論的思考をもって取り組み、研究報告書を作成する力を習得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の概論（研究の意義）
2	研究倫理
3	研究テーマの検討
4	文献検索の方法と活用
5	論文抄読（論文の構造と内容、サマリーの作成方法）
6	研究計画書の作成方法
7	研究計画書の作成
8	調査および分析：論文抄読（集団討議）1
9	調査および分析：論文抄読（集団討議）2
10	調査および分析：論文抄読（集団討議）3
11	調査および分析：論文抄読（集団討議）4
12	結果および考察1
13	結果および考察2
14	研究報告書の作成1
15	研究報告書の作成2

【履修上の注意事項】

ゼミ形式

論文抄読においては事前にレジюмеを準備（90分）して討議に臨み、討議内容を研究に活かしていくこと。

【評価方法】

卒業研究報告書の内容（60%）、ディスカッションの内容（40%）を総合的に判断する。
フィードバックとして報告書の内容およびディスカッション時にコメントする。

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献】

適宜配布する。

卒業研究

担当教員 北田 勝浩

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

北田：歯科医師として大学および大学附属病院勤務経験

知的興味および将来の方向性に沿ってテーマを選定し、計画・立案に基づいて研究論文の系統的検索を実施する。その結果を卒業 究報告書にまとめることにより、研究への理解と意欲を培う。

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の概要
2	歯科衛生研究の考え方
3	研究のプロセスと成果発表（1）：主な研究方法、研究の進め方とまとめ方
4	研究のプロセスと成果発表（2）：研究成果の発表の仕方
5	研究成果のまとめ方
6	研究計画の検討 テーマの検討、研究概要の検討、情報収集・文献検索の実施
7	研究題目、研究計画の決定
8	研究の実施（1）：研究論文の系統的検索
9	研究の実施（2）：研究論文の系統的検索、検索論文の科学的吟味
10	研究の実施（3）：研究論文の系統的検索、検索論文の科学的吟味
11	研究の実施（4）：検索論文の科学的吟味
12	卒業研究報告書作成（1）
13	卒業研究報告書作成（2）
14	卒業研究報告書作成（3）
15	卒業研究報告書完成、提出

【履修上の注意事項】

問題意識を持ち、主体的に研究を行うように努める。実施にあたっては、進捗状況を確認しながら、個別の指導・対応となる。

卒業研究報告書は、口腔保健学科の卒業研究報告書執筆要領に従い作成し、定められた手続きを経て期日内に提出する。

【評価方法】

日常的学习成果（40%）、卒業研究報告書（60%）を総合して評価する。

【テキスト】

歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第2版：武井典子、金澤紀子、合場千佳子、石井拓男、岩久正明 編（医歯薬出版）

【参考文献】

適宜紹介する

卒業研究

担当教員 十時 彩

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

口腔保健に関する研究および方法について学び、各学生が関心のあることについて研究テーマを決定し、そのテーマについて文献検索を行い、先行研究結果等に基づき、研究報告書を作成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 研究方法について
2	論文の抄読
3	研究テーマの検討
4	論文の抄読・ディスカッション
5	論文の抄読・ディスカッション
6	研究テーマの決定
7	研究報告書の作成
8	先行研究の抄読・ディスカッション
9	先行研究の抄読・ディスカッション
10	先行研究の抄読・ディスカッション
11	先行研究の抄読・ディスカッション
12	卒業研究報告書の作成
13	卒業研究報告書の作成
14	卒業研究報告書の作成
15	卒業研究報告書の作成（最終）

【履修上の注意事項】

研究テーマに関連した文献検索を行い、要点をまとめて発表を行うこと。（30分）

【評価方法】

研究報告書60%、履修態度・ディスカッション等40%の総合評価

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 石井 里加子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

学習した基礎知識を基に、歯科衛生に関する疑問や課題を選定し、その問題に対して客観的・論理的に思考する力を養う。更に、情報を収集、整理、分析し報告書を作成する力を習得する。

【授業の展開計画】

- 1 卒業研究の目的と授業展開について
- 2 研究テーマの検討1
- 3 研究テーマの検討2
- 4 文献検索1
- 5 文献検索2
- 6 研究課題目の決定および研究計画の作成
- 7 研究計画の完成
- 8 研究の実施：論文抄読1
- 9 研究の実施：論文抄読2
- 10 研究の実施：論文抄読3
- 11 研究の実施：論文抄読4
- 12 卒業研究報告書の作成1
- 13 卒業研究報告書の作成2
- 14 卒業研究報告書の作成3
- 15 卒業研究報告書の提出

【履修上の注意事項】

ゼミ形式。各自の興味や将来の方向性にそってテーマを選定し、主体的に取り組む。課題に対しては、事前に準備しプレゼン・討論に臨む。

【評価方法】

プレゼン・討論・協議等の内容,態度：40% 報告書：60%

【テキスト】

歯科衛生研究の進め方・論文の書き方。医歯薬出版。適宜紹介する。

【参考文献】

適宜資料を配布。

卒業研究

担当教員 徳永 淳也

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

口腔保健学が対象とすべき諸問題を人間のライフステージやコミュニティという枠組みの中で、客観的に捉え、分析、総括する力を育てることを目的とする。専門的理論と知識に加えて学生自身の問題意識を手がかりとして、個別テーマを設定し、集団討議、指導教員とのディスカッションを通じて研究報告書を作成する。その過程で文献やデータを批判的に吟味する力、論理的思考力ならびに表現力を身につけることが目標である。

【授業の展開計画】

1. 研究活動概論(研究とは何か)
2. 研究テーマの検討(問題意識の研究テーマへの高め方)
3. 文献検索の方法(情報はどこにどのような形で存在するか)
4. コンピュータによる文献検索の実際(データベース活用法)
5. 文献整理方法の理解(思考を誘う情報整理とは)
6. 論文抄読(論文の構造と内容についての解説と理解)
7. 論文抄読(論文評価の要点とは)
8. 論文抄読(論文サマリーの作成方法について)
9. 研究計画書作成(研究テーマ、デザイン決定方法の解説と理解)
10. 研究計画書の作成(研究における倫理的配慮とは)
11. データ分析(統計学概論とコンピュータによるデータ管理)
12. 統計ソフトによる統計分析事例紹介(統計パッケージの種類と使用方法)
13. 分析結果の読み方
14. 考察(考察の論文における意味の理解と具体的展開方法)
15. 論文の各構成要素間の整合性の取り方と効果的執筆

【履修上の注意事項】

ゼミ形式の演習形態をとり、内容の順序性、階層性を各講義が持っているため、単位認定は全回出席を基本として行う。また、論文抄読には、活発な議論を助けるために各自が事前にレジメを作成して出席し、自分の研究テーマを論理的に説明できるよう準備学習をすること。(120分)

【評価方法】

集団討議の内容40%、研究報告書の評価(客観性、論理性、結果分析等)60%の割合で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。プリントを配布する。

卒業研究

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

研究の方法を学び、研究論文を作成する過程を通して専門職として研究できる力を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	論文抄読①提示論文を読み討論を行う
3	論文抄読②各自選定論文を読み討論
4	論文の概要を知る（論文の構成）
5	研究計画書について
6	テーマの検討
7	先行研究の調査について
8	研究計画（テーマ、方法、資料、スケジュール）
9	テーマに沿った資料・文献収集・整理
10	論文執筆① 執筆要領について、引用文献等
11	論文執筆② 序論、方法
12	論文執筆③ 結果、考察
13	論文執筆④ 結語、要旨
14	卒業研究の確認
15	卒業研究の校正・最終確認

【履修上の注意事項】

初期の段階では、ゼミ生全員で進めていくが、途中からはそれぞれの課題と進捗状況により個別指導となる。個別指導を受ける前は、前時に出された課題を行っておくこと。個別指導なった時は、自ら連絡を取り指導を受けること。

【評価方法】

仮題の報告状況、成果物、プレゼンを総合評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献】

卒業研究

担当教員 緒方 有希

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

自分が明らかとしたいテーマを深く掘り下げ、卒業研究報告書を作成する過程で、解決策を探る手法を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の概要について
2	問題意識と研究テーマ
3	論文構成・文献検索方法・レジメの書き方
4	思考マップ作成
5	倫理的配慮・個人情報について
6	研究テーマの検討
7	研究計画書作成
8	調査および分析1
9	調査および分析2
10	調査および分析3
11	調査および分析4
12	卒業研究報告書作成1
13	卒業研究報告書作成2
14	卒業研究報告書作成3
15	卒業研究報告書作成、提出

【履修上の注意事項】

研究テーマについて、先行研究およびその研究に関する自分の考察をレジメにまとめ、ゼミでディスカッションをしながら進めます。

【評価方法】

レジメ、ディスカッション等の授業(40%)、卒業研究報告書(60%)で評価する。

【テキスト】

適宜配布します。

【参考文献】

適宜紹介します。

卒業研究

担当教員 薄井 由枝

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

口腔保健学科で学んだ基礎を口腔保健学に相応したテーマへと展開していく。臨床で行われている様々な手法や患者の医療行動から調査・探索したい課題を見つけ、文献考察や教員とのディスカッションをとおして理解を深め、卒業研究報告書としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究概要の説明
2	文献検索法について
3	テーマの検討・文献検索
4	テーマの検討・文献検索
5	テーマの検討・文献検索
6	研究の構成・研究倫理
7	研究プロトコルの作成
8	研究プロトコルの作成
9	研究の実施
10	研究の実施
11	研究の実施
12	卒業研究報告書作成
13	卒業研究報告書作成
14	卒業研究報告書作成（校正）
15	卒業研究報告書の完成

【履修上の注意事項】

指導教員のもとで主体的に研究をおこなう。

【評価方法】

卒業研究報告書70% ディスカッションの主体的参加度の評価30%。フィードバックとしてそれぞれの提出物にコメントをして返却します。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

必要であれば適宜文献紹介をおこなう。

卒業研究

担当教員 松尾 文

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生個人が抱いた問題意識を手がかりとして研究テーマを設定し、総括する力を身につける。①テーマに沿った文献を検索することができる②論文や文献を客観的に評価し、まとめることができる③研究者の意図を理解し、自分の意見を述べる④執筆要領に準じた卒業研究報告書を作成することができる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（研究プロセス、文献検索について）
2	論文の抄読
3	研究テーマ決定
4	各テーマの現状を理解し、問題意識を明確にする
5	各テーマの歴史的背景を理解する
6	研究計画
7	先行研究の抄読と討議
8	先行研究の抄読と討議
9	先行研究の抄読と討議
10	先行研究の抄読と討議（英語論文）
11	先行研究の抄読と討議（英語論文）
12	卒業研究報告書の作成
13	卒業研究報告書の作成
14	卒業研究報告書の作成
15	卒業研究報告書の作成（最終）

【履修上の注意事項】

自分のテーマに関する基礎知識は、主体的に予習・復習して臨むこと(120分)。

【評価方法】

卒業研究報告書（60％）、抄読におけるレジュメ・ディスカッションの内容（40％）
フィードバックは随時ゼミにて行います。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

卒業研究

担当教員 金子 憲章

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は専門科目・実習等をすべて終了したのち、学修者は口腔保健学科で3年間学んだことを基礎に、口腔保健学に相応した研究テーマを探り、卒業研究のテーマを決定する。文献的考察および教員の指導のもとにテーマに対する理解を深め、その内容を卒業研究報告書にまとめることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究概要説明（研究の方針、研究の進め方）
2	テーマの検討、文献検索
3	テーマの検討、文献検索
4	テーマの検討、文献検索
5	テーマの検討、文献検索
6	卒業研究の構成・文献検索：指導
7	卒業研究の構成・文献検索：指導
8	卒業研究の構成・文献検索：指導
9	卒業研究の構成・文献検索：指導
10	卒業研究の構成・文献検索：指導
11	卒業研究報告書作成
12	卒業研究報告書作成
13	卒業研究報告書作成（校正）
14	卒業研究報告書作成（校正）
15	卒業研究報告書作成（最終校正）

【履修上の注意事項】

教員の指導のもとで自習的にテーマについて研究する。事前にテーマについて調べてくる（90分）。

【評価方法】

卒業研究報告書80%、ディスカッションの内容20%。
フィードバックは卒業研究報告書作成中に内容についての指導として行う。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

テーマに即した文献検索ができない場合は、必要な文献を紹介する。

卒業研究論文

担当教員 緒方 有希

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選必

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

自分が明らかとしたいテーマを深く掘り下げ、卒業研究論文を作成する過程で、解決策を探る手法を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒業研究論文の概要について1	16	データ集計1
2	卒業研究論文の概要について2	17	データ集計2
3	論文構成	18	データ分析1
4	文献検索方法・レジメの書き方	19	データ分析2
5	思考マップの作成	20	データ分析3
6	研究テーマの検討1	21	論文執筆1
7	研究テーマの検討2	22	論文執筆2
8	研究計画書作成1	23	論文執筆3
9	研究計画書作成2	24	論文執筆4
10	研究計画書作成3	25	論文執筆5
11	データ収集・文献検索1	26	中間発表
12	データ収集・文献検索2	27	論文執筆6
13	データ収集・文献検索3	28	卒業研究論文発表準備
14	データ収集・文献検索4	29	卒業研究論文発表と協議
15	データ収集・文献検索5	30	最終校正と製本

【履修上の注意事項】

研究テーマについて、先行研究およびその研究に関する自分の考察をレジメにまとめ、ゼミでディスカッションをしながら進めます。

【評価方法】

レジメ、ディスカッション等の授業(40%)、卒業研究論文(60%)で評価します。

【テキスト】

適宜配布します。

【参考文献】

適宜紹介します。

卒業研究論文

担当教員 十時 彩

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

口腔保健に関する研究および方法について学び、各学生が関心のあることについて研究テーマを決定する。テーマについて文献検索、調査等をもとに、分析、考察し、卒業論文を作成することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 研究方法について	16	データ分析 1
2	論文の抄読	17	データ分析 2
3	研究テーマの検討 1	18	データ分析 3
4	研究テーマの検討 2	19	データ分析 4
5	先行研究の抄読・ディスカッション	20	研究結果のまとめ
6	先行研究の抄読・ディスカッション	21	論文執筆 1
7	先行研究の抄読・ディスカッション	22	論文執筆 2
8	先行研究の抄読・ディスカッション	23	論文執筆 3
9	研究計画の検討	24	中間発表
10	研究計画書の作成 1	25	論文執筆 4
11	研究計画書の作成 2	26	論文執筆 5
12	データ収集 1	27	論文執筆 6
13	データ収集 2	28	卒業研究論文最終確認
14	データ収集 3	29	卒業研究発表準備
15	データ収集 4	30	卒業研究発表

【履修上の注意事項】

研究テーマに関連した文献検索を行い、要点をまとめて発表を行う。

【評価方法】

卒業研究論文60%、履修態度・ディスカッション等20%、プレゼンテーション20%の総合評価

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 金子 憲章

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

本科目は口腔保健学科で3年間学んだことを基礎に、学修者は口腔保健学に相応した研究テーマを探り、教員の指導と文献的考察により卒業研究論文のテーマを決定する。必要なデータ収集(実験も含む)を行い、卒業研究論文としてまとめることができる。また、研究内容のプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究論文概要説明(研究方針・進め方)	16	データの収集(実験も含む)・文献の検索
2	テーマの選択・文献の検索	17	データの収集(実験も含む)・文献の検索
3	テーマの選択・文献の検索	18	データの収集(実験も含む)・文献の検索
4	テーマの選択・文献の検索	19	データの収集(実験も含む)・文献の検索
5	テーマの選択・文献の検索	20	卒業研究論文の構成・作成
6	研究方法の選択(実験も含む)・文献の検索	21	卒業研究論文の構成・作成
7	研究方法の選択(実験も含む)・文献の検索	22	卒業研究論文の構成・作成
8	研究方法の選択(実験も含む)・文献の検索	23	卒業研究論文の構成・作成
9	研究方法の選択(実験も含む)・文献の検索	24	卒業研究論文の構成・作成
10	データの収集(実験も含む)・文献の検索	25	卒業研究論文の構成・作成
11	データの収集(実験も含む)・文献の検索	26	卒業研究論文の構成・作成
12	データの収集(実験も含む)・文献の検索	27	卒業研究論文発表会準備
13	データの収集(実験も含む)・文献の検索	28	卒業研究論文発表会準備
14	データの収集(実験も含む)・文献の検索	29	卒業研究論文発表会
15	データの収集(実験も含む)・文献の検索	30	卒業研究論文の最終校正

【履修上の注意事項】

テーマを決定したら、文献検索によりデータ収集方法(実験方法)を本人が模索する。必要な場合のみ教員が指導を行う。文検等の内容については事前に内容を把握しておく(90)。

【評価方法】

卒業研究論文80%、ディスカッションの内容20%
フィードバックは卒業研究論文作成中に内容についての指導として行う。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

テーマに即した文献検索ができない場合は、必要な文献検索を紹介する。

卒業研究論文

担当教員 淀川 尚子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

ライフステージおよびコミュニティの視点から人間の口腔保健にかかわる諸問題をテーマに本質を探究する力を滋養する。研究活動を通して研究対象への関心を深め、論理的思考および倫理的態度をもって論文を作成する力習得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の概論(研究の意義)	16	結果の要約2
2	研究テーマの検討	17	中間報告および研究計画の確認
3	文献検索の方法と活用	18	論文の構成
4	論文抄読(論文の構造と内容)	19	論文執筆(緒言)
5	論文抄読(論文サマリーの作成方法)	20	論文執筆(対象と方法)
6	研究テーマの決定	21	論文執筆(結果)1
7	研究計画の検討	22	論文執筆(結果)2
8	研究計画書の作成	23	論文執筆(考察)1
9	調査データの収集:論文抄読(集団討議)1	24	論文執筆(考察)2
10	調査データの管理:論文抄読(集団討議)2	25	論文執筆(考察)3
11	調査データの分析:論文抄読(集団討議)3	26	論文執筆(考察)4
12	調査データの分析:論文抄読(集団討議)4	27	論文執筆(要旨)
13	調査データの分析:論文抄読(集団討議)5	28	プレゼンテーション資料作成1
14	調査データの分析:論文抄読(集団討議)6	29	プレゼンテーション資料作成2
15	結果の要約1	30	卒業研究論文提出

【履修上の注意事項】

ゼミ方式

論文抄読においては事前にレジュメを準備(90分)して討議に臨み、討議内容を研究に活かすこと。

【評価方法】

卒業研究論文の内容(40%)、ディスカッションの内容(40%)、プレゼンテーション(20%)を総合的に判断する。フィードバックとして論文内容およびディスカッション時、プレゼンテーション時にコメントする。

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 徳永 淳也

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

口腔保健の抱える諸問題をモチーフとして、人間のライフステージやコミュニティという視点から学際領域の知見を援用し、事象の本質に拘った課題設定とその探究が口腔保健学の推進にとって不可欠である。口腔保健学教育の総括として、客観的分析力、論理的思考力を涵養しながら、研究対象を深く理解しようとする態度と方法の修得をはかることが目標であり、科学的手続きに則って問題意識を捉えることの重要性や研究事象に対するアプローチ手順を理解し、創造的な研究活動を行う能力と視野の醸成を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究をとらえる視座(概論)	16	データ分析の実際、変数間の関連の検討
2	研究方法論概論	17	データ分析の実際、多変量を用いた分析
3	問題意識の発掘	18	結果の要約
4	研究領域とテーマ	19	結果表の作成
5	研究テーマの批判的吟味	20	論文構成の確認
6	研究領域の確認と文献検索	21	論文執筆、緒言で書くべきこと
7	文献の読み方と評価の仕方	22	論文執筆、対象と方法の記述方法
8	調査項目および対象者の決定	23	論文執筆、結果表の作成と書き方
9	研究フィールドとの調整方法、倫理的配慮	24	論文執筆、考察の構成
10	分析方法、枠組みの決定	25	論文執筆、緒言と考察の位置づけ
11	バイアスの理解とコントロール	26	論文執筆、要約の仕方
12	研究計画書の作成	27	論文構成と論理展開の確認
13	調査時のデータ管理	28	プレゼンテーションの意義と方法
14	データクリーニング	29	プレゼンテーション資料作成指導
15	研究計画書の作成	30	対象者への報告の意義とその方法

【履修上の注意事項】

本科目は、通年の研究活動となり登録後の履修変更はできないため、卒論執筆要項を熟読し求められる事項を理解し、論文作成計画に沿った着実な活動を行うこと。

【評価方法】

論文作成の各段階における討議内容(問題意識、着想、研究過程等)30%、成果物である論文70%で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 薄井 由枝

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選必

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔保健学のスペシャリストとして口腔保健学に相応した研究課題を見つける。そのテーマについて、できるだけEvidence-based-dentistryに基づいた資料を集め、倫理的配慮をしながら研究デザインを作成することができる。そのプロトコールに沿いながら、卒業研究論文を仕上げ、プレゼンテーションをおこなうことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究論文の概要説明	16	データ収集・分析
2	文献検索法について	17	卒業研究論文の作成
3	テーマの検討・文献検索	18	卒業研究論文の作成
4	テーマの検討・文献検索	19	卒業研究論文の作成
5	テーマの検討・文献検索	20	卒業研究論文の作成
6	論文の構成	21	卒業研究論文の作成
7	研究倫理について	22	中間報告 2
8	研究方法の選択	23	卒業研究論文の作成
9	研究方法の選択	24	卒業研究論文の作成（ドラフト完成締切）
10	研究プロトコール作成	25	卒業研究論文の校正
11	研究プロトコール作成	26	卒業研究論文の最終校正
12	データ収集・分析	27	卒業研究論文プレゼンテーション準備
13	データ収集・分析	28	卒業研究論文プレゼンテーション準備
14	データ収集・分析	29	卒業研究論文発表会
15	中間報告発表会 1	30	卒業研究論文完成

【履修上の注意事項】

教員指導の下で主体的・自主的に研究をすすめること。定期的に教員と連絡を取り、決められた締切日には必ず成果物を提出すること。

【評価方法】

卒業研究論文80%、プレゼンテーション20% 評価は提出物にコメントをして返却します。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

必要な場合にのみ文献紹介をおこなう。

卒業研究論文

担当教員 石井 里加子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学習した基礎知識を基に、歯科衛生に関する疑問や課題を選定し、その問題に対して客観的・論理的に思考する力や問題を解決する力を養う。更に、収集した情報を整理、分析、考察し、研究論文を作成する力を習得する。

【授業の展開計画】

1	卒業研究の進め方と授業展開について	1 6	研究結果のまとめ1
2	研究テーマの検討1	1 7	研究結果のまとめ2
3	研究テーマの検討2	1 8	卒業研究論文執筆1
4	研究テーマの検討3	1 9	卒業研究論文執筆2
5	研究目的の設定	2 0	卒業研究論文執筆3
6	研究方法の検討1	2 1	卒業研究論文執筆4
7	研究方法の検討2	2 2	卒業研究論文執筆5
8	研究計画の作成	2 3	卒業研究論文執筆6
9	データ収集1	2 4	卒業研究論文執筆7
1 0	データ収集2	2 5	卒業研究論文執筆8
1 1	データ収集3	2 6	卒業研究論文執筆9
1 2	データ収集4	2 7	卒業研究論文執筆10
1 3	データ収集・分析1	2 8	卒業研究発表準備
1 4	データ収集・分析2	2 9	卒業研究発表
1 5	データ収集・分析3	3 0	卒業研究論文提出

【履修上の注意事項】

ゼミ形式。各自の興味や将来の方向性にそってテーマを選定し、主体的に取り組む。課題に対しては、事前に準備しプレゼン・討論に臨む。

【評価方法】

討論・協議等の内容、態度：20% プレゼン：20% 卒業研究論文：60%

【テキスト】

歯科衛生研究の進め方・論文の書き方。金澤紀子，他編，医歯薬出版。 適宜紹介する。

【参考文献】

適宜資料を配布する。

卒業研究論文

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

研究の方法を学び、研究論文を作成する過程を通して創造的かつ科学的に研究することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究方法に沿ってデータの収集②
2	論文抄読①提示論文を読み討論を行う	17	データの整理
3	論文抄読②各自選定論文を読み討論	18	データの分析
4	論文抄読③各自選定論文を読み討論	19	中間発表会と研究協議
5	論文の概要を知る（論文の構成）	20	論文執筆① 執筆要領について
6	研究計画書について	21	論文執筆② 図表・引用文献等
7	テーマの検討	22	論文執筆③ 序論、方法
8	先行研究の調査	23	論文執筆④ 結果、考察
9	先行研究の調査の発表	24	論文執筆⑤ 結語、要旨
10	研究計画（テーマ）	25	研究発表
11	研究計画（資料、研究スケジュール）	26	論文執筆⑥ 校正
12	研究計画（対象、方法の検討）	27	卒業研究論文の確認
13	テーマに沿った資料・文献収集	28	卒業研究論文の最終確認
14	資料文献整理	29	研究論文発表と研究協議
15	研究方法に沿ってデータ収集①	30	最終校正と製本

【履修上の注意事項】

初期段階では、全員での一斉塩津を行うが、課題が設定され計画的に自ら取り組んでいく段階になると、進捗状況により個別指導となる。個別指導に当たっては、前回出された課題をクリアして指導に臨むこと。

【評価方法】

中間発表、最終発表、成果物により評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 松尾 文

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

主体的に研究テーマを設定し卒業研究論文にまとめる。①テーマに合わせて文献を検索することができる②論文を客観的に評価し、まとめることができる③研究者の主張を理解し、自分の意見を述べる④研究計画を立て調査、分析することができる⑤執筆要領に則って卒業論文にまとめることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	データの集計と分析
2	論文の抄読 教員が掲示する論文で行う	17	データの集計と分析
3	研究テーマの決定	18	データ分析
4	各テーマの現状を理解する	19	データ分析
5	各テーマの歴史的背景を理解する	20	卒業研究論文執筆（個別指導）
6	研究計画立案	21	卒業研究論文執筆（個別指導）
7	先行研究の抄読と討議	22	卒業研究論文執筆（個別指導）
8	先行研究の抄読と討議	23	卒業研究論文執筆（個別指導）
9	先行研究の抄読と討議	24	中間発表
10	先行研究の抄読と討議（英語）	25	卒業研究論文執筆（個別指導）
11	先行研究の抄読と討議（英語）	26	卒業研究論文執筆（個別指導）
12	研究計画（研究計画の修正）	27	卒業研究論文執筆（個別指導）
13	研究計画（研究計画書作成）	28	卒業研究論文執筆（個別指導）
14	データ収集	29	卒業研究論文最終確認
15	データ収集	30	卒業研究論文発表

【履修上の注意事項】

自分のテーマに関する基礎知識は予習・復習した上で臨むこと(120分)。

【評価方法】

卒業研究論文60%、履修態度(レポート、ディスカッションの内容)20%、プレゼンテーション内容20%
フィードバックは、随時ゼミにて行います。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 北田 勝浩

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学んだ専門的理論と知識、口腔保健推進の視点をもとに、学生個人が抱いた問題意識を手がかりとして、主体的に研究テーマを設定する。文献検索や社会調査手法等を援用しながら、テーマについての研究活動を実施し、論理的思考能力の醸成をはかる。卒業研究論文を作成し研究テーマを総括することにより、口腔保健学を科学的に推進することができる。

【授業の展開計画】

北田：歯科医師として大学および大学附属病院勤務経験

知的興味および将来の方向性に沿ってテーマを選定し、計画・立案に基づいて研究を実施する。その結果を卒業研究論文にまとめることにより、研究への理解と意欲を培う。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒業研究の概要	16	研究の実施（8）
2	歯科衛生研究の考え方	17	研究の実施（9）
3	主な研究方法、研究の進め方とまとめ方	18	研究の実施（10）
4	研究成果の発表の仕方	19	研究の実施（11）
5	研究成果のまとめ方	20	研究の実施（12）
6	テーマおよび研究概要の検討	21	研究の実施（13）
7	検索論文の吟味に基づく研究計画の検討	22	研究の実施（14）
8	研究題目、研究計画の決定	23	研究の実施（15）
9	研究の実施（1）	24	研究結果のまとめ
10	研究の実施（2）	25	卒業研究論文作成（1）
11	研究の実施（3）	26	卒業研究論文作成（2）
12	研究の実施（4）	27	卒業研究論文作成（3）
13	研究の実施（5）	28	卒業研究論文作成（4）
14	研究の実施（6）	29	卒業研究論文完成、提出、成果発表準備
15	研究の実施（7）	30	卒業研究成果発表

【履修上の注意事項】

問題意識を持ち、主体的に研究を行うように努める。実施にあたっては、進捗状況を確認しながら、個別の指導・対応となる。

卒業研究論文は、口腔保健学科の卒業研究論文執筆要領に従い作成し、定められた手続きを経て期日内に提出する。

【評価方法】

日常的学习成果（20%）、卒業研究論文（60%）、卒業研究成果発表（20%）を総合して評価する。

【テキスト】

歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第2版：武井典子、金澤紀子、合場千佳子、石井拓男、岩久正明 編（医歯薬出版）

【参考文献】

適宜紹介する。

健康教育の展開

担当教員 薄井 由枝

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯科臨床現場での想定される課題に対して、基本的な科学的知見を確認しながら、協働的問題解決のために、歯科衛生士としての必要な思考力・判断力・表現力などを養う。さらに卒後すぐに使える医療コミュニケーション力をブラッシュアップする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	食生活と栄養（消化・吸収）
2	食事摂取基準（エネルギー必要量・代謝）
3	栄養素の働き（糖質・タンパク質・脂質）
4	栄養素の働き（ビタミン類・ミネラル類・食物繊維・水）
5	食生活と健康（現状・課題・取り組み）
6	食品の成分と分類（食品成分表）
7	食べ物のおいしさ（味覚・物性・テクスチャー）
8	ライフステージ別の栄養と調理（乳幼児・食育・おやつ指導・成人期・高齢期）
9	嗜好と中毒
10	病態と食生活指導（WHOの指針とその背景）
11	病態と食生活指導（糖尿病・脂質異常症・痛風・抗がん剤治療患者）
12	病態と食生活指導（高血圧症、動脈硬化症、腎臓病、骨粗鬆症）
13	食生活指導の立案：歯科受診患者における食生活指導（グループワーク）
14	食生活指導の立案：歯科受診患者におけるの食生活指導・有病者（グループワーク）
15	食生活指導の立案：歯科における保健指導のなかでの食生活指導（成果発表）

【履修上の注意事項】

事前課題の症例などを予習し講義に備える(60分)。

与えられた課題を具体的に想定し、知識やスキルを主体的に学ぶ授業なので、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

提出物50%、授業中のディスカッション参加の貢献度50% フィードバックとして提出物にコメントをして返却します。

【テキスト】

3分でできる！「衛る」ための口腔内外チェック、永末出版
最新歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学 全国歯科衛生士教育協議会

【参考文献】

10% Human アランナ コリン（河出書房新社）

コミュニティ口腔保健実習指導

担当教員 淀川 尚子、徳永 淳也、緒方 有希、十時 彩、久家 誠司、平野 喜幸、福田 英輝

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

多様な地域にくらす人々の健康問題を適切に捉え、社会、経済、文化の相違を受け入れた上で、理解と共感に基づいた持続可能かつ効果的な支援を行うことは、医療従事者として不可欠の姿勢である。本実習指導では、途上国のコミュニティにおける口腔保健、歯科医療の現状理解を基盤として、様々な立場にある地域住民の疾病感と対処行動様式を踏まえた効果的な口腔保健教育・指導方法の検討を行い、コミュニティ口腔保健実習における対象を観察し理解する力を蓄えることができる。

【授業の展開計画】

4年次2学期に実施される「コミュニティ口腔保健実習」の実習地関係者からの講義・指導・助言ならびに、現地で使用する口腔保健教育についての教材や媒体を作成する。

1. コミュニティ口腔保健概論、実習計画概要と海外生活（淀川、徳永、十時）
- 2-3. 国際開発とNGO活動—なぜ、海外支援なのか—（久家）
4. 国際協力論—開発とは何か—（平野）
5. 国際協力論—国際協力の出発点は貧困から—（平野）
6. 海外における歯科衛生士活動（薄井）
7. 国際医療協力と歯科衛生士活動（緒方）
- 8-9. 新興国における歯科医療の展開（木村）
- 10-11. 国際健康開発における口腔保健の展開（福田）
12. コミュニティにおける文化と歯科衛生活動（淀川、徳永、十時）
13. コミュニティにおける口腔保健活動の計画立案（淀川、徳永、十時）
14. 口腔保健教育指導案の作成（淀川、徳永、十時）
15. 口腔保健教育媒体の作成（淀川、徳永、十時）

【履修上の注意事項】

コミュニティ口腔保健実習履修希望者は必修とする。また、前年度までの卒業要件に関する所定の単位認定を受け、履修計画書による事前審査により履修が認められた者のみ履修を許可する。

講義テーマにあわせて予習（60分）を行い授業に臨むこと。

講義ごとにレポートを提出し、講義内容を振り返り復習（60分）すること。

【評価方法】

レポートおよび作成媒体による評価（100%）

フィードバックとしてレポートおよび作成媒体にコメントする。

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献】

適宜配布する。

コミュニティ口腔保健実習

担当教員 淀川 尚子、徳永 淳也、十時 彩

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

多様な地域にくらす人々の健康観、疾病観を適切に捉え、社会、経済、文化の相違を受け入れ理解と共感に基づいた持続的かつ効果的な支援を行うことは、医療従事者として不可欠の姿勢である。本実習では、コミュニティ口腔保健実習指導で培った知識・視点をもとに、新興国における歯科医療と口腔保健専門職の活動状況、各支援団体(NGO)の医療、保健、教育分野における協力活動等の体験を通じて、人々の健康観、疾病観と対処行動の理解を深め、国際的な口腔保健活動のあり方を模索し、その展開可能性を探究する力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

実施要領(予定)

※具体的な詳細は履修登録時に配布する実施計画書により提示する。

(1)期間：11月中旬の8日間(または9日間、実習内容により変動)

(2)実習国および地域：ミャンマー連邦共和国(パテイン市近郊)またはタイ王国(バンコク市、メーソット市)

(3)実習地および内容

各実習地・施設の概要

1)ミャンマー連邦共和国地方農村における小学校での口腔保健教育(3日間)

2)ミャンマー連邦共和国児童養護施設における口腔保健教育(1日間)

3)歯科診療所(バンコク市、dental clinic、日本人歯科医開設医院)における診療見学、患者、スタッフ(日本人歯科衛生士)との意見交換(1日)

4)幼稚園(NGO開設)における口腔保健教育の現状視察：(バンコク市クロントイ地区)(1日間)

5)メータオクリニック歯科医療センター(ターク県メーソット市、歯科センター診療部長は、日本人歯科医師)およびミャンマー人移民学校における学校歯科健診視察(1日間)

6)ミャンマー難民キャンプ(ターク県メラ)における図書館、小学校での口腔保健教育(NGO活動のブリーフィング含む)(2日間)

※調整中

【履修上の注意事項】

コミュニティ口腔保健実習指導を履修し、単位認定を受けているもののみを受講対象者とする。

毎日の事前ミーティング(30分)により活動内容の確認を行い、事後ミーティング(30分)では実習成果を発表して記録にまとめる。

【評価方法】

実習中の活動評価(実習課題の達成度、態度)70%、最終報告レポート30%の割合で評価する。

フィードバックとして発表時およびレポートにコメントする。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

ライフステージ口腔保健実習指導

担当教員 石井 里加子、松尾 文、未定、松本 鈴子、島村 美香

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本実習指導では、各ライフステージ（産科、緩和ケア）において口腔保健という視野から人々の多様な健康観の理解を深め、対象者の効果的な口腔保健教育と支援方法を検討し、健やかな顎口腔機能の発育・発達ならびに生活の質の維持向上に貢献する技術と態度を習得する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|---------------------------------|---------------|
| 1 | ライフステージ口腔保健の概要を理解する | (石井、松尾、志垣) |
| 2 | 妊産婦期の歯科保健対策について理解する | (松尾、石井、志垣) |
| 3 | 歯・口腔の発育と母子の歯科保健について説明できる | (石井、松尾、志垣) |
| 4 | 妊産婦、新生児（乳児）の特徴を理解する | (松本) |
| 5 | 妊産婦、新生児（乳児）への保健指導を学ぶ | (松本) |
| 6 | 産科におけるニーズを挙げ、口腔保健指導の要点について説明できる | (松尾、石井、志垣) |
| 7 | 妊産婦指導、乳幼児指導の教育媒体を作成する | (松尾、石井、志垣) |
| 8 | 教育媒体を使用した口腔保健指導（ロールプレイ）を体験する | (松尾、石井、志垣) |
| 9 | 緩和ケアの概念を理解する | (島村) |
| 10 | 緩和ケアを必要としている人とその家族のニーズと看護ケアを考える | (島村) |
| 11 | 痛みのマネージメントを学ぶ | (島村) |
| 12 | 緩和ケア病棟で協働する他職種の役割を学ぶ | (未定、石井、松尾、志垣) |
| 13 | 緩和ケアにおける基礎知識を理解し、口腔のケアの方法を習得する | (志垣、石井、松尾) |
| 14 | 食事介助の方法を習得する | (石井、志垣、松尾) |
| 15 | リスクマネージメントについて学ぶ | (石井、志垣、松尾) |

【履修上の注意事項】

授業は、事前学習（30分程度）を行い積極的な態度で臨む。講義や実習後は、授業内容を振り返り、自身の課題を明確にし次の授業に臨む（60分）。

【評価方法】

レポート30%，課題や作成媒体70% による総合評価。
レポートや課題のフィードバックとして、コメントまたは事後解説する。

【テキスト】

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版
講義中に資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介。はじめて学ぶ歯科衛生士のための歯科介護第3版，最新歯科衛生士教本高齢者歯 第2版 医歯薬出版

ライフステージ口腔保健実習

担当教員 石井 里加子、松尾 文、未定

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々の各ライフステージの各段階や諸相において適切にケアをとらえ、その人に相応しい豊かな健康や生活の実現を支援する能力は、口腔保健専門職にとって必須である。とりわけ人間にとって最大のイベントである“誕生”と“人生”の終末期において人生と健康の関わりを深く見つめる洞察力と人々の生の営みに関わり続けようとする態度の涵養は口腔保健専門職にも必須である。口腔保健という視点から人々の多様な健康観の理解を深め、健やかな顎口腔機能の発育・発達ならびに生活の質の向上を支援する口腔保健専門職の技術と態度を習得する。

【授業の展開計画】

実習施設：産婦人科診療所および緩和ケア病棟を設置する病院

1) 産婦人科診療所

妊産婦自身が口腔保健に関する知識や技術、態度を修得する過程に口腔保健専門職として関わり、母子における口腔保健、口腔機能発達・維持という視点から口腔保健指導や離乳食等の食事指導を実施することにより、妊産婦ならびに児の健やかな口腔の健康を支援する能力と態度を養う

- ・実習概要および施設概要の説明
- ・事前指導：口腔保健教育指導演習、実習施設でのオリエンテーション
- ・実習（2日）
- ・事後指導

2) 緩和ケア病棟を設置する病院

緩和ケアを必要としている患者は全身状態の低下、口腔機能ならびに自浄作用の低下により生活(QOL)の質の低下に繋がりがやすい。緩和ケアを必要としている患者の全人的苦痛ならびに家族を理解するとともに終末期を自分らしく生き抜こうとする患者に寄り添い、患者の自己実現と生活の質を口腔保健という視点から支援できる能力を養う

- ・実習概要および施設概要の説明
- ・事前指導：緩和ケアを必要としている患者の口腔の特徴の理解、口腔ケア演習
- ・実習（2日）
- ・事後指導

【履修上の注意事項】

ライフステージ口腔保健実習指導の単位を修得し、事前指導を全て受講すること。ライフステージ口腔保健実習指導の講義・演習であがった学習課題、目標を達成するための事前学習および作成した口腔保健指導媒体を熟達しておくこと。事後学習は学びの振り返りを行い学習成果をまとめる。

【評価方法】

実習記録・課題（30%）、指導者評価（40%）、最終報告レポート（30%）の総合評価。

【テキスト】

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版

【参考文献】

適宜紹介する。

国際協力論

担当教員 安藤 学、川原 英照、川原 光祐、久家 誠司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日、貧困・教育・紛争・環境破壊・エイズ・食糧問題など地球規模の諸問題はますます深刻な状況にあります。このような問題は、私たち日本人にとっても遠い国の問題ではありません。私たちも国際社会の一員として、世界の国々と協調連帯して国際協力を推進するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	国際協力とは何か(安藤)
2	政府開発援助(安藤)
3	政府開発援助の事例(安藤)
4	NGOにおける民間協力(安藤)
5	NGOにおける民間協力の事例(安藤)
6	技術協力の方法(川原光祐)
7	技術協力の方法の事例(久家)
8	参加型開発(久家)
9	参加型開発の事例(安藤)
10	国際協力の理念(久家)
11	国際協力の理念の事例(久家)
12	国際協力の事例(民間)(久家)
13	国際協力の事例(政府)(川原英照)
14	国際理解と支援活動(安藤)
15	今後の国際協力のあり方(安藤)

【履修上の注意事項】

オムニバスであるので、毎回の出席を心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート80% 授業への取り組み20%

【テキスト】

資料を準備する

【参考文献】

適宜紹介する

危機管理と災害支援

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろんな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までにいたる危機管理について学ぶ。

そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方について検討するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	危機とは何か
2	危険とは何か
3	危機管理とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間へのバランスと危機管理
10	地方自治体の危機管理
11	住民の
12	災害支援の方法（災害発生時）
13	災害支援の方法（自活生存）
14	災害支援の方法（避難救助）
15	危機管理をはじめよう

【履修上の注意事項】

授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート(80%コメントして返却します。) 授業への取り組み(20%)

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する

災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。

「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンタリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する。

【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担) 演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

【評価方法】

実技試験(80%)、演習態度(20%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

なし

養護概説

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の4機能を理論的に理解し、具体的な職務内容と方法論で実証し、学校経営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能するかを把握し説明できる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	養護の概念
2	養護教諭制度と歴史
3	養護教諭の専門性、養護教諭の倫理
4	養護教諭の活動拠点保健室—その役割と機能
5	養護教諭の活動拠点保健室—保健室経営計画
6	養護活動の過程
7	養護教諭の実践—1 健康実態・健康問題の把握（健康観察、保健調査）
8	養護教諭の実践—2 健康実態・健康問題の把握（健康診断）
9	養護教諭の実践—3 支援の方法（救急処置活動）
10	養護教諭の実践—4 支援の方法（健康相談）
11	養護教諭の実践—5 養護活動の展開
12	養護教諭の実践—6 環境整備（感染症予防、学校環境衛生）
13	養護教諭の実践—7 健康教育活動（保健指導、保健学習、保健便り）
14	養護教諭の実践—8 組織活動
15	養護教諭と研究

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

レポート15%、筆記試験85%として評価

【テキスト】

- ・新訂 養護概説 編集代表 三木とみ子 ぎょうせい
- ・「新訂版学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規

【参考文献】

冊子「学校保健」松本敬子編、「養護教諭の授業づくり」松本敬子他 東山書房

看護学各論

担当教員 吉岡 久美

配当年次 2年

単位区分 要件外

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生活者に発生する疾患や症状の理解を深め、看護の視点や方法について学習することを目的とする。また、養護教諭の職務の一領域である学校看護に必要な看護学を学ぶ。学校看護は、児童・生徒の生命を守り、健康の維持・増進を図ることを目的とし、また重要な教育活動である意義を理解する。心身のメカニズム、疾病・異常など、臨床看護実習にも必要な知識・技術を習得するとともに、これらを学校看護の教育としての独自性の中にかすことを学ぶ。

【授業の展開計画】

科目担当者実務経験

【吉岡】大学病院（看護師）、一般病院（看護師長）、訪問看護ステーション（訪問看護師・管理者）

週	授 業 の 内 容
1	看護の基礎と看護行為の基本、疾病の経過や治療処置に伴う看護の理解を深める
2	循環器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
3	呼吸器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
4	消化器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
5	造血器系疾患、内分泌疾患・代謝系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
6	泌尿器・生殖器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
7	運動器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
8	脳神経系疾患、精神系疾患の発生機序とその看護を理解する
9	感覚器系疾患に関する病態とその看護を理解する
10	救命救急看護を理解する
11	発熱・腹痛・頭痛・嘔気嘔吐・呼吸困難・けいれんなどの症状別看護を理解する
12	小児看護と母性看護を理解する
13	思春期看護、障害のある方への看護を理解する
14	老年、精神看護を理解する（在宅を含む）
15	ターミナルケアからグリーフケアまでの重要性を理解する

【履修上の注意事項】

事前学習として、それぞれの単元で扱う項目に関する事柄を、テキストから拾い上げておき、講義に臨むこと。
事後学習では、講義終了後にノートをまとめなおし、関連する疾患や状態像と合わせて理解を深めること。
（事前事後学習で60分程度）

【評価方法】

課題の提出等 20%
筆記試験（小テスト含む）80%
提出された課題レポートについてはコメントを入れて返却する

【テキスト】

養護教諭のための看護学 改訂版 藤井寿美子他 大修館書店

【参考文献】

基礎看護技術

担当教員 吉岡 久美、柴田 恵子、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

養護教諭に必要な看護技術の基礎知識を習得することを目的としている。

1. 健康の回復、維持増進を図るための看護技術を実践できる。
2. 看護の基礎技術を学習し習得することで、援助過程での活用の意義を説明することができる。

【授業の展開計画】

科目担当者実務経験

【吉岡】 大学病院（看護師）、一般病院（看護師長）、訪問看護ステーション（訪問看護師・管理者）

【柴田】 基礎看護学分野教員

【新】 基礎看護学分野教員 看護師経験

週	授 業 の 内 容
1	病床環境調整の必要性とその方法について学習し実践する。（吉岡）
2	生命の兆候を観察する技術を知り、バイタルサインの示す意味と測定方法を習得する。（吉岡）
3	安全を守る技術を習得し、安楽な体位を理解して移動等の支援の実践方法を習得する。（柴田）
4	運動と休息の影響を理解し、体位、運動の援助方法を習得する。（柴田）
5	栄養管理を含めた食事の重要性を理解し、形態、摂取方法について理解する。（吉岡）
6	排泄の意義・目的を理解し、その管理方法と援助について実践する。（柴田）
7	身体の清潔の目的を理解して、衣服管理・交換方法を含めた援助を実践する。（柴田）
8	身体の清潔の目的を理解して、身体保清の具体的方法を習得する。（新）
9	褥瘡の適応を理解して実践し、安楽かつ快適さを確保する技術を習得する。（吉岡）
10	検査・治療を安全かつ正確に行う技術を理解し、対象者の理解と看護の役割を知る。（新）
11	感染の具体的予防としての管理方法、清潔操作、創傷管理等を実践する。（吉岡）
12	与薬についての知識を深め、薬剤の管理と投与方法を理解する。（新）
13	安楽な呼吸のための吸引、吸入の目的と種類を理解し、手技と管理方法を習得する。（吉岡）
14	救急救命処置の技術を理解し、緊急時の判断ができる能力を習得する。（吉岡）
15	危篤・終末時の心理・生理的变化を踏まえて死を迎える時の援助を習得する。（吉岡）

【履修上の注意事項】

- ・演習は動きやすい服装（ジャージ等）と靴を準備すること
- ・準備物等は掲示板にて連絡するため、確認しておくこと
- ・講義および演習の構成上、展開計画の流れが変更となることがあるが、事前に掲示するため注意し、十分に事前学習をしてレポート作成すること
- ・事後学習では、関連する疾病や状態像と合わせて理解を深め、課題に取り組むこと。（事前事後60分）

【評価方法】

筆記試験 70% 学習への取り組み, 課題の提出 30%

提出された課題レポートについてはコメントを入れて返却する

【テキスト】

基礎看護技術（メディカ出版）

【参考文献】

養護教諭講座3 新版 基礎看護学（東山書房）

臨床看護実習

担当教員 吉岡 久美、古賀 由紀子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護学・基礎看護技術で学習した知識・技術をもとに病院臨床の場でさらに観察し、実際に行ってみることにより看護の理解を深める。

学校保健活動及び養護教諭の職務、養護実習との関連を考え、臨床看護実習の意義を理解し説明できる。

【授業の展開計画】

科目担当者実務経験

【吉岡】大学病院（看護師）、一般病院（看護師長）、訪問看護ステーション（訪問看護師・管理者）

1. 病院施設、機構、環境、設備を理解する
病院における検査機器、医薬品の取り扱い
2. 疾病理解とその対応
様々な疾病について知り、それぞれの疾病に応じた対応を理解する
3. 対象を理解し、適切なコミュニケーションをはかる
患者理解とその対応、医療従事者への連絡・報告
4. 看護業務を観察し、可能なことを実施する（指導者監督下）
 - ①観察と測定
情報収集 バイタルサインのチェック
 - ②環境整備
施設、環境、設備の理解と整備 ベッドメイキング
 - ③日常生活の援助
体位変換、病衣・シーツ交換、全身清拭、先発、入浴等介助、航空の清潔、食事介助、経管栄養摂取、排せつ介助
 - ?処置
診察解除、予約、咽頭全吸引、導尿、包帯法
 - ⑤清潔操作
滅菌器具及び物品の取り扱い など

【履修上の注意事項】

- ・実習事前指導に出席すること
- ・事前学習として、これまで学んだ解剖生理、病態、医学一般、看護学各論、基礎看護技術、薬理学等を中心に復習しておくこと
- ・事後学習では、報告会での他実習先での学びを振り返り、体験できなかった技術や対応について、その方法・留意点をまとめること（事前事後120分）

【評価方法】

実習成績（90%）・・・実習病院等の評価
実習態度、看護実習レポート、カンファレンスへの参加や学内実習態度（発表）の積極性（10%）

レポートについてはコメントを入れて返却する

【テキスト】

実習要項、実習資料

【参考文献】

基礎看護技術 メディカ出版

教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教員の身分と役割，義務と裁量権について理解する。
- 2 最近の，教員を取り巻く状況や課題について理解する。
- 3 教員に関わる教育制度，学校の組織構造，学級経営の現代的問題理解を通して，求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

授業においては，各回のテーマに関連のあるニュース等を資料にするなど，具体的な事象を基に考える場面づくりを設定する。

また，ペアによるディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進め，提示または配布した資料を基に自分の考えを導き出すような展開にする。

授業計画

- 第1回：教職とは何か 教師の役割と使命感
- 第2回：教職の意義と教員の立場
- 第3回：教員の服務義務（法的義務と現状）
- 第4回：教育をめぐる現状と求められるもの
- 第5回：社会と教員に求められる資質能力
- 第6回：校務分掌と教員の多様な仕事
- 第7回：教職員及び地域連携等によるチームとしての学校運営の在り方
- 第8回：一人一人の児童・生徒を守る教師
- 第9回：児童・生徒のための学校に
- 第10回：学校・家庭・地域の役割と連携
- 第11回：教員の資質の向上と研修制度
- 第12回：教員の専門性の向上 免許更新制と教職大学院
- 第13回：教員の不祥事とその背景にあるもの
- 第14回：任命権者と教員採用の在り方
- 第15回：教職への道

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
- 2 すべてペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回，資料（学習プリント）を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

教育原理

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1) 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
- 2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
- 3) 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方について
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	教育における家庭の役割
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教育行政の基本概念を理解し，教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
- 2 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則，及びその意義を理解する。
- 3 学校教育における具体的な事例について，その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

【授業の展開計画】

学校教育における様々な場面において，事例や判例を基に，学校教育に関する様々な場面や課題を想定し，その実態と問題点に視点を向けさせる。

次に，その根拠となる関連法規や資料を判断基準として，実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

授業計画

第1回：学校教育制度の目的と構造

第2回：教育行政① 教育委員会の組織・機能，教職員の人事権

第3回：教育行政② 学校選択制の拡大，教育振興基本計画

第4回：学校組織① 校長の職務と権限と職員会議の機能

第5回：学校組織② 校長，副校長，教頭の資格要件とその緩和

第6回：学校組織③ 養護・栄養・図書教諭等の職務

第7回：学校組織④ 学校とそれを取り巻く地域との連携

第8回：教職員① 学校教育活動の計画と評価

第9回：教職員② 教員免許更新制と教職大学院の役割・機能

第10回：教育課程① 学習指導要領の法的拘束力と基準性

第11回：教育課程② 学習指導要領とその改訂

第12回：教育課程③ 教科書採択制度

第13回：児童・生徒への対応① 登下校時を含む安全の確保と現代的課題

第14回：児童・生徒への対応② 学校事故における法的責任

第15回：児童・生徒への対応① 懲戒の範囲と体罰，出校停止

定期試験 試験期間中に実施

・知識・理解（基本的事項や学習指導の理解），学んだことを学習指導に生かす姿勢

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。

再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

教育課程論

担当教員 未定

配当年次 1・2年

開講時期 第1・2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 1年生は第2学期、2年生は第1学期に受講すること

【授業のねらい】

- 1) 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。
- 2) 教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
- 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法
10	児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画
11	学校教育課程全体のマネジメントおよび学習指導要領に規定する教育課程のマネジメント
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

期末試験70%＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】

『学習指導要領』

道徳教育論

担当教員 未定

配当年次 4年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法を理解する。
- 2 学習や学校生活における様々な場面に対する対応方法について理解する。
- 3 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用できるようになる。

【授業の展開計画】

授業の概要

まず、教育における方法論的な立場から、教育方法の歴史や組織面(形態)及び改革等について学ぶとともにその成果の評価について学習する。

次に、学習指導案を作成するために必要な多面的な視点をもとに、学習指導案を作成するための知識と技術を習得する。

さらに、教育効果を高めるために、各種情報機器の必要性を理解するとともに、その有効活用ができる知識と技術を習得する。

授業形態は講義とするが、ペア等によるディスカッションを随所に取り入れ、特に、資料(動画や図表等)から読み取る目を育てることに力点を置く。

授業計画

第1回：授業のねらいと展開の方法

第2回：教育方法の歴史

第3回：教育方法の類型と特質

第4回：教育方法の改革と課題① 学力形成の方法論

第5回：教育方法の改革と課題② 学習の形態と、教師と子どもの関係性

第6回：教育方法の改革と課題③ 学習の成果とその評価

第7回：学習指導の実際① 学習指導案作成の手順と目標設定

第8回：学習指導の実際② 指導計画と本時のねらい

第9回：学習指導の実際③ 授業準備と学習活動における指導上の留意点

第10回：学習指導の実際④ 思考の流れを育てるための学習展開の方法

第11回：教育情報機器の活用① 教育情報機器の例とその効果

第12回：教育情報機器の活用② 五感に訴える資料の条件

第13回：教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法

第14回：具体的な場面における指導方法の実際① (生徒指導や生活に関する指導)

第15回：具体的な場面における指導方法の実際② (健康や安全に関する指導)

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%、課題提出20%、期末試験40%で評価する。

再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料(学習プリント)を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

生徒指導論

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 生徒指導の意義や原理を理解する。
- 2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
- 3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生徒指導の今日的な意義と課題
2	教育課程における生徒指導の位置付け
3	各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
4	集団指導・個別指導の方法原理
5	生徒指導体制と教育相談体制
6	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
7	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
8	児童生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
9	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
10	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
11	生徒理解のための方法と技術
12	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
13	進路指導の内容と計画
14	キャリア教育と生徒指導・進路指導
15	コミュニケーションと生徒指導—子どもの自己肯定感を高めるために

【履修上の注意事項】

授業内に課される活動には、積極的に参加をすること。
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（60％）、小レポート（40％）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいか説明できる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験
三津家：スクールカウンセラーとして公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方、教育相談の位置付け、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

レポート等20%、試験80%により評価

【テキスト】

特になし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

「改訂版心理臨床の基礎」小野けい子編著 放送大学教育振興会
「学校でフル活用する認知行動療法」 神村栄一著 遠見書房

教職実践演習(養護教諭)

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

養護実習(事前事後指導含む)

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、未定、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

学校教育の心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学校教育の現場における現象を、発達心理学・教育心理学的見地を中心に考える。また教育現場に必要な心理学的視点を養い、学校現場への理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション：21世紀の学校教育が目指すもの
2	学習理論と学習評価：新しい学習と評価の考え方
3	学習指導と学習評価：具体的指導と評価
4	カリキュラムと教授法：学習のスタイル
5	発達に関する基礎理論：アタッチメント、ピアジェ、生態学的発達モデル
6	子どもを理解する基礎知識：ことば・身体と発達
7	子どもを理解する基礎知識：数概念・社会的知識・道徳性と発達
8	子どもたちへの支援①：社会的背景、特別な支援が必要な子どもたち
9	子どもたちへの支援②：学校教育相談、スクールカウンセリング、スクールカウンセラーとの連携
10	子どもたちへの支援③ストレスマネジメント、共同学習、キャリア教育
11	学級集団の心理学①：社会的態度、対人関係、特別なニーズを必要とする児童・生徒
12	学級集団の心理学②：集団の意義としくみ、学級崩壊と学級支援
13	教師と子どもの人間関係：ほめ方叱り方とコミュニケーション
14	学校組織と教師集団：学校という文化と学校支援
15	社会における学校：学校組織の適応と健康、地域との関係

【履修上の注意事項】

習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。復習においては、キーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、レポートにて評価する。フィードバックについては希望者に対し個別でレポートのコメントを行う。

【テキスト】

「よくわかる学校教育心理学」 森 敏昭編 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜紹介する

特別支援教育総論

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

特別支援教育の意義や目的を理解し、学習面、行動面などに困難を抱える子どもの理解を、発達心理学的観点から理解し、それぞれの発達段階や特性に応じた教育および支援の在り方を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：特別支援教育の概要と中教審「特別支援教育推進について」
2	特別支援教育と発達臨床心理学的考え方
3	読み書き計算などに制約がある子どもの理解
4	読み書き計算などに制約がある子どもの支援の考え方
5	注意集中力などに制約がある子どもの理解
6	注意集中力などに制約がある子どもの支援の考え方
7	社会性の発達などに制約がある子どもの理解
8	社会性の発達などに制約がある子どもの支援の考え方
9	貧困や母国語など社会問題等によって発達に課題を抱える子どもの理解
10	教育課程の中の特別支援教育の理解
11	特別支援教育に関わるアセスメントについて
12	発達に制約がある子どもの二次障害への理解
13	不登校の理解と支援
14	虐待が発達に及ぼす影響の理解と支援
15	学習面、行動面に困難を抱える子どもを支える専門機関の理解

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を読んでおくこと。復習時には、キーワードを自分のことばで説明できるようになっておくこと。

【評価方法】

授業内での参加態度（20%）、試験（80%）で評価する。フィードバックについては模範解答を示し、希望者には個別に評価内容を伝える。

【テキスト】

はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために 改訂版（有斐閣アルマ）

【参考文献】

講義時に、適宜紹介する。